

事業報告書

平成21年度

(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

学校法人 慈恵大学

目 次

以下の各目次をクリックすると、該当ページへ移動することが可能です。

I. 学校法人慈恵大学	
1. 慈恵大学行動憲章	2
2. 慈恵大学行動規範	2
建学の精神・病院の理念・病院の基本方針	3
3. 慈恵大学の沿革	4
4. 設置する学校・学部・学科等	4
5. 平成21年度事業報告	5
1) 平成21年度の事業概要	5
2) 主な建設工事	8
6. 平成21年度決算	10
7. 関連当事者等との取引等の状況	16
8. 学校法人慈恵大学の体制	17
1) 学校法人慈恵大学	17
2) 東京慈恵会医科大学	17
3) 看護専門学校	17
9. 学校法人慈恵大学組織図	18
10. 理事会	19
11. 評議員会	23
12. 監査室	23
II. 東京慈恵会医科大学	
1. 教授、その他の人事	26
1) 平成22年3月31日退任教授	26
2) 新任教授	26
3) 新任客員教授	26
4) 特任教授	26
5) 叙位・叙勲	27
6) 訃報	27
2. 教職員数	28
1) 教員数（医学科・看護学科）	28
2) 初期臨床研修医数	28
3) 職員数（看護師を含む）	28
4) 看護師数	28
3. 教 育	29
1) 医学部医学科学生数など	29
2) 医学部看護学科学生数など	29
3) 大学院学生数（医学系専攻博士課程）	30
4) 大学院学生数（看護学専攻修士課程）	30
5) 大学および大学院など	30
(1) 医 学 科	30
(2) 看護学科	34
(3) 大 学 院	35

6)	慈恵看護専門学校	36
	看護専門学校学生数	36
(1)	慈恵看護専門学校	37
(2)	慈恵青戸看護専門学校	38
(3)	慈恵第三看護専門学校	39
(4)	慈恵柏看護専門学校	39
7)	卒後臨床研修	41
8)	生涯学習センター	42
4.	研 究	44
1)	教育研究助成委員会・大型プロジェクト対策委員会・発明委員会	44
2)	総合医科学研究センター	45
5.	診 療	48
1)	病院概況	48
(1)	本 院	48
(2)	青戸病院	54
(3)	第三病院	57
(4)	柏 病 院	60
(5)	総合健診・予防医学センター	62
(6)	病床数および外来患者数	64
2)	派遣・関連病院関係	64
(1)	大学協力病院	64
(2)	教室等関連病院	65
(3)	特殊派遣機関	67
(4)	特殊派遣機関（海外派遣機関）	67
6.	学術情報センター	68
7.	教育センター	70
8.	その他	72
1)	成 医 会	72
2)	各種行事	73
3)	印刷物等の発行	73
〔付〕		
1.	平成21年度 事業計画に対する実施結果一覧	75
2.	中期目標・中期計画・平成22年度事業計画	95

I . 学校法人慈惠大学

1. 慈恵大学 行動憲章

H16. 9. 24 制定

H17. 2. 24 改正

慈恵大学は、創立以来築いてきた独自の校風を継承し、社会に貢献するため、建学の精神に基づいた行動憲章を定めます。

全教職員は本憲章を遵守し、本学の行動規範に従い社会的良識をもって行動します。大学役員は率先垂範し、本憲章を全学に周知徹底します。

1. 全人的な医療を実践できる医療人の育成を目指します。
2. 安全性に十分配慮した医療を提供し、社会の信頼に応えます。
3. 規則を守り、医の倫理に配慮して研究を推進し、医学と医療の発展に貢献します。
4. グローバルな視野に立ち、人類の健康と福祉に貢献します。
5. 情報を積極的に開示して、社会とのコミュニケーションに努めます。
6. 環境問題に十分配慮して、教育、診療、研究を推進します。
7. お互いの人格と個性を尊重し、それぞれの能力が十分に発揮できる環境の整備に努めます。

この憲章に反するような事態が発生したときには、大学は法令、学内規則・規程に従って真摯に対処し、社会に対して的確な情報の公開と説明責任を果たし、速やかに原因の究明と再発防止に努めます。また、本学の就業規則に則り役員を含めて厳正に処分します。

2. 慈恵大学 行動規範

H17. 3. 24 制定

H21. 4. 1 改定

(目的)

第1条 慈恵大学（以下「大学」という）が社会から信頼される大学となるために、本学に勤務する教職員すべてが、業務を遂行するにあたり、また個人として行動する上で遵守すべき基本的事項を明記した行動規範を定める。

(基本理念)

第2条 東京慈恵会医科大学の建学の精神、行動憲章および附属病院の理念・基本方針を日々の行動規範とする。

(法令の遵守)

第3条 本学の教職員は法令、学内規程などの規則を厳守し、「良き市民」として社会的良識をもって行動しなければならない。

(人間の尊重)

第4条 全ての人々の人格・人権やプライバシーを尊重し、いわれなき差別、セクシャルハラスメント、パワーハラスメントなどの行為を行ってはならない。

(取引業者との関係)

第5条 取引業者との取引に際しては、公正・公明かつ自由な競争を心がけ、職位を濫用して不利益をもたらしてはならない。また、不正な手段や不透明な行為によって利益を追求してはならない。

(反社会的勢力との関係)

第6条 社会秩序に脅威を与える団体や個人に対しては、毅然とした態度で臨み、一切の関係を遮断する。なお、患者対応についてはこの限りではない。

(過剰な接待接受の禁止)

第7条 正常な取引関係（患者関係含む）に影響を与えるような過剰な接待、または贈答の接受を禁止する。

(環境保護)

第8条 資源・エネルギーの節約、廃棄物の減少、リサイクルの促進などに努め、限りある資源を大切にするとともに、環境問題に配慮して行動するよう努めなければならない。

(公私の区別)

第9条 公私の区別をわきまえ、大学の定める規則等に従い、清廉かつ誠実に職務を遂行しなければならない。

(日常の業務処理)

第10条 業務上知り得た情報や文書などは、業務目的以外に使用したり、漏洩してはならない。

また、個人情報を含めた秘密の情報や文書などを厳重に管理しなければならない。

2. 法令および就業規則などに基づき、常に災害の防止と衛生の向上に努めなければならない。

3. 大学の財産を私的、不正または不当な目的に利用してはならない。

4. 会計処理にあたって、不明朗、不透明な処理を行ってはならない。

(虚偽の報告・隠蔽)

第11条 学内はもとより学外に対して、虚偽の報告をしたり事実を不正に隠蔽してはならない。

(教育・指導)

第12条 各職位にある者は、自ら本規範を遵守するとともに、所属教職員が本規範を遵守するように、適切な教育と指導監督する責任を負う。

(告発)

第13条 教職員または取引業者は、この行動規範に違反するような事実を確認した場合は、提案(告発)窓口にて提案することができる。

2. 提案者(告発者)については、氏名秘匿などプライバシーを保護する。

(監査・報告)

第14条 監査室長は、本規範の遵守状況について監査し、監査結果を理事長に報告する。

(違反の処理)

第15条 教職員が本規範に違反した場合は、事実関係を慎重かつ厳正に調査の上、就業規則に則り懲戒する。

附 則 1. 本規範は、平成21年4月1日から実施する。

2. 各職位は、取引業者等に対して本規範の趣旨に従い行動するよう指導するものとする。

【建学の精神】

「病気を診ずして 病人を診よ」

私達は病気の治療のみではなく、病者の不安や悩みなどを取り除き、つねに患者さんのための真の医療を考えております。

また、病者の痛みに共感することができる「医の心」を持つ医師と「看護の心」を持つ看護師の養成をめざしております。

【病院の理念】

「病気を診ずして 病人を診よ」の教えに基づき、質の高い医療を実践し、医療人を育成することにより、社会に貢献し、患者さんや家族から信頼される病院をめざす。

【病院の基本方針】

1. 患者さんや家族が満足する良質な医療を実践する。
2. 先進医療の開発・導入など、日々、医療水準の向上に努める。
3. 優れた技能を身につけ、豊かな人間性と倫理観を兼ね備えた医療人を育成する。
4. 地域社会と連携し、きめ細かな医療サービスを提供する。
5. 全職員が誇りをもって働ける職場づくりを実践する。

3. 学校法人慈恵大学の沿革

年 月	学校法人・学校・学部・学科・課程等の新增設等
明治14年 5月	成医会講習所を開設した
明治23年 1月	成医会講習所を成医学校に改める
明治24年 9月	成医学校を改め、東京慈恵医院医学校となる
明治36年 6月	専門学校令により私立東京慈恵医院医学専門学校となる
明治41年 5月	東京慈恵会が設立され東京慈恵会医院医学専門学校と改称した
大正10年10月	財団法人東京慈恵会医科大学を設置した
大正10年10月	大学予科を新設した
大正11年 2月	東京病院（開設：明治24年 2月）を附属病院とした
大正14年 3月	東京慈恵会医院医学専門学校自然廃校とした
昭和19年 4月	東京慈恵会医科大学附属医学専門部を開設した
昭和19年 4月	中川堤診療所（入手：昭和18年）を総合病院とし、東京慈恵会医科大学附属青砥分院（現：附属青戸病院）を開設した
昭和25年11月	東京慈恵会医科大学附属第三分院（現：附属第三病院）を開設した
昭和26年 3月	大学予科を閉校した
昭和26年 3月	財団法人東京慈恵会医科大学は、学校法人慈恵大学に変更。同法人が東京慈恵会医科大学を経営する
昭和27年 3月	附属医学専門部を閉校した
昭和27年 4月	学制改革により医学専門課程をもつ新制大学として発足した
昭和31年 4月	大学院医学研究科を開設した
昭和35年 4月	医学科（入学定員80名）を調布市国領町に開設し、6年制の一貫教育を開始した
昭和39年 4月	医学科の入学定員を100名とした
昭和46年 4月	慈恵第三高等看護学院（現：慈恵第三看護専門学校）を開設した
昭和50年 4月	医学科の入学定員を120名とした
昭和50年 4月	慈恵青戸高等看護学院（現：慈恵青戸看護専門学校）を開設した
昭和62年 4月	東京慈恵会医科大学附属柏病院を開設した
昭和62年 4月	慈恵柏看護専門学校を開設した
平成 4年 4月	医学部看護学科（定員：30名）を調布市国領町に開設し、4年制の一貫教育を開始した
平成 4年 4月	医学科の入学定員を100名とした
平成14年 4月	慈恵医大晴海トリトンクリニックを開設した
平成19年 4月	看護学科の入学定員を40名とした
平成21年 4月	医学科の入学定員を105名とした
平成21年 4月	大学院医学研究科看護学専攻修士課程（定員：10名）を開設した
平成22年 3月	慈恵青戸看護専門学校を閉校した

4. 設置する学校・学部・学科等

設置する学校	開校年月	学部・学科等	摘要
東京慈恵会医科大学	昭和31年 4月	大学院医学研究科博士課程	
	平成21年 4月	大学院医学研究科看護学専攻修士課程	
	昭和27年 4月	医学部医学科	
	平成 4年 4月	医学部看護学科	
慈恵青戸看護専門学校	昭和50年 4月	3年課程	平成22年 3月閉校
慈恵第三看護専門学校	昭和46年 4月	3年課程	
慈恵柏看護専門学校	昭和62年 4月	3年課程	

5. 平成21年度 事業報告

理事長 栗原 敏

1) 平成21年度の事業概要

〔基本方針〕

平成21年度は下記の項目を基本方針と重点施策として取り組んだ。

1. 法令遵守の徹底

- ・教職員の法令遵守精神を向上させる。
新入職員オリエンテーションおよび臨床研修医のオリエンテーションにおいて「新入職員研修の手引き」や「マナーハンドブック」を利用して大学行動憲章と行動規範の周知徹底を図った。
また、全学的に公益通報制度を再徹底した。

2. 医療安全の推進

- ・医療安全体制を検証し、より良い医療安全システムを構築する。
 - ① 平成18年5月より東京大学（飯塚教授、水流教授）、早稲田大学（棟近教授）、本学で、システム工学の視点から医療安全へアプローチする共同研究を継続し、医療安全に取り組んだ。その成果をもとに病院管理学会でプロセスの構造的可視化を通じた点滴業務の改善への取組みを発表、医療の質・安全学会では不具合事例分析手法の検討（RCA、プロセスフローチャート）を発表した。
 - ② フロアリスクマネージャーが「医療安全ラウンド自己評価表」による現場の点検と相互ラウンドを実施している。また、多職種のフロアリスクマネージャーによるRCA分析チームを編成し、事例分析と対策立案を実施した。
 - ③ 全国の私立医大病院相互ラウンドの基準となるチェックリストを作成した。
病院機能評価 Ver. 6の「患者の安全確保」の視点と「院内暴力」もラウンド点検項目に加えた。
 - ④ 私立医大医療安全連絡会議では、メディエーター研修や外部企業の安全啓発センター見学など医療安全に関する多角的知識を深めるための活動を広げている。
 - ⑤ 医療安全体制の理解と教育のために、推進週間を活用し研修医へ医療問題事例の報告を依頼した。新規採用医師に対しては、医療安全推進室に来室させ、直接、医療安全に関する教育を行う体制を整備した。

3. 質の高い医療人の育成

- ・卒前教育の改善と充実を図る。
医学科ではコース責任者によりカリキュラムの点検評価を行い導入効果の検証を行った。
看護学科新カリキュラムは平成21年度入学生から実施した。また、教養教育のあり方についても検討を進め、医学科では将来的に上位学年に選択科目として導入することとした。
- ・卒後教育を改善して研修医とレジデントの応募者増を図る。
平成22年度採用者の募集に際し、各科毎のホームページを立ち上げレジデントに関するプログラムを詳細に掲載した。
- ・大学病院連携型高度医療人養成推進事業に参画する。
平成20年度に採択された「自立した専門医を育むオール北海道プラス1」では北海道の3医育大学病院と本学が連携・協力し、プライマリケア能力と専門領域の診療能力を兼ね備えた専門医の育成に貢献した。
平成20年度に採択された「東京都内4医療系大学連携によるカリキュラム開発と地域医療者生涯学習コース提供」では本学はカリキュラム開発と地域医療者生涯学習コースを担当し4大学協働で実施した。
- ・看護学科および看護専門学校は、協力して卒業時の技術到達目標に関する評価を周知する。

「慈恵看護教育あり方検討会」において、情報交換や検討を行い、慈恵における卒業時の技術到達目標を相互に理解した。看護学科では、目標に基づき看護技術ステップアップノートを導入し、評価の指針を周知した。

- ・看護学専攻修士課程における高度実践看護師のためのプログラムの充実を図る。
看護学専攻修士課程は平成21年度に開設され、高度実践看護師育成のための教育を開始した。

4. 安定した財政基盤の構築

- ・医療収入の増加と医療経費の削減を図る。
医療構造分析・適正化タスク・フォースが後発薬品導入、クリニカルパスの改善等を検討、実行した。青戸病院、第三病院、柏病院では分析ソフトおよびコンサルタントを活用し、疾病別DPC結果等をもとに収入改善および経費削減に取り組んだ。
- ・大学における経費の点検を行う。
医療材料、消耗品については慈恵実業に集約し、4病院医療材料物流検討ワーキング・グループで使用量把握と標準化による経費抑制を行った。また省エネプロジェクト委員会を発足し、各施設の点検、省エネ対策、他施設とのベンチマークや啓蒙活動を実施した。
- ・機関別の中期財務計画を策定する。
財務委員会において予算実績管理を強化し、将来の大型事業計画のための中・長期資金計画を策定した。
- ・収支状況の月次把握ができるようにする。
新財務システムの導入により発生主義での資金収支状況の把握は可能となった。今後、委託費等の当月支出の確認を早め、早期に月次把握が出来るようにする。
- ・青戸病院、第三病院の収支構造の改善を図る。
青戸病院では病院運営会議、DPC対策委員会、リニューアルTF等で新病院に向けた経営改善・改革プラン（PFM）を検討し実施した。
第三病院では院内に組織横断的なプロジェクトチームを設置し包括項目についてジェネリックの使用促進、高額検査リスト作成による情報提供を行った。また手術原価管理システムを導入し術式別原価管理システムを策定中である。
- ・柏病院の施設整備強化により収益増を図る。
ICUは7床から14床に増床し、手術室は8室から10室に増室した。手術室業務改善小委員会を設置し病院機能拡充について検討している。

5. 医学・看護学研究の推進

- ・各講座を中心に行われている特色ある伝統的研究と共に先進的研究を推進する。
平成21年度先端医療開発特区（スーパー特区）に採択されたME研究室の「急性期脳梗塞早期系統的治療のための分野横断的診断治療統合低侵襲システムの開発」について学外との連携を高めて実用化を目指している。
- ・研究推進のための競争的研究資金の獲得を目指す。
「私立大学等戦略的研究基盤形成支援事業」の平成22年度応募に向けて、学内応募を行った結果4件応募があった。うち1件を申請研究プロジェクトとして採択し平成22年度計画事業として予算化した。また、科学研究費補助金の獲得に努め、取得件数、金額共に大幅に増加することができた。
- ・医療現場と連携して看護学研究を振興する。
実習教育、シミュレーション教育との区分および関連について検討・整備した。
- ・臨床研究を推進するための体制を整備する。
本学の特色ある研究の推進、臨床研究の活性化のため「分子疫学研究室」「臨床疫学研究室」を設置した。両研究室は臨床疫学・分子疫学という特徴を活かし、学内講座や他研究室と連携を図った。

6. 広報活動の充実

- 広報誌、ホームページを充実させて、本学の教育・研究内容などを社会にアピールする。また、病診連携、病々連携、同窓会への情報発信に活用する。

本学の社会貢献、研究成果、医療貢献に関して、オールユーザーメールや情報掲示板を活用した学内外への情報周知の仕組みが確立されたことにより、情報収集体制の整備が進んだ。

同窓、教職員、学生父兄、関連医療機関等へは「The JIKEI」の発刊や「慈大新聞」に寄稿する等情報発信を行った。広報誌、ホームページの充実に向けて平成22年度に継続検討を行う。

7. 第三者機関による認証評価を受ける。

- ① 大学基準協会による書面評価および実地視察の結果、「大学基準適合」の認定評価を受けた。
- ② 附属病院(本院)が日本医療機能評価機構による病院機能評価 Ver6.0を受審し、「認定医療機関」の認定を受けた。
- ③ 新橋健診センターが日本人間ドック学会による評価を受審し、「機能評価認定施設」の承認を受けた。

8. 青戸病院、第三病院、柏病院に DPC 対応を推進する。

分析ソフトおよびコンサルタントを活用し、疾病別に DPC に対応した改善策の検討を行い、一定の成果を得た。

9. 青戸新病院着工の具体的な準備を進める。

平成21年7月28日に開発行為、平成21年11月16日に総合設計、平成22年1月26日に建築確認が許可となり、平成22年1月29日に実施設計が完了した。平成22年1月26日には起工式を行い、平成22年2月1日より本工事を開始した。

タスク・フォース活動が有効に機能しており、青戸病院リニューアル計画は順調に進められている。

10. 本院外来棟建築に関する検討を開始する。

本院の外来機能のコンセプトを策定するため本院外来棟建築準備小委員会を設置し「医療環境の変化」「慈恵大学のコンセプト尊重」「西新橋エリア全体の将来構想」「建築構想」等および附属4病院間の連携や臨床研究との連携、医局棟のあり方について検討した。

2) 重要な契約 (8件)

- ① 慈恵医大青戸病院建替えに係る施行協定
(葛飾区、平成21年5月2日付)
- ② 青戸病院建替えにおける実施設計・監理・施工に関する基本合意
(三菱商事株式会社、平成21年4月28日付)
- ③ 青戸病院建替えに伴う ESCO 事業に関する基本合意
(三菱商事株式会社、平成21年4月28日付)
- ④ 土地賃貸借契約
(葛飾区開発公社、平成21年10月19日付)
- ⑤ 工事請負契約
(三菱商事株式会社、平成22年1月29日付)
- ⑥ ESCO 資産割賦販売契約
(葛飾エネルギーサービス株式会社、平成22年1月29日付)
- ⑦ ESCO サービス及び設備管理業務委託契約
(葛飾エネルギーサービス株式会社、平成22年1月29日付)

- ⑧ 青戸六丁目地区区画道路の整備に関する施行協定
(葛飾区、平成22年3月31日付)

3) 21年度の主な建設工事

1. 法人事務局

- | | |
|-----------------------------|------------|
| ① 電話交換機用電源設備改修工事 | 平成21年5月完了 |
| ② 西新橋キャンパスネットワークシステム機器更新工事 | 平成21年12月完了 |
| ③ 高木2号館看護師寮内エアコン並びに照明器具更新工事 | 平成22年3月実施 |

2. 西新橋校

- | | |
|---|------------|
| ① 大学本館前棟2階慈恵大学スーパー特区共同利用実験室一部改修工事 | 平成21年6月実施 |
| ② 高木会館学術情報センター1階図書館閲覧室蛍光灯安定器寿命に伴う、電子式蛍光灯安定器リニューアル工事 | 平成21年11月実施 |
| ③ スーパー特区設備整備事業によるMRI設置に伴う大学1号館地下1階実験動物実験施設改修工事 | 平成22年3月完了 |
| ④ 大学本館前棟1階トイレ改修工事 | 平成22年1月実施 |
| ⑤ C棟7階スキルス・ラボ、教育センター、他移転改修工事 | 平成22年3月完了 |
| ⑥ 大学本館中央講堂座席テーブル後列(14列)天板他補修整備工事 | 平成22年3月完了 |
| ⑦ 西新橋校ホルマリン対策に伴う機器購入設置工事 | 平成22年3月完了 |
| ⑧ 大学本館後棟1階解剖学実習室内視聴覚設備更新工事 | 平成22年3月完了 |

3. 附属病院

- | | |
|----------------------------------|------------|
| ① 大学2号館地下1階女医ロッカー室整備工事 | 平成21年4月完了 |
| ② E棟1階医師当直室内シャワー設備増設工事 | 平成21年6月実施 |
| ③ ICU増床に伴う中央棟5階改修工事 | 平成21年7月完了 |
| ④ E棟3階5306号室増床工事 | 平成21年6月実施 |
| ⑤ 中央棟ゴンドラ設備整備工事 | 平成21年7月実施 |
| ⑥ 中央棟屋上冷却塔整備工事 | 平成21年7月実施 |
| ⑦ 外来棟4階病児預かり室設置工事 | 平成21年7月実施 |
| ⑧ E棟7階一般個室改修工事 | 平成21年9月実施 |
| ⑨ 中央棟地下3階廃棄物処理室整備工事 | 平成21年11月実施 |
| ⑩ 中央棟手術室ダウンフローユニット用HEPAフィルター取替工事 | 平成21年11月実施 |
| ⑪ 外来棟1階(C棟)リハビリテーション外来診察室改修工事 | 平成21年12月実施 |
| ⑫ 中央棟手術部3階・4階ホール入口カードキー設置工事 | 平成21年12月実施 |
| ⑬ 中央棟3階心大血管リハビリセンター設置工事 | 平成22年3月完了 |
| ⑭ 外来棟4階患者支援・医療連携センター拡張工事 | 平成22年3月完了 |
| ⑮ 中央棟非常用発電機始動用蓄電池更新工事 | 平成22年3月実施 |
| ⑯ E棟空調熱源用冷温水二次ポンプ運転制御方式改修工事 | 平成22年3月実施 |

平成21年度決算書

1) 平成21年度資金収支計算書

自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日

(単位：円)

支 出 の 部		収 入 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
人 件 費 支 出	35,697,171,609	学 生 生 徒 納 付 金 収 入	2,695,650,000
教 育 研 究 経 費 支 出	36,795,026,757	手 数 料 収 入	183,363,600
教 育 研 究 費 支 出	10,855,069,942	寄 付 金 収 入	968,934,102
医 療 経 費 支 出	25,939,956,815	補 助 金 収 入	3,687,769,000
管 理 経 費 支 出	3,109,605,874	国 庫 補 助 金 収 入	3,488,175,000
		地 方 公 共 団 体 補 助 金	199,594,000
		そ の 他 補 助 金	0
		資 産 運 用 収 入	201,585,752
		資 産 売 却 収 入	30,000
借 入 金 支 払 利 息 支 出	286,185,953	事 業 収 入	75,591,827,186
		医 療 収 入	75,115,703,297
借 入 金 返 済 支 出	3,049,600,000	雑 収 入	877,918,352
施 設 関 係 支 出	4,764,758,438	借 入 金 収 入	1,900,000,000
設 備 関 係 支 出	2,368,203,627	前 受 金 収 入	758,101,862
そ の 他 支 出	11,926,008,187	そ の 他 の 収 入	16,129,620,490
資 金 支 出 調 整 勘 定	-12,690,174,774	資 金 収 入 調 整 勘 定	-13,509,837,211
期 末 未 払 金	-12,690,174,774	期 末 未 収 入 金	-12,948,046,566
		前 期 末 前 受 金	-561,790,645
次 年 度 繰 越 支 払 資 金	38,054,274,275	前 年 度 繰 越 支 払 資 金	33,875,696,813
支 出 の 部 合 計	123,360,659,946	収 入 の 部 合 計	123,360,659,946

平成22年6月文部科学省へ提出

2) 平成21年度消費収支計算書

自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月 31日

(単位：円)

消費支出の部		消費収入の部	
科目	金額	科目	金額
人件費	35,663,265,357	学生生徒納付金	2,695,650,000
教育研究経費	41,085,845,418	手数料	183,363,600
教育研究経費	13,782,245,748	寄付金	1,030,825,197
医療経費	27,303,599,670	補助金	3,687,769,000
管理経費	3,515,201,738	国庫補助金	3,488,175,000
		地方公共団体補助金	199,594,000
		その他補助金	0
借入金利息	286,185,953	資産運用収入	201,585,752
		資産売却差額	30,000
資産処分差額	21,598,933	事業収入	75,591,827,186
徴収不能額	78,060,104	医療収入	75,115,703,297
徴収不能引当金繰入額	235,260,926	雑収入	1,132,920,623
		(うち徴収不能引当金戻入額)	(255,002,271)
消費支出の部合計	80,885,418,429	帰属収入の部合計	84,523,971,358
消費収入超過額	3,903,016,449	基本金組入額合計	264,463,520
合計	84,788,434,878	合計	84,788,434,878

平成22年 6月文部科学省へ提出

3) 平成21年度貸借対照表
平成21年3月31日現在

(単位：円)

資 産 の 部			
科 目	本 年 度 末	前 年 度 末	増 減
固 定 資 産	96,257,824,418	96,854,434,716	-596,610,298
有 形 固 定 資 産	89,712,913,808	87,715,467,896	1,997,445,912
土 地	6,331,139,571	6,331,139,571	0
建 物	67,055,282,166	66,972,456,181	82,825,985
構 築 物	299,719,132	256,333,330	43,385,802
教育研究用機器備品	7,861,264,792	8,162,335,304	-301,070,512
その他の機器備品	2,272,450,989	2,477,980,283	-205,529,294
図 書	2,772,144,270	2,714,375,231	57,769,039
車 輜	700,980	1,852,901	-1,151,921
建設仮勘定	3,097,050,000	775,833,187	2,321,216,813
放射性同位元素	23,161,908	23,161,908	0
その他の固定資産	6,544,910,610	9,138,966,820	-2,594,056,210
差入保証金	352,003,600	358,403,600	-6,400,000
有 価 証 券	3,552,563,220	3,552,563,220	0
退職給与引当特定預金	1,600,000,000	1,600,000,000	0
青戸病院建築引当特定資産	560,950,000	3,628,000,000	-3,067,050,000
ソフトウェア	479,393,790	0	479,393,790
流 動 資 産	51,439,573,096	46,913,302,337	4,526,270,759
現 金 預 金	38,054,274,275	33,875,696,813	4,178,577,462
未 収 入 金	12,889,727,807	12,582,920,011	306,807,796
貯 蔵 品	81,185,762	74,933,795	6,251,967
短 期 貸 付 金	334,867,970	303,102,156	31,765,814
仮 払 金	79,517,282	76,649,562	2,867,720
合 計	147,697,397,514	143,767,737,053	3,929,660,461
負 債 の 部			
科 目	本 年 度 末	前 年 度 末	増 減
固 定 負 債	29,251,464,213	30,034,257,260	-782,793,047
長 期 借 入 金	11,909,600,000	13,081,700,000	-1,172,100,000
退職給与引当金	16,678,270,710	16,712,176,962	-33,906,252
長 期 未 払 金	663,593,503	95,350,710	568,242,793
保 証 金	0	145,029,588	-145,029,588
流 動 負 債	14,282,937,515	13,209,036,936	1,073,900,579
短 期 借 入 金	1,172,100,000	1,149,600,000	22,500,000
未 払 金	12,109,126,534	11,237,111,287	872,015,247
前 受 金	758,101,862	561,790,645	196,311,217
預 り 金	242,319,119	258,895,004	-16,575,885
保 証 金	1,290,000	1,640,000	-350,000
基 本 金 の 部	141,963,844,791	142,228,308,311	-264,463,520
第 1 号 基 本 金	135,079,466,077	132,356,290,797	2,723,175,280
第 2 号 基 本 金	560,950,000	3,628,000,000	-3,067,050,000
第 4 号 基 本 金	6,323,428,714	6,244,017,514	79,411,200
消 費 収 支 差 額 の 部	-37,800,849,005	-41,703,865,454	3,903,016,449
翌年度繰越消費支出超過額	-37,800,849,005	-41,703,865,454	3,903,016,449
年度消費支出準備金	0	0	0
合 計	147,697,397,514	143,767,737,053	3,929,660,461

平成22年6月文部科学省へ提出

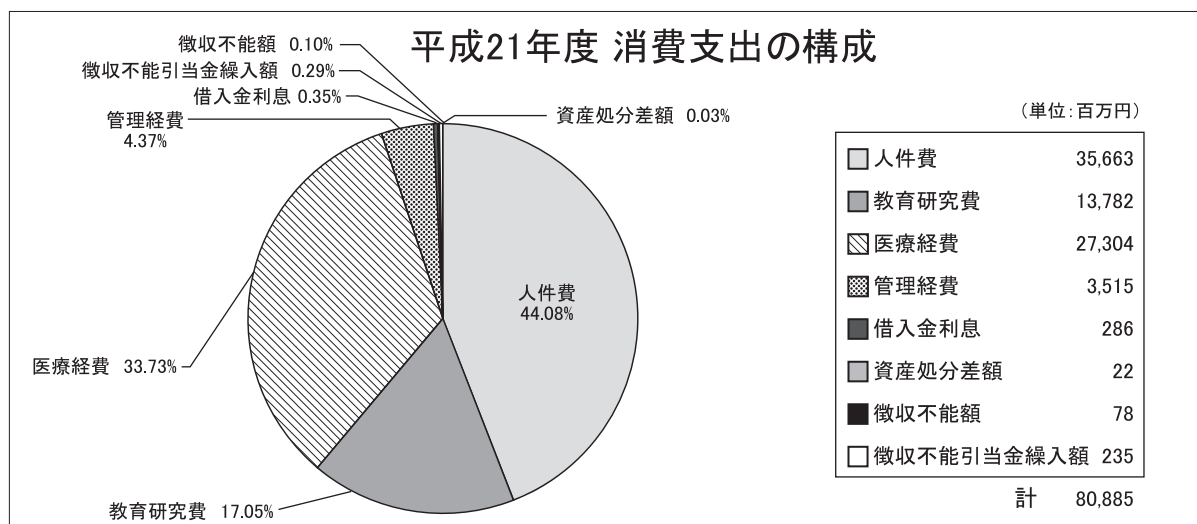
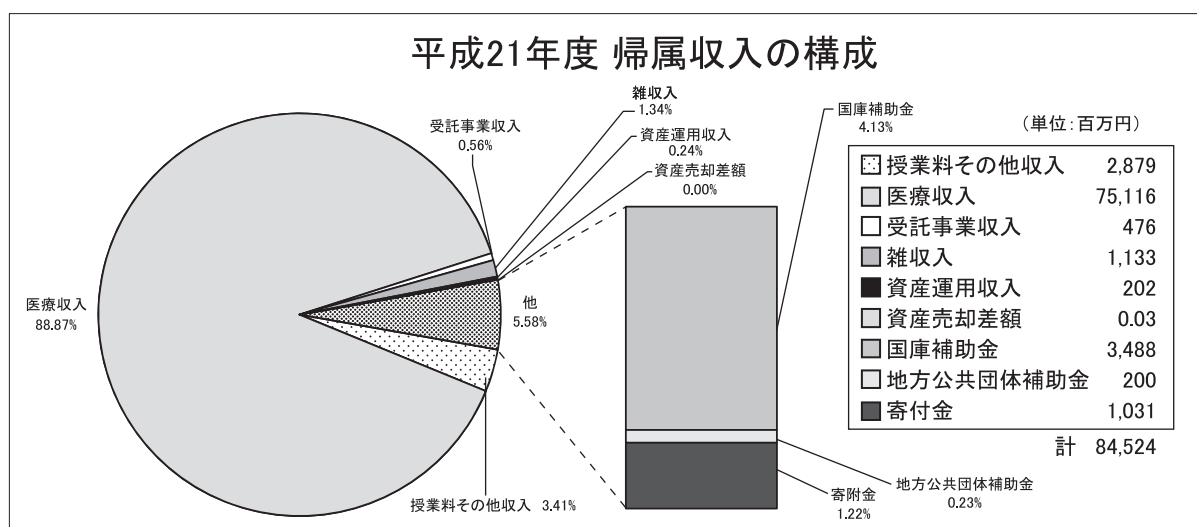
* 徴収不能引当金235,260,926円は未収入金から控除されています。

4) 主要な財務指標の推移

区 分	平成 16年度	平成 17年度	平成 18年度	平成 19年度	平成 20年度	平成 21年度
消費収支関係財務比率（単位：％）						
①消費支出比率（消費支出/帰属収入）	101.7%	98.6%	97.2%	96.9%	96.7%	95.7%
②学生生徒等納付金比率（学生生徒等納付金/帰属収入）	3.6%	3.6%	3.5%	3.4%	3.4%	3.2%
③寄付金比率（寄付金/帰属収入）	2.0%	1.2%	1.7%	1.3%	1.3%	1.2%
④補助金比率（補助金/帰属収入）	5.9%	5.5%	4.7%	4.7%	4.7%	4.4%
⑤医療収入比率（医療収入/帰属収入）	85.8%	86.8%	87.0%	86.4%	87.5%	88.9%
⑥人件費比率（人件費/帰属収入）	47.1%	44.9%	45.1%	43.7%	42.9%	42.2%
⑦教育研究経費比率（教育研究経費/帰属収入）	48.9%	49.2%	47.6%	48.1%	49.0%	48.6%
⑧帰属収支差額比率（100％－消費支出比率）	－1.7%	1.4%	2.8%	3.1%	3.3%	4.3%
貸借対照表関係財務比率（単位：％）						
①流動比率（流動資産/流動負債）	334.1%	336.0%	341.8%	346.4%	355.2%	360.1%
②固定比率（固定資産/自己資金）	106.5%	103.2%	101.4%	98.4%	96.3%	92.4%
③固定長期適合率（固定資産/（自己資金+固定負債））	77.2%	76.0%	75.6%	74.6%	74.2%	72.1%
④負債比率（総負債/自己資金）	51.4%	49.7%	47.6%	45.4%	43.0%	41.8%
⑤自己資金比率（自己資金/総資産）	66.1%	66.8%	67.8%	68.8%	69.9%	70.5%

* 自己資金＝基本金＋消費収支差額

平成22年6月文部科学省報告



財 産 目 録

平成 22 年 3 月 31 日

学校法人 慈恵大学

科 目	数 量	金 額(円)
一、基本財産		96,257,824,418
1. 土地	153,491.78m ²	6,331,139,571
(1)校地	55,338.48m ²	1,262,224,051
(2)その他	98,153.30m ²	5,068,915,520
2. 建物	286,756.00m ²	67,055,282,166
(1)法人本部	4,813.62m ²	980,183,693
(2)一般校舎	72,204.79m ²	15,305,847,048
(3)図書館	3,882.20m ²	119,519,012
(4)講堂	1,168.99m ²	109,431,273
(5)その他	204,686.40m ²	50,540,301,140
3. 図書	251,741冊	2,772,144,270
4. 教具、校具、備品	7,754件	10,133,715,781
5. 有価証券		3,552,563,220
6. その他		6,412,979,410
二、運用財産		51,439,573,096
1. 現金、預金		38,054,274,275
2. 未収入金		12,889,727,807
3. その他		495,571,014
資産の部合計		147,697,397,514
三、固定負債		29,251,464,213
1. 長期借入金		11,909,600,000
2. 退職給与引当金		16,678,270,710
3. 長期未払金		663,593,503
四、流動負債		14,282,937,515
1. 短期借入金		1,172,100,000
2. 未払金		12,109,126,534
3. 前受金		758,101,862
4. その他		243,609,119
負債の部合計		43,534,401,728
純 資 産		104,162,995,786

上記の通り相違ありません。

平成22年 5月27日

監 事 濱 邦 久



監 事 岡 島 進 一 郎





監査報告書

平成 22 年 5 月 27 日

学校法人 慈恵大学
理事会 御中

学校法人 慈恵大学

監事 濱 邦 久 

監事 岡島 進 郎 

私たちは、私立学校法第 37 条第 3 項及び学校法人慈恵大学寄付行為第 15 条の定めに基づき、平成 21 年度（平成 21 年 4 月 1 日から平成 22 年 3 月 31 日まで）の学校法人の業務及び財産の状況について監査を行いました。

その結果について以下の通り報告いたします。

1、 監査方法の概要

- (1) 会計監査について、帳簿並びに関係書類の閲覧など必要と思われる監査を実施し、計算書類の正確性を検討しました。
- (2) 業務監査については、理事会及び評議員会に出席して理事から業務の報告を聴取し、また、関係書類の閲覧など必要と思われる監査手続きを用いて業務執行の妥当性を検討しました。

2、 監査の結果

- (1) 資金収支計算書、消費収支計算書、貸借対照表並びに財産目録は、会計帳簿の記載と合致し、学校法人慈恵大学の平成 22 年 3 月 31 日現在の財産状況、及び同日をもって終了する会計年度の経営状況を適正に表示しているものと認めます。
- (2) 学校法人の業務及び財産の状況に関して、不正の行為または法令若しくは寄付行為に違反する重大な事実はないものと認めます。

以上

7. 関連当事者等との取引等の状況

関連当事者との取引の内容は、次の通りである。

(単位：円)

属性	役員・法人等の名称	住所	資本金又は出資金	事業の内容又は職業	議決権の所有割合	関係内容		取引の内容	取引金額	勘定科目	期末残高
						役員の兼任等	事業上の関係				
関係法人	(株) 東京慈恵会 (注1)	東京都港区	—	看護師養成事業、 医学研究事業	—	4名	卒業生の大半を大学の附属病院に受け入れている	会費の支払 (注2)	128,331,072	—	—

取引条件及び取引条件の決定方針等

(注1) 当学校法人の役員及び教員が(株)東京慈恵会の役員の過半数を占めている。

(注2) (株)東京慈恵会への会費の支払については、同法人の財政状況等を勘案し金額を決定している。

学校法人の出資による会社に係る事項

当学校法人の出資割合が総出資額の2分の1以上である会社の状況は次のとおりである。

名称	株式会社 慈恵実業				
事業内容	物品販売・斡旋・仲介、慈恵大学内の理容・美容・食堂施設の管理 保険代理業・リース業・労働者派遣・請負業務など				
出資金	30,000,000円 60,000株				
学校法人の出資状況	30,000,000円 60,000株				
出資の状況	昭和51年2月28日 30,000,000円 60,000株				
当期中に学校法人が受け入れた配当金及び寄附金の金額並びに学校法人との資金、取引の状況	当該会社からの受入額				
	一般寄附	1,650,000			
	駐車場等賃借料	83,195,590			
	手数料他	8,889,450			
	出向者人件費受入分	152,366,611			
	合計	246,101,651			
	当該会社への支払額(含む、未払い金)				
	消耗雑品購入等	12,131,883,019			
	医療機器等リース料	656,143,444			
	合計	12,788,026,463			
		期首残高	資金支出等	資金収入等	期末残高
	当該会社への出資金等	30,000,000	0	0	30,000,000
	当該会社への貸付金	0	0	0	0
当該会社への未払金	2,169,613,056	2,169,613,056	3,180,906,389	3,180,906,389	
当該会社からの借入金	0	0	0	0	
当該会社からの未収入金	44,599	64,479	44,599	64,479	
保証債務	当該会社への保証債務は一切ない。				

関連当事者との取引

株式会社慈恵実業の子会社との取引の内容は、次の通りである。

(単位：円)

属性	役員・法人等の名称	住所	資本金又は出資金	事業の内容又は職業	議決権の所有割合	関係内容		取引の内容	取引金額	勘定科目	期末残高
						役員の兼任等	事業上の関係				
関係法人 (注3)	慈恵ファシリティサービス株式会社	東京都港区	3,000万円	建物等の清掃・管理業務、病院内医療廃棄物並びに一般廃棄物の取扱、病院等整備業務・病院等搬送業務	—	2名	本学並びに附属病院の清掃、整備、搬送、管理業務を委託	清掃、管理費等の支払 (注4)	916,020,379	未払金	91,087,399
								出向者人件費等受入収入	139,062,937	未収入金	0

(注3) 当学校法人の出資割合が2分の1以上である株式会社慈恵実業の子会社である。

(注4) 慈恵ファシリティサービス(株)への清掃、管理費等の支払については、市場価格を勘案して一般的取引条件と同様に決定している。

8. 学校法人慈恵大学の体制（平21. 4. 1.）

1) 学校法人慈恵大学

① 役員概要	定員数	理事	15人以上16人以内	現員数	16人
		監事	2人以上3人以内	現員数	2人
		顧問	3人以上7人以内	現員数	5人
理事	長	栗原 敏			
専務理事	事	高木 敬三			
常務理事	事	梅澤 祐二、谷口 郁夫			
理事	事	森山 寛、伊藤 洋、坂井 春男、久保 政勝			
		落合 和徳、田嶋 尚子、橋本 和弘、小路美喜子、高橋実貴雄			
		足立 信一、原 貞夫、前田 新造			
監事	事	濱 邦久、岡島進一郎			
顧問	問	阿部 正和、岡村 哲夫、小森 亮、佐々木正峰、真野 章			

② 評議員の概要 評議員の定員は40人以上 42人以内であり、現員数は42人である。

評議員会議長	渡邊 盛雄
評議員	栗原 敏、森山 寛、伊藤 洋、坂井 春男、久保 政勝
	田嶋 尚子、橋本 和弘、落合 和徳、谷口 郁夫、上出 良一
	谷 諭、徳留 悟朗、高木 敬三、寺坂 治、池上 雅博
	大野 裕治、奥山 則子、蝦名 總子、加藤 一人、高橋実貴雄
	今出 進章、柳澤美津代、横山 秀彦、高橋 則子、秋元 文夫
	大水美名子、阿部 郁朗、足立 信一、原 貞夫、霜 礼次郎
	篠原 健、今井 健郎、須田 健夫、佐藤 俊介、村岡 伸一
	赤羽 清彬、高木 公寛、米津 等史、飛鳥田一朗、丸山 浩一
	梅澤 祐二

2) 東京慈恵会医科大学

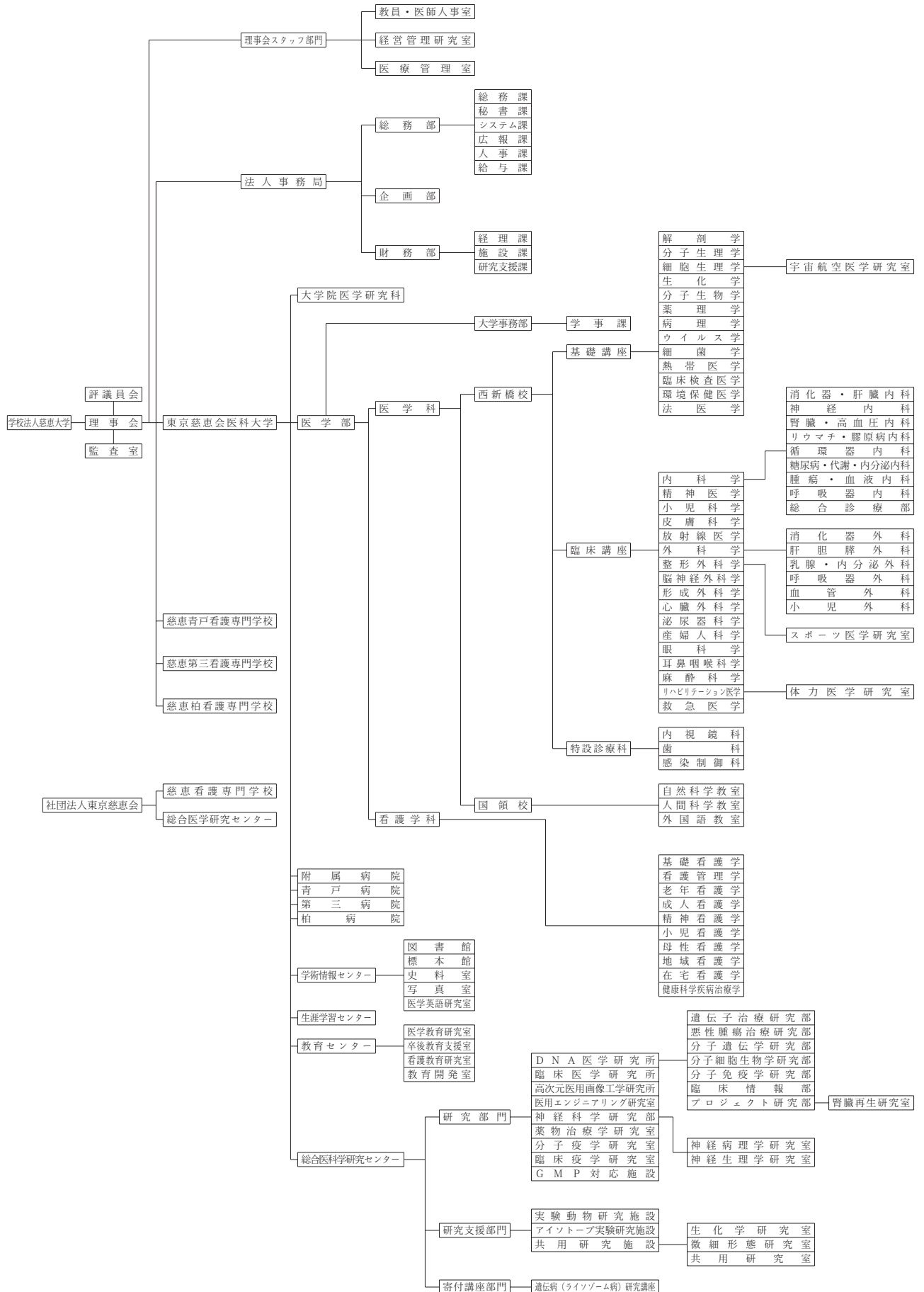
学 長	栗原 敏
医 学 科 長	田嶋 尚子
看 護 学 科 長	藤村 龍子
大学院医学研究科長	栗原 敏
附 属 病 院 長	森山 寛
副院長	橋本 和弘、落合 和徳、谷口 郁夫 大水美名子
青 戸 病 院 長	伊藤 洋
副院長	吉田 和彦、蔵田 英明
第 三 病 院 長	坂井 春男
副院長	伊藤 文之、根津 武彦、中村 敬
柏 病 院 長	久保 政勝
副院長	小林 進、清水 光行、岸本 幸一
学術情報センター長	兼平 千裕
生涯学習センター長	阿部 俊昭
教育センター長	福島 統
総合医科学研究センター長	栗原 敏

3) 看護専門学校

慈恵青戸看護専門学校長	武田 信彬
慈恵第三看護専門学校長	横山 淳一
慈恵柏看護専門学校長	佐々木 敬
[慈恵看護専門学校長]	川村 将弘

9. 学校法人慈恵大学組織図

(平成21年4月1日現在)



10. 理事会

定例理事会の開催状況（平成21年4月1日～平成22年3月31日）

議 事	内 容
<p>平成21年4月23日</p> <p>1. 議決事項</p> <p>1) 教員人事</p> <p>2) 慈恵柏看護専門学校学則改訂</p> <p>2. 報告事項</p> <p>1) 法人関係報告</p> <p>(1) 平成21年度俸給表</p> <p>(2) 学校法人慈恵大学組織図</p> <p>(3) 幹部職員一覧</p> <p>(4) 新入職員数報告</p> <p>(5) 看護職員採用状況及び看護学科、看護専門学校卒業生の状況</p> <p>2) 学事関係報告</p> <p>(1) 学事関係報告</p>	<p>3) 病院関係報告</p> <p>(1) 平成21年度初期臨床研修医採用の件</p> <p>(2) レジデントの採用状況</p> <p>3. 現況報告</p> <p>1) 附属病院（本院）の現況</p> <p>2) 晴海トリトンクリニックの現況</p> <p>3) 青戸病院の現況</p> <p>4) 第三病院の現況</p> <p>5) 柏病院の現況</p> <p>4. その他</p> <p>1) ロンドン日本クラブ診療所30年史について</p> <p>2) 評議員会の開催予定について</p> <p>日時：5月29日（金）午後3時～</p> <p>議題：平成20年度決算報告、その他</p>
<p>平成21年5月28日</p> <p>1. 議決事項</p> <p>1) 教員人事</p> <p>2) 平成20年度決算</p> <p>3) 職員管理職人事（平成21年6月1日付け）</p> <p>4) 夏季賞与資金借入れについて</p> <p>5) 職員の懲戒について</p> <p>2. 報告事項</p> <p>1) 法人関係報告</p> <p>(1) 平成20年度事業報告</p> <p>2) 学事関係報告</p> <p>3) 病院関係報告</p> <p>(1) 新型インフルエンザ対策</p> <p>(2) 本院新外来棟建築準備小委員会について</p>	<p>3. 現況報告</p> <p>1) 附属病院（本院）の現況</p> <p>2) 晴海トリトンクリニックの現況</p> <p>3) 青戸病院の現況</p> <p>4) 第三病院の現況</p> <p>5) 柏病院の現況</p> <p>4. その他</p> <p>1) 同窓会役員の交代の件</p> <p>2) 評議員会の開催予定について</p> <p>日時：5月29日（金）午後3時～</p> <p>議題：平成20年度決算報告、その他</p> <p>3) 大学役員退任者への慰労金授与</p> <p>4) その他</p>
<p>平成21年6月25日</p> <p>1. 新役員報告</p> <p>2. 議決事項</p> <p>1) 平成20年度決算修正事項について</p> <p>2) 教員人事</p> <p>3. 報告事項</p> <p>1) 法人関係報告</p> <p>(1) 5月評議員会報告</p> <p>(2) 労働組合との交渉結果について</p> <p>(3) 宮崎県穆佐小学校児童招待の件</p> <p>(4) 宮崎県特別大使受入れの件</p> <p>(5) 公益通報制度について</p> <p>(6) 利益相反について</p>	<p>2) 学事関係報告</p> <p>(1) 学事関係報告</p> <p>3) 病院関係報告</p> <p>(1) 新型インフルエンザ対策</p> <p>4. 現況報告</p> <p>1) 附属病院（本院）の現況</p> <p>2) 晴海トリトンクリニックの現況</p> <p>3) 青戸病院の現況</p> <p>4) 第三病院の現況</p> <p>5) 柏病院の現況</p> <p>5. その他</p>

議 事	内 容
<p>平成21年 7月23日</p> <p>1. 議決事項</p> <p>1) 教員人事</p> <p>2. 報告事項</p> <p>1) 法人関係報告</p> <p>(1) 大学役員選挙について</p> <p>(2) 利益相反管理委員会の設置について</p> <p>2) 学事関係報告</p> <p>(1) 第126回成医会総会プログラムについて</p> <p>(2) 学事報告</p> <p>(3) 大学ガイド2010・大学院ガイド2010</p> <p>3) 病院関係報告</p> <p>(1) 4病院長会議報告</p> <p>(2) 第三病院の病床変更について</p>	<p>3. 現況報告</p> <p>1) 附属病院（本院）の現況</p> <p>2) 晴海トリトンクリニックの現況</p> <p>3) 青戸病院の現況</p> <p>4) 第三病院の現況</p> <p>5) 柏病院の現況</p> <p>4. その他</p> <p>1) 平成20年度事業報告書</p> <p>2) 青戸病院報道の件について</p>
<p>平成21年 9月25日</p> <p>1. 議決事項</p> <p>1) 教員人事</p> <p>2) 葛飾区道路拡幅事業に伴う青戸看護専門学校用地の道路区域編入について</p> <p>3) 青戸看護専門学校閉校後の学籍簿等書類の管理について</p> <p>2. 報告事項</p> <p>1) 法人関係報告</p> <p>(1) 役員選挙スケジュールについて</p> <p>(2) 管理棟入居者の転居について</p> <p>2) 学事関係報告</p> <p>(1) 学事関係報告</p>	<p>3) 病院関係報告</p> <p>(1) 新型インフルエンザについて</p> <p>3. 現況報告</p> <p>1) 附属病院（本院）の現況</p> <p>2) 晴海トリトンクリニックの現況</p> <p>3) 青戸病院の現況</p> <p>4) 第三病院の現況</p> <p>5) 柏病院の現況</p> <p>4. その他</p> <p>1) 夏季常任理事会報告</p> <p>2) 第126回成医会の開催について</p>
<p>平成21年10月22日</p> <p>1. 議決事項</p> <p>1) 教員人事</p> <p>2) 資産運用規程の制定について</p> <p>2. 報告事項</p> <p>1) 法人関係報告</p> <p>2) 学事関係報告</p> <p>(1) 学事関係報告</p> <p>3) 病院関係報告</p> <p>(1) 研修医・レジデント応募状況について</p> <p>(2) 新型インフルエンザについて</p>	<p>3. 現況報告</p> <p>1) 附属病院（本院）の現況</p> <p>2) 晴海トリトンクリニックの現況</p> <p>3) 青戸病院の現況</p> <p>4) 第三病院の現況</p> <p>5) 柏病院の現況</p> <p>4. その他</p> <p>1) 慈恵実業創立35周年記念誌の発行について</p>

議 事	内 容
<p>平成21年11月26日</p> <p>1. 議決事項</p> <p>1) 第6条第1号理事(学長)選任</p> <p>2) 第6条第2号理事(附属病院長)選任</p> <p>3) 教員人事</p> <p>4) 賞与資金借入れについて</p> <p>5) 教員の懲戒について</p> <p>2. 報告事項</p> <p>1) 法人関係報告</p> <p>2) 学事関係報告</p> <p>(1) 学事関係報告</p>	<p>3) 病院関係報告</p> <p>(1) 平成22年度初期臨床研修医について</p> <p>(2) 平成22年度レジデントについて</p> <p>3. 現況報告</p> <p>1) 附属病院(本院)の現況</p> <p>2) 晴海トリトンクリニックの現況</p> <p>3) 青戸病院の現況</p> <p>4) 第三病院の現況</p> <p>5) 柏病院の現況</p> <p>4. その他</p>
<p>平成21年12月25日</p> <p>1. 議決事項</p> <p>1) 役員人事</p> <p>(1) 各附属病院長(分院長)候補者の審議・選任</p> <p>(2) 寄附行為施行規則第32条他に規程する人事の選任</p> <p>(3) 監事候補者の推薦および評議員、顧問、理事の選任</p> <p>2) 教員人事</p> <p>2. 報告事項</p> <p>1) 法人関係報告</p> <p>2) 学事関係報告</p> <p>(1) 学事関係報告</p> <p>3) 病院関係報告</p>	<p>3. 現況報告</p> <p>1) 附属病院(本院)の現況</p> <p>2) 晴海トリトンクリニックの現況</p> <p>3) 青戸病院の現況</p> <p>4) 第三病院の現況</p> <p>5) 柏病院の現況</p> <p>4. その他</p> <p>1) 評議員会の日程について</p> <p>(1) 平成22年3月11日(木)午後3時</p> <p>主な議題:平成22年度予算(案) 他</p> <p>(2) 平成22年5月28日(金)午後3時</p> <p>主な議題:平成21年度決算,平成21年度事業報告他</p> <p>2) 臨時理事会の開催について</p>
<p>平成21年12月25日(臨時)</p> <p>1. 議決事項</p> <p>1) 大学役員の選任</p> <p>(1) 寄附行為第6条第6号理事の選任</p> <p>(2) 専務理事、常務理事の任命</p>	
<p>平成22年1月28日</p> <p>1. 議決事項</p> <p>1) 役員人事</p> <p>(1) 寄附行為第6条第6号理事の選任</p> <p>(2) 専務理事、常務理事の選任</p> <p>2) 教員人事</p> <p>3) 職員管理職人事(平成22年4月1日付け)</p> <p>2. 報告事項</p> <p>1) 法人関係報告</p> <p>(1) 株式会社慈恵実業 第35期決算報告</p> <p>2) 学事関係報告</p> <p>(1) 学事関係報告</p> <p>(2) 入学定員増について</p>	<p>3) 病院関係報告</p> <p>3. 現況報告</p> <p>1) 附属病院(本院)の現況</p> <p>2) 晴海トリトンクリニックの現況</p> <p>3) 青戸病院の現況</p> <p>4) 第三病院の現況</p> <p>5) 柏病院の現況</p> <p>4. その他</p> <p>1) 成医会例会案内</p> <p>2) 平成22年度理事会開催日程</p> <p>3) 新旧役員懇親会日程</p>

議 事	内 容
<p>平成22年 2月25日</p> <p>1. 議決事項</p> <p>1) 平成22年度予算(案)について〈説明〉</p> <p>2) 役員人事</p> <p>(1) 各附属病院 副院長の選任</p> <p>(2) 各看護専門学校長の選任</p> <p>(3) 参与の審議・選任</p> <p>3) 教員人事</p> <p>4) 職員管理職人事(平成22年4月1日付)</p> <p>5) 平成22年度附属4病院診療部・中央診療部定数表</p> <p>6) 寄付講座「遺伝病(ライソゾーム病)研究講座」の更新について</p> <p>2. 報告事項</p> <p>1) 法人関係報告</p> <p>(1) 会計検査院の実地調査について</p> <p>(2) 関連当事者との取引の調査依頼</p>	<p>2) 学事関係報告</p> <p>(1) 学事関係報告</p> <p>3) 病院関係報告</p> <p>3. 現況報告</p> <p>1) 附属病院(本院)の現況</p> <p>2) 晴海トリトンクリニックの現況</p> <p>3) 青戸病院の現況</p> <p>4) 第三病院の現況</p> <p>5) 柏病院の現況</p> <p>4. その他</p> <p>1) 今後のスケジュール(予定)</p> <p>(1) 評議員会 3月11日(木) 平成22年度予算(案) 他</p> <p>(2) 評議員会 5月28日(金) 平成21年度決算 他</p> <p>(3) 新旧役員懇親会 4月22日(木)午後6時～</p>
<p>平成22年 3月25日</p> <p>1. 議決事項</p> <p>1) 役員人事</p> <p>(1) 監事の選出</p> <p>2) 平成22年度事業計画(案)について</p> <p>3) 平成22年度予算(案)について</p> <p>4) 特定預金の積み上げ</p> <p>5) 教員人事</p> <p>6) 平成22年度基礎系講座定員について</p> <p>7) 慈恵青戸看護専門学校閉校に伴う寄附行為の変更について</p> <p>2. 報告事項</p> <p>1) 法人関係報告</p> <p>2) 学事関係報告</p> <p>(1) 学事関係報告</p> <p>(2) 大学基準協会評価結果報告</p>	<p>3) 病院関係報告</p> <p>3. 現況報告</p> <p>1) 附属病院(本院)の現況</p> <p>2) 晴海トリトンクリニックの現況</p> <p>3) 青戸病院の現況</p> <p>4) 第三病院の現況</p> <p>5) 柏病院の現況</p> <p>4. その他</p> <p>1) 青戸看護専門学校閉校記念誌</p> <p>2) 配布資料</p> <p>(1) 教育・研究年報(2008)</p> <p>(2) Research Activities(2008)</p> <p>3) 今後のスケジュール(予定)</p> <p>(1) 評議員会 5月28日(金)平成21年度決算報告 他</p> <p>(2) 新旧役員懇親会 4月22日(木)午後6時～</p> <p>4) 大学役員退任者への慰労金授与 久保政勝理事、田嶋尚子理事</p>

11. 評議員会

評議員会の開催状況（平成21年4月1日～平成22年3月31日）

議 事	内 容
<p>平成21年5月29日</p> <p>1. 諮問事項</p> <p>1) 平成20年度決算</p> <p>2) 平成20年度監査報告</p> <p>3) 平成20年度事業報告</p> <p>2. 報告事項</p> <p>1) 学事報告</p> <p>2) 平成20年度中に制定・改定・廃止となった規程類の件</p> <p>3) 新型インフルエンザ対策</p>	<p>4) 青戸病院リニューアル進捗状況について</p> <p>5) 学校法人慈恵大学顧問（真野 章氏）の委嘱について</p> <p>6) ロンドン日本クラブ診療所30年史の発刊について</p> <p>7) 同窓会選出大学役員報告</p> <p>3. その他</p>
<p>平成22年3月11日</p> <p>1. 役員選任報告</p> <p>2. 諮問事項</p> <p>1) 平成22年度役員人事</p> <p>(1) 寄附行為第7条監事の選任</p> <p>2) 平成22年度事業計画の件</p> <p>3) 平成22年度予算の件</p> <p>4) 慈恵青戸看護専門学校閉校に伴う寄附行為変更認可申請の件</p> <p>3. 報告事項</p> <p>1) 学事報告</p> <p>2) 東京慈恵会医科大学創立130年・同窓会設立85周年合同記念事業について</p> <p>3) 大学基準協会による大学相互評価結果の件</p>	<p>4) 日本医療機能評価機構による病院機能評価受審結果の件</p> <p>5) 青戸病院リニューアル起工式の件</p> <p>6) その他</p> <p>(1) 新旧役員（理事・評議員・監事・顧問）懇親会の開催について</p> <p>日時：4月22日（木）午後6時～</p> <p>場所：ホテルオークラ 別館12階「ケンジントンテラス」</p> <p>(2) 次回評議員会の開催について</p> <p>日時：5月28日（金）午後3時～</p> <p>場所：B会議室</p> <p>議題：平成21年度決算報告、その他</p> <p>4. その他</p>

12. 監査室

平成21年度は公的補助金を中心に内部監査を実施した。公的補助金以外に実施した内部監査は、「薬品の在庫・出庫管理について」、「事務業務分掌規程および業務手順書の改善状況について」であった。

1. 平成21年度に実施した内部監査

- 1) 平成20年度分私立大学等経常費補助金
- 2) 平成20年度分厚生労働科学研究費等補助金
- 3) 平成20年度分文部科学省科学研究費補助金
- 4) 平成20年度分 JST 委託研究費「戦略的創造研究推進事業（CREST）」
- 5) 平成20年度分臨床研修費補助金〔附属病院・青戸病院〕
- 6) 看護師等養成所運営費補助金申請書類記載方法の改善状況について
- 7) 薬品の在庫・出庫管理について
- 8) 事務業務分掌規程および業務手順書の改善状況について

2. 監事並びに監査法人との連携

- 1) 監事との意見交換 1回（平成21年4月）
- 2) 監事への内部監査報告 2回（平成21年11月、平成22年3月）
- 3) 監査法人への内部監査報告 1回（平成22年1月）

II. 東京慈恵会医科大学

1. 教授、その他の人事（平成21年4月～平成22年3月）

1) 平成22年3月31日付退任教授

氏名	旧担当	現在
馬 詰 良 樹	分子生理学	名誉教授の称号を贈る
田 嶼 尚 子	内 科 学	名誉教授の称号を贈る
久 保 政 勝	小 児 科 学	客員教授の称号を贈る
古 幡 博	医用エンジニアリング研究室	スーパー特区 特任教授任命 平成22年4月1日～平成25年3月31日

2) 新任教授

氏名	担当	就任年月日	経歴	備考
横 井 勝 弥	人間科学教室 (数学研究室)	平21. 4. 1	昭和63年 静岡大卒	
高 島 尚 美	成人看護学	平21. 4. 1	平成6年 放送大卒	
関 谷 透	放射線医学	平21. 4. 1	昭和50年 本学卒	放射線医学 准教授より
敷 島 敬 悟	眼 科 学	平21. 8. 1	昭和57年 本学卒	眼科学 准教授より
西 野 博 一	内 科 学	平22. 3. 1	昭和53年 本学卒	消化器・肝臓内科 准教授より

3) 新任客員教授

氏名	所属	就任年月日	備考
田 代 和 也	泌尿器科学	平21. 4. 1	厚木市立病院長在任中
島 田 孝 夫	内 科 学	平21. 4. 1	社会保険桜ヶ丘総合病院
立 花 正 一	細胞生理学	平21. 4. 1	宇宙航空研究開発機構
城 謙 輔	病 理 学	平21. 4. 1	国立病院機構千葉東病院
羽 生 信 義	外 科 学	平21. 11. 1	町田市民病院

4) 特任教授

氏名	所属	就任年月日	備考
白 崎 嘉 昭	外国語教室 (初修外国語研究室)	平21. 4. 1	特任期間：平成21年4月1日～ 平成24年3月31日
穴 澤 貞 夫	看護学科	平21. 4. 1	特任期間：平成21年4月1日～ 平成22年3月31日
恩 田 威 一	産婦人科学	平21. 4. 1	特任期間：平成21年4月1日～ 平成24年3月31日
相 澤 良 夫	内 科 学	平21. 11. 1	特任期間：平成21年11月1日～ 平成23年10月31日

5) 叙位・叙勲

平成21年度の叙勲受章者

平成21年 4月29日 瑞宝中綬章 米本 恭三 名誉教授

平成21年度の死亡叙位

平成21年10月30日 従五位 小林 建一 名誉教授

6) 訃 報

林 伸一	名誉教授	平成21年 4月20日	逝去
高木 康	客員教授	平成21年 4月21日	逝去
吉村不二夫	名誉教授	平成21年 5月 3日	逝去
伊藤 治英	客員教授	平成21年 9月22日	逝去
三穂 乙實	客員教授	平成21年10月19日	逝去
小林 建一	名誉教授	平成21年10月30日	逝去
小田 泰治	元 理 事	平成21年11月 9日	逝去
松崎 浩	客員教授	平成22年 2月17日	逝去
松葉三千夫	名誉教授	平成22年 2月25日	逝去
山田 治男	客員教授	平成22年 2月25日	逝去

2. 教職員数

1) 教員数 平成21年5月1日現在

① 医学科

専任教員	1,131名	その他教員	1,208名
(内訳) 本学を本務とする者	1,101名	(内訳) 本学を本務とする者	225名
日本クラブ診療所派遣中	2名	関連病院派遣中	530名
留学中	19名	留学中	38名
休職中	8名	休職中	81名
定年嘱託教員	1名	上記以外(名誉・客員教授・講師 (非常勤))	334名

② 看護学科

専任教員	31名	その他教員	19名
------	-----	-------	-----

2) 初期臨床研修医数(平成21年5月1日現在)

1年	本院	42名	2年	本院	38名
	〃 歯科	2名		〃 歯科	2名
	青戸病院	7名		青戸病院	7名
	第三病院	19名		第三病院	24名
	柏病院	14名		柏病院	23名
	合計	84名		合計	94名
				総合計	178名

3) 職員数(看護師を含む)(平成21年5月1日現在)

大学	*	233名
本院	**	1,575名
青戸病院	***	549名
第三病院	***	804名
柏病院	***	862名
計		4,023名
常勤職員のみ(長期非稼働者を除く)		
*	法人事務局、医学科国領校、看護学科、慈恵看護専門学校を含む。	
**	晴海トリトニックを含む。	
***	それぞれ看護専門学校を含む。	

4) 看護師数(平成21年5月1日現在)

	正 看	准 看	その他*	計
本院	1,013名	1名	73名	1,087名
青戸病院	346名	5名	39名	390名
第三病院	524名	1名	38名	563名
柏病院	567名	0名	65名	632名
計	2,450名	7名	215名	2,672名

* 事務員(看護部所属)、看護補助員、診療補助員、保育士

3. 教 育

1) 医学部医学科学生数など（平成21年5月1日現在）

(1) 学生数および各学年担当教学委員

学年	定員	人員	内 訳		学年担当教学委員	学 生 保 健 指 導 委 員 会
			男	女		
1	105	105	71	34	福山 隆夫 教授	委員長 福田 国彦 教授 副委員長 竹田 宏 講師
2	100	114	90	24	大川 清 教授	【委員】 銭谷 幹男 教授（総合健診・予防医学センター） 齋藤 義弘 講師（小児科）
3	100	94	74	20	柳澤 裕之 教授	吉田 正樹 講師（感染制御部） 小此木英男 助教（1年担当・内科）
4	100	104	84	20	小川 武希 教授	三枝 裕和 助教（"・放射線） 中村 敬 教授（"・精神）
5	100	97	60	37	阿部 俊昭 教授	川井 真 講師（2年担当・内科） 横田 邦信 准教授（3年担当・内科）
6	100	104	70	34	吉村 道博 教授	原 弘道 助教（4年担当・内科） 上竹慎一郎 助教（5年担当・内科）
計	605	618	449	169		宇都宮保典 准教授（6年担当・内科） 中山 和彦 教授（2～6年担当・精神）

（国領校：105名 西新橋校：513名）

(2) 教学委員長 学生部長

大学事務部長

• 教学委員長	田嶋 尚子 教授
• 副教学委員長	渡辺 直熙 教授
"	寺坂 治 教授
• 学 生 部 長	中川 秀己 教授
• 副学生部長	羽野 寛 教授
"	福山 隆夫 教授
• 大学事務部長	高橋実貴雄

2) 医学部看護学科学生数など（平成21年5月1日現在）

(1) 学生数および学年担当委員など

学年	定員	人員	内 訳		学 年 担 当 委 員 等
			男	女	
1	40	42	1	41	委 員 伊藤 文之 教授（保健指導担当）
2	40	41	1	40	" 菊池麻由美 講師（1年担当）
3	40	43	1	42	" 長 佳代 准教授（2年担当）
4	30	35	0	35	" 伊達久美子 准教授（3年担当）
計	150	161	3	158	" 濱中 喜代 教授（4年担当）

(2) 教学委員長・学生部長・学事課長

・教学委員長	奥山 則子	教授
・学生部長	茅島 江子	教授
・学事課係長	深澤 博臣	

3) 大学院学生数（医学系専攻博士課程）（平成21年5月1日現在）

学年	定員	人員	内 訳		大 学 院 委 員 会					
			男	女	委 員 長	学 長				
1	66	21	18	3	委 員 長：栗原 敏	学 長				
2	66	27	17	10	委 員 員：馬詰 良樹	教授	阿部 俊昭	教授		
3	66	20	15	5	渡邊 直熙	教授	細谷 龍男	教授		
4	66	19	15	4	松藤 千弥	教授	中川 秀己	教授		
計	264	87	65	22	矢永 勝彦	教授				
					オブザーバー：高木 敬三	専務理事	山田 尚	教授		

4) 大学院学生数（看護学専攻修士課程）（平成21年5月1日現在）—21年4月開設

学年	定員	人員	内 訳		大 学 院 委 員 会 （ 修 士 課 程 ）					
			男	女	委 員 長	専 攻 長				
1	10	12	0	12	委 員 長：菊地登喜子	専 攻 長				
2	—	—	—	—	委 員 員：柿川 房子	教授	櫻井 尚子	教授		
計	10	12	0	12	藤村 龍子	教授	茅島 江子	教授		

5) 大学および大学院など

(1) 医 学 科

I. 教学関係

1. 教学委員会

平成21年度医学科教学委員会は国領校選出委員2名および西新橋校選出委員15名の計17名で運営された。委員会は毎月2回定例で開催された。平成21年度の各教学委員の役割分担は以下の通りである。

医学科教学委員会：田嶋尚子（教学委員長）、渡辺直熙（副教学委員長）、寺坂治（副教学委員長）、中川秀己（学生部長、学生担当委員長）、羽野寛（副学生部長、学生担当副委員長）、福山隆夫（副学生部長、学生担当副委員長、1学年担当）、大川清（教育施設委員長、教育予算担当、2学年担当）、木村直史（試験委員長）、福島統、松藤千弥（カリキュラム委員長、カリキュラム自己点検・評価委員長）、柳澤裕之（3学年担当）、阿部俊昭（5学年担当）、小川武希（4学年担当）、川村哲也（臨床実習教育委員長）、中山和彦（学生相談室委員長）、福田国彦（学生保健指導委員長）、吉村道博（6学年担当）

2. 平成21年度医学科の進級、卒業者

1年：進級	99人	留年	3人	退学	2人	※除籍	1名
2年： "	106人	"	8人				
3年： "	93人	"	1人				
4年： "	101人	"	0人	休学	2人	退学	1人
5年： "	97人	"	0人				
6年：卒業	104人	"	0人				

以上の結果、平成22年度の学生数は1年—109人、2年—107人、3年—107人、4年—95人、5年—101人、6年—97人、合計616人

3. カリキュラムの改訂と経過

1年次のコース医学総論Ⅰのユニット「病院見学実習」を「病院見学・救急蘇生実習」に改組した。またコース医療情報・EBMⅠのユニット「コンピュータ演習」を「情報リテラシー」に改称した。2年次のコース医学総論Ⅱのユニット「前臨床実習Ⅱ（重度心身障害・難病医療体験実習）」を発展的に解消し「前臨床実習Ⅱ（重症心身障害児療育体験実習）」と「前臨床実習Ⅱ（地域子育て支援体験実習）」を新設した。3年次コース臨床基礎医学Ⅰではユニット「感染と生体防御・免疫」を「免疫と生体防御」に改称した。またユニット「免疫学実習」をコース臨床基礎医学Ⅱから移設した。コース臨床疫学Ⅲは「医療情報・EBMⅢ」に改称した。4年次のコース臨床医学Ⅰでユニット「臨床腫瘍学」を「腫瘍学Ⅱ」とし、3年次の「腫瘍学Ⅰ」との関係を図った。またユニット「リウマチ・膠原病」を新設した。5年次のコース臨床医学Ⅱにユニット「チーム医療構築ワークショップ」を新設した。6年次のコース選択実習にユニット「選択実習Ⅴ」を選択で新設し、学習機会を拡大した。

4. 教学委員と学生会委員との懇談会

例年同様に平成21年7月13日（月）、平成21年12月7日（月）に開催された。学生会からの主な報告は前年度活動報告、会計報告、平成21年度予算案、京都府立医科大学定期戦成績（7勝14敗）、第52回東日本医科学学生総合体育大会成績、慈恵祭の準備・報告、学生のアンケート調査結果等であった。また、設備の改善および講義配布資料の改善に関する要望があった。

5. 第45回～第50回 Faculty Development

平成21年4月以降の開催および修了証を授与された参加者数は以下の通りである。

第45回 Faculty Development

日 時：平成21年5月30日（土）

場 所：西新橋校

テーマ：試験問題作成

修了証受領者（25名）

第46回 Faculty Development

日 時：平成21年9月12日（土）

場 所：西新橋校

テーマ：基礎医学チュータートレーニング

修了証受領者（34名）

第47回 Faculty Development

日 時：平成21年10月24日（土）

場 所：西新橋校

テーマ：クリニカル・クラークシップ指導医養成

修了証受領者（23名）

第48回 Faculty Development

日 時：平成21年10月25日（日）

場 所：西新橋校

テーマ：家庭医実習

修了証受領者（家庭医実習指導医5名）

第49回 Faculty Development

日 時：平成21年10月31日（土）

場 所：西新橋校

テーマ：在宅ケア実習

修了証受領者（学外指導者・医学生9名）

第50回 Faculty Development

日 時：平成21年12月12日（土）

場 所：西新橋校

テーマ：OSCE 評価者トレーニング

修了証受領者（34名）

6. 第47回～第48回医学教育セミナー

以下のとおり開催された。

第47回医学教育セミナー

日 時：平成21年7月16日（木）

場 所：西新橋校

講 演：地域医療現場での教育改善—英国での教育アドバイザー

Diana Kelly

Education Adviser

King's College London School of Medicine

at Guy's, King's College and St Thomas' Hospitals

Sherman Education Centre

4th Floor, Southwark Wing

Guy's Hospital

London SE1 9RT

第48回医学教育セミナー

日 時：平成21年11月9日（月）

場 所：西新橋校

講 演：英国キングス大学の医学教育カリキュラム

Prof. John Rees

King's College, Division of Medical Education Sherman

Education Centre

7. 第32回～第34回カリキュラム特別検討会

以下のとおり開催された。

第32回カリキュラム特別検討会

日 時：平成21年8月6日（木）

場 所：西新橋校

テーマ：学内試験の改革—試験によって学生の学び方はどのように変わるか—

第33回カリキュラム特別検討会

日 時：平成21年11月16日（月）

場 所：西新橋校

テーマ：4年次の講義で何を伝えるか—1コマ70分間の新しい講義に向けて—

第34回カリキュラム特別検討会

日 時：平成22年1月18日（月）、平成22年1月20日（水）

場 所：西新橋校

テーマ：4年次の講義時間短縮と講義担当者の心構え

8. その他の報告事項

1) 新入生オリエンテーション

平成21年4月10日（金）、11日（土）の両日、新1年生を対象にオリエンテーションが行われた。初日は、学長より建学の精神と医学生としての心構えについての講話、小論文作成、学生生活アドバイザーとのグループ討論ならびに懇談会等があり、2日目はカリキュラム、健康管理の説明、学生生活等についての諸注意が行われた。

2) 首都大学東京から学生の受入れ

首都大学東京との教育・研究交流協定書に基づき特別科目等履修生を受入れた。

平成21年度は国領校3名、西新橋校4名、合計7名の学生の単位を認定した。

3) 学祖の墓参および学長、教学委員と学生の懇親会

学長、教学委員、学生代表が平成21年10月10日（土）に青山墓地に眠る学祖高木兼寛先生の墓参をした。また学祖を偲んで千代田区一ツ橋の如水會館で懇親会を開催した。

4) 学生生活アドバイザー

担当教員はそれぞれ4～5名の学生を受持っている。1年生は国領校教員および第三病院勤務教員、2年生は西新橋校基礎講座教員が担当している。また、総括と意見交換のためにアドバイザーが集まって懇談会を開催した。

5) 共用試験システム

「臨床実習開始前の学生評価のための共用試験システム」が例年どおり運用された。OSCEは平成22年1月16日（土）に西新橋校大学1号館8階演習室で、CBTは平成22年2月5日（金）に西新橋校4階講堂で実施された。受験者数103名、欠席者なしであった。またCBTは1名の再試験を2月26日（金）に医療系大学間共用試験実施評価機構で実施した。

6) 4大学学生教育交流会

本学と昭和大学、東邦大学、東京医科大学の4校が持ち回りで年2回の開催が続けられている。カリキュラム全般および臨床実習、卒業試験、医師国家試験、共用試験等に関する話題を中心に継続的な交流が図られている。平成21年度は戦略的大学連携支援事業を4校の協力で展開している。平成21年度の開催日および当番校は以下の通りであった。

第22回 平成21年 5月22日（金）東京医科大学

第23回 平成21年11月20日（金）東邦大学

7) オープンキャンパス

例年8月に行っている医学科大学説明会はオープンキャンパスに名称を改め、3回ともオープンキャンパスとして広報し、いずれも午後1時30分から開催した。終了後、大学1号館教育施設の見学と個別相談会を実施した。

1回目：平成21年8月22日（土）中央講堂 参加者：約650名

2回目：平成21年9月26日（土）中央講堂 参加者：約310名

3回目：平成21年10月24日（土）1号館講堂 参加者：約200名

8) 教育施設

医学科、看護学科の入学定員増加、首都大学東京からの履修生受け入れに伴い、国領キャンパス620講義室の改修工事（教育機器の充足、収容定員数を185席に）を行った。

II. 入学試験

1. 入学試験は、平成22年2月4日（木）に五反田 TOC ビルで一次試験を、2月13日（土）・14日（日）に本学西新橋校舎で二次試験を実施し、2月18日（木）午後3時に合格発表を行った。志願者数は2,576名、入学者数は106名である。

入学者の内訳は下記の通りである。

① 男子 67名、女子 39名

② 現役 33名、1浪 55名、2浪 13名、その他 5名

③ 地域別入学者数

北海道	1名	東北地方	4名
東京および関東地方	87名	甲信越・北陸地方	1名
東海・近畿地方	6名	山陽地方	1名
四国地方	2名	九州地方	4名

III. 国家試験

1. 医師国家試験

第104回医師国家試験は平成22年2月13日（土）～15日（月）の3日間に渡り実施され、結果が3月29日（月）に発表された。

本学からの受験者数は105人であり、合格者97人、合格率92.4%であった。全国平均合格率は89.2%であり、本学の合格率は全国26位、私立7位であった。新卒者については103人中合格者96人、合格率93.2%（全国平均92.8%）、既卒者については受験者2人中1人が合格し合格率

50.0%（全国平均52.4%）であった。

IV. 退任記念講義

平成22年1月30日（土）午後3時から大学1号館講堂において開催された。

馬詰 良樹 教授（分子生理学講座）

演 題：「気ままな生理学」

田嶋 尚子 教授（内科学講座 糖尿病・代謝・内分泌内科）

演 題：「糖尿病の臨床疫学—私の歩いてきた道—」

基礎医学、臨床医学の分野で活躍された2教授の含蓄ある講義に学生及び教職員一同が大変感銘を受けた。次いで渡邊直熙副教学委員長から同じく定年退任される久保政勝教授（小児科学）、古幡博教授（ME研究室）、の略歴が紹介され、栗原敏学長より挨拶があり記念品が贈呈された。また、学生会より記念品並びに花束贈呈があり、同窓会、父兄会より記念品の贈呈があった。

退任記念講義終了後、退任される4教授を囲んで退任記念パーティーが「東京プリンスホテル・サンフラワーホール」にて開催された。会場には、教職員、同窓、学生が参集し、盛大なうちに会は終了した。

(2) 看護学科

I. 教学関係

1. 教学委員会

看護学科教学委員会は看護学科教学委員長1名、看護学科教学委員4名をもって構成され、教学委員会は定例として毎月1回開催されている。

教学委員は以下の通りである。

平成21年4月～平成22年3月

教学委員長 奥山 則子

教学委員 藤野 彰子、櫻井美代子

茅島 江子、平尾真智子

2. 教学関連の主な事項

- ① 平成21年度は、1年生（18期生）42名、2年生（17期生）41名、3年生（16期生）43名、4年生（15期生）35名で新学期をむかえた。
- ② 平成21年度オリエンテーションは、4月10日から16日に実施し、期間中のテーマを「私のキャリアデザイン」とし、徳永瑞子氏（聖母大学教授）による講演会（看護職として～これまで、いま、そして、これから～）やシンポジウム（テーマ～私のキャリアデザイン）を開催し、大変好評であった。また、健康診断や防災、防犯についての講習会、カルト教団への注意を喚起する講演も並行して行なわれた。
- ③ 平成21年度改正カリキュラムが1年生（18期生）に導入され、新規に開講された科目などの実際的な対応を行った。
- ④ 次の期間に定期試験を実施した。
 - ・前期 平成21年6月27日
平成21年8月31日～9月18日
 - ・後期 平成22年1月26日～2月6日
- ⑤ 平成21年7月25日、17期生の「看護への思いを新たにす式」の一環として、三村昭美氏（東京慈恵会医科大学附属病院看護部主任・・・本学3期生）による講演会が実施され、9月5日に本学関係者、ご父母をお招きし、式典を行った。
- ⑥ 平成21年10月9日、「看護継続ゼミ」の一環として、川田龍平氏（参議院議員）による講演会（テーマ～生きるって楽しい、と思える日本になるために）を開催した。
- ⑦ 平成21年10月10日には学祖高木兼寛先生の墓参があり、学生代表が参加した。
- ⑧ 平成21年10月28日には解剖諸霊位供養法会が行なわれ、4年生が参加した。

- ⑨ 平成21年11月28日、4年生の看護研究発表会が行なわれた。
- ⑩ 平成22年3月12日には医学科と合同の卒業式が西新橋で行なわれ、15期生35名が卒業し、慈大賞と同窓会賞がそれぞれ1名に贈られた。

II. 入学試験

1. 平成22年度入学試験は、平成22年2月10日（水）に一次試験を、2月13日（土）に二次試験を実施した。志願者数は、329名、入学者は42名、その内訳は次のとおりである。
 - ① 女子 40名、男子 2名
 - ② 現役 32名、1浪 8名、その他 2名
 - ③ 地域別入学者数

北海道地方	1名	東北地方	1名
東京および関東地方	35名	信越地方	4名
東海地方	0名	近畿地方	0名
中国・四国地方	0名	九州・沖縄地方	1名
2. 平成21年度オープンキャンパスは、平成21年7月28日（火）と8月25日（火）・26日（水）の3日間実施し、参加者数は481名であった。内訳は、7月が190名、8月が291名であった。
3. 受験生の確保を目的に、学外で開催された3箇所の大学ガイダンス等に分担して教員・学事課職員が参加した。
4. 高等学校53校へ訪問し、本学のピーアールや看護について進路指導の先生方へ説明し、看護について理解を深めてもらった。また、模擬授業も4校で実施した。

III. 国家試験

1. 看護師・保健師国家試験

第99回看護師国家試験は、平成22年2月21日（日）に、第96回保健師国家試験は平成22年2月19日（金）に実施され、その結果が3月26日（金）に発表された。

看護師国家試験は15期生35名が、保健師国家試験は15期生35名、既卒者1名が受験し、全員が合格した。

なお、全国の看護師国家試験合格率は89.5%、保健師国家試験合格率は86.6%であった。

IV. 学生生活アドバイザー

平成21年度より、学生生活を稔り豊かなものとするため、学習上や生活上の悩みを気軽に相談できる学生生活アドバイザー制度を導入した。1、2年生を対象とし、比較的若手の教員が4～5名の学生を担当し、前期・後期それぞれ1回の交流活動の他、適宜自由に活動を行なった。学生アンケートの結果は好評であった。

(3) 大学院

1. 医学研究科博士課程

平成19年度より大学院改革を実施し、以後大学院の改善充実を図るため種々検討を重ねてきた。平成21年度は大学院をより充実させるよう検討を行った。

主な項目は以下のとおりである。

- 1) 透明かつ公正な学位審査会の実施
 - ① 学外から審査委員を登用した。
 - ② 乙種の学位審査料を見直し、論文指導手当として指導教授に手当を配当する。（平成21年度受付分より）
- 2) 本学の研究の充実とその活性化を図るための実施
 - ① 平成21年度の医学研究科研究推進費の採択件数は6件となった。（前年度比+3）
 - ② 研究奨励費と振興費を統合し、新たな助成制度を創設するための検討を行っている。平成20年度より医学研究科における研究の充実とその活性化を図るため医学研究科の助成制度（東京慈恵会医科大学医学研究科研究推進費）を創設し、平成21年度は6件採択した。（前年比+3）

3) 大学院教員へ Faculty Development の実施

大学院委員会と倫理委員会共催でFD「臨床研究に関する講習会」を2回実施した。

日 時：平成21年6月16日（火）18：00～ 講 師：薄井紀子

日 時：平成21年6月29日（月）18：00～ 講 師：藤原康弘

4) カリキュラムの内容の検証

- ① 共通カリキュラム必修科目「医学教育学」、「医の倫理」、「医学研究法概論」の授業コマ数を8コマとした。
- ② 当講義は大学院生のみならず研究者にとって有益な講義であったため、講義の一部を公開講義とし、社会人大学院生でも履修できるよう動物実験や医療統計学を土曜日に開講した。
- ③ 平成22年度から選択カリキュラムの授業の一部に e-learning システムを導入することにした。

平成22年度の大学院入試は2回実施し、1回目は平成21年10月3日に、2回目は平成22年2月24日に実施した。その結果、35名（うち社会人7名）が合格した。この結果、大学院全体の学生数は102名となった。本学の大学院生は本学の各講座、総合医科学研究センターのみならず、国外ではカリフォルニア大学、ボストン大学、スタンフォード大学、ベイラー医科大学など、国内では東京大学、大阪大学、防衛大学校、慶應大学および放射線医学総合研究所、国立成育医療センター、国立感染症研究所など国内外の様々な大学、研究所でも広く研究を行っている。

2. 看護学専攻修士課程

本課程が平成21年4月に開講したのを受けて、課程の安定的な運営に努めるべく研究科委員会、大学院委員会、教学委員会、FD委員会、大学自己点検・評価委員会、入学試験委員会を発足させ、運営を図った。

教員への教育研究支援として、博士課程と同様に授業料の返戻制度を利用して「研究指導費」を創設して、教員への教育研究支援制度を作った。

また、学生に対しては、博士課程と同様な「研究助成制度」を創設して、学生にとっては、研究指導費の院生使用分と研究助成制度により、活動の範囲や内容を高めるようにした。

入学試験は、募集を平成21年9月1日（火）～9月25日（金）間に行い、出願資格認定試験を平成21年10月3日（土）、一般入学試験を平成21年10月18日（日）に実施した。

その結果、17名の応募があり、12名が合格した。

また、文部科学省へ大学等の設置に係る設置計画履行状況報告について、平成21年5月14日（木）に提出し、平成22年2月5日付で、「特段の留意事項は付さない」との通知を受けた。

6) 慈恵看護専門学校の様況

看護専門学校学生数（平成21年5月1日現在）

	学生総定員数	1学年定員数	1年生	2年生	3年生	計
	人	人	人	人	人	人
慈恵看護専門学校	300	100	102	104	99	305
慈恵第三看護専門学校	150	50	51	53	49	153
慈恵青戸看護専門学校	120	40			27	27
慈恵柏看護専門学校	240	80	84	76	55	215
計	810	270	237	233	230	700

(1) 慈恵看護専門学校（校長：川村将弘、副校長：蝦名總子、事務長：岡村秀樹）

I. 教学関係

1. 運営委員会

- ① 慈恵看護専門学校運営委員会は校長、副校長、教務主任、事務長、慈恵会局長の5名をもって構成され、定例として毎月1回開催されている。
- ② カリキュラム運営委員会は副校長、教務主任、カリキュラム委員6人で構成され週1回開催されている。

2. 教学関連の主な事項

- ① 平成21年度1年生（60期生）102名（新入生101名＋復学者1名）、2年生（59期生）104名、3年生（58期生）99名、で新学期をむかえた。
- ② 平成21年度オリエンテーションは4月8日から4月23日にかけて、学校生活を円滑に送ることができるようガイダンスが行われた。この間に上級生と交流する機会も持った。オリエンテーションの一環として1年生を対象に防災訓練を実施した。
- ③ インフルエンザ流行のため、罹患した学生に不利益が最小になるよう試験日程等の配慮をした。
- ④ カリキュラム改訂
平成21年度入学生より新カリキュラム（97単位）を導入。教育内容の精選を図りコミュニケーション能力や、フィジカルアセスメント能力の向上を目指した科目を開設した。また統合科目について教育内容を精選すべく複合した臨床看護技術を演習する科目を開設した。
今年度初めて、成人看護学3実習において3年生全員に夜間実習を経験させた。夜間の看護師の仕事の実際や患者の様子を知り看護者としての役割を広く学べた。2年後の統合実習に向けて示唆を得ることができた。
旧カリキュラム未履修科目を持つ者が単位を新カリキュラムの教授内容で履修できるよう単位互換の整理、および対象学生へのガイダンスを行った。
- ⑤ 次の期間に定期試験を実施した。
 - ・前期 平成21年 9月16日～ 9月26日
 - ・後期 平成21年12月21日～12月22日
平成22年 2月12日～ 2月22日
- ⑥ 平成21年10月8日には東京都看護協会主催の看護学生看護研究学会（普門館）に2、3年生が参加。本学の学生2名が発表した。
- ⑦ 平成21年10月22日、23日、3年生の学外セミナーを実施。「ケアの本質」について話し合い看護についての学びを深めた。
- ⑧ 平成21年10月30日看護研究発表会、平成22年3月3日看護観発表会を3年生が行った。
- ⑨ 平成22年3月13日に卒業式が行なわれ、93名が卒業し、優等賞と同窓会恵和会賞がそれぞれ1名に贈られた。

II. 入学試験

1. 平成22年度入学試験は次のとおり実施した。

推薦・大学卒選考〔一次〕平成21年10月29日（木）〔二次〕平成21年11月14日（土）

一般選考 〔一次〕平成22年1月20日（水）〔二次〕平成22年1月23日（土）

志願者数は426名（推薦54名・大学卒107名・一般265名）、入学者は95名（推薦54名・大学卒12名・一般29名）であった。

2. 平成21年度オープンキャンパスは、平成21年7月18日（土）・8月29日（土）・11月28日（土）の3日間実施し、参加者数は439名（内訳は7月153名、8月215名、11月71名）であった。

3. 予備校主催入試ガイダンス等は、7月に5箇所、12月に2箇所、分担して教員・事務員が参加した。

Ⅲ. 国家試験

第99回看護師国家試験は、平成22年2月21日（日）に実施され、その結果が3月26日（金）に発表された。

58期生93名が受験し、93名全員が合格した。

なお、全国平均合格率は89.5%であった。

(2) 慈恵青戸看護専門学校（校長：武田信彬、副校長：栗原則子、事務長：横山秀彦）

I. 教学関係

1. 学校運営に関する会議

運営会議は校長、参与、副校長、カリキュラム調整者、事務長で構成され、定例として毎月1回開催されている。教員会議は、校長、副校長、カリキュラム調整者、実習調整者、看護専任教員で構成され、定例として毎月2回開催されている。その他の会議・委員会は、教職員会議、認定会議（単位認定会議・卒業認定会議）、臨床実習指導者会議、カリキュラム委員会、実習委員会等である。

2. 教学関連の主な事項

- ① 平成21年度は新学期を3年次（23期生）27名で迎え、4月6日に始業式が行われた。
- ② 平成21年6月20日、恵和会主催特別講演を川越厚氏による「スピリチュアルケアの実際」のテーマで、4看護学校の2・3年次の学生を対象に中央講堂で行われた。
- ③ 平成21年5月8日と12月22日に、身近な先輩との交流を通して自らが目指す専門職への魅力や関心を高めることをねらいとして、臨地実習開始当初と終了後の2回実施した。
- ④ 平成21年6月25日に球技大会を国領校の樋口体育館で行った。
- ⑤ 平成21年10月3日、医療安全教育の一環として大学主催の「医療の安全管理と倫理ワークショップ」へ、学生10名が参加した。
- ⑥ 平成21年10月8日の看護学生看護研究学会に学生全員で参加し、事例研究と調査研究の2題発表した。
- ⑦ 平成21年10月22日、防災訓練を実施した。
- ⑧ 平成21年11月15日、専門職業人として自覚を持ち、看護への関心を深めることをねらいに「第15回訪問看護・在宅ケア研究交流会、訪問看護サミット」に学生全員が参加した。
- ⑨ 平成21年12月22日、入院中の患者様にキャンドルサービスを実施した。
- ⑩ 平成22年3月8日、青戸中学校 BLS+AED コース（一次救命処置修得コース）に学生全員が参加した。
- ⑪ 平成22年3月13日、3専門校合同の卒業式が挙行され、第23期生27名が卒業し、優等賞、恵和会賞がそれぞれ各校の学生1名に贈られた。

II. 入学試験

平成20年度より学生募集を停止した。

Ⅲ. 看護師国家試験

第99回看護師国家試験は、平成22年2月22日に実施され、その結果が3月26日に発表された。第23期生27名が受験し全員が合格した。また、既卒者は2名が受験し全員合格した。本校の合格率は100%である。なお、全国の看護師国家試験合格率は89.5%であった。

Ⅳ. 閉校関係

- ・本校の閉校に向けての行政への手続きは滞りなく進めた。なお、平成22年4月以降の問い合わせや行政・大学への提出書類等については、慈恵医大附属青戸病院管理課で対応する。
- ・学籍簿等永久保存の書類は、慈恵柏看護専門学校で管理し証明書等の対応をすることになった。問い合わせについては慈恵大学のホームページや恵和会新聞にその案内を載せた。
- ・備品や教材物品等の整備・廃棄・移管手続き等を行い、平成22年4月以降に移管の予定である。
- ・記念誌を発刊し、卒業生（同窓生）及び関係各所に配布した。
- ・平成22年3月19日、葛飾区長と大学役員を始めとする関係者の出席のもと、慈恵青戸看護専門

学校講堂に於いて「閉校式」を挙行、その後、テクノプラザかつしかで「閉校記念パーティ」を開催した。

(3) 慈恵第三看護専門学校（校長：横山淳一、副校長：平岡宮子、事務長：佐藤博）

I. 教学関係

1. 会議

下記の会議を置き学校運営にあたっている。

運営会議は学校長、副校長、参与、教務主任、実習調整者、学年担当、事務長で構成され、毎月1回開催されている。その他の会議・委員会は、教員会議、認定会議、入学試験判定会議、カリキュラム会議、講師会議、臨床実習指導者会議、教職員会議等である。

2. 教学関連の主な事項

- ① 4月4日（土）3校合同入学式が西新橋で行われ、当日、保護者会を開催した。平成21年度1年生（20期生）51名、2年生（19期生）53名、3年生（18期生）49名計153名で新学期をむかえた。
- ② 5月30日4校交流会を柏校で開催した。
- ③ 6月11日～13日、2泊3日の日程で平山キャンプ場にて教育キャンプを実施した。
- ④ 6月20日、川越厚氏による「スピリチュアルケアの実際」のテーマで恵和会特別講演を4校学生対象に開催した。
- ⑤ 7月18日、3年生保護者会を開催し看護師国家試験の現状と対策を理解していただき、学生が実習や学習に集中できるように協力してもらうための機会とした。
- ⑥ 7月25日、9月26日、11月8日（学校祭同時開催）の3回、学校説明会を開催した。参加総数は、受験生および保護者を含め200+ α 名であった。
- ⑦ 9月5日講師会を開催し外部講師11名の参加があった。平成22年度の改正カリキュラムの趣旨・改正点について説明した。また学生の動向（入学生、卒業生、在校生）と看護師国家試験の合格率・合格基準、出題形式の変更について報告した。
- ⑧ 11月27日、理事長同席のもと1年生51名の戴帽式を実施した。
- ⑨ 平成22年3月13日3校合同の卒業式が西新橋で行われた。18期生35名が卒業し、優等賞と同窓会より恵和会賞が授与された。

II. 入学試験

平成21年度入学試験は、推薦入試を平成20年11月20日（木）・11月29日（土）、一般入試を平成21年1月18日（日）・1月20日（火）に実施した。

志願者数は推薦24名、一般139名、入学者は51名であった。

III. 国家試験

第99回看護師国家試験は、平成22年2月21日（日）に実施され18期生35名が受験し、35名（100%）が合格した。なお、全国の看護師国家試験合格率は89.5%であった。

(4) 慈恵柏看護専門学校（校長：佐々木敬、副校長：山下紳子、事務長：渋谷守）

I. 教学関係

1. 学校運営に関する会議

- 1) 学校運営会議は、毎月1回開催されている。
- 2) 教職員会議は、毎月1回開催されている。
- 3) 教員会議は、毎月2回開催されている。

2. 教学関連の主な事項

- 1) 平成21年4月4日（土）、3校合同入学式を挙行した（23期入学者81名）。
- 2) 平成21年度、1年生（23期生）84名、2年生（22期生）76名、3年生（21期生）55名の計21

5名で新学期を迎えた。

- 3) 4月6日(月)、平成21年度始めにあたり全学生を対象に対面式・始業式を実施した。教職員紹介、学年のクラス編成の説明及び校長より教育方針の表明を行い3年間の学習計画導入として行なっている。
- 4) 4月2日(木)に、講師会を実施。本校の教育計画の周知と日頃の教育に関する意見交換の場として活用している。
- 5) 5月30日(土)に柏看護専門学校講堂において4校合同交流会が行われた。今年は、田辺功講師(株式会社ココノッツ、医療ジャーナリスト)を招き「国民が望む医療～看護基礎教育に期待すること～」の講演を行った。
- 6) 6月20日(土)に看護専門学校4校の2・3年生を対象に恵和会の特別講演が行われた。講師は川越厚先生(演題:スピリチュアルケアの実際)である。
- 7) 人間関係の基礎倫理を学び体験を通して深められるように2年次の3月と1年次・3年次の7月に「人間関係論1・2」として2泊3日の宿泊研修を実施している。
- 8) 安全教育の一環として大学主催の「医療の安全管理と倫理ワークショップ」へ3年生が年2回10名ずつ参加した。また、学内で「看護における安全」と題して実習中のヒヤリハット事例のグループワークを通して看護事故防止への意識の向上を図っている。
- 9) 平成21年11月20日(金)戴帽式を挙行了した(23期生1年生79名)。
- 10) 平成22年3月9日に全学生を対象に、高木専務理事の特別講演「学祖高木兼寛に学ぶ」が行われた。
- 11) 平成22年3月13日(土)3校合同の卒業式が挙行され、21期生55名が卒業し、優等賞、恵和会賞がそれぞれ各校1名に贈られた。また、千葉県より優秀な学生に対して贈られる千葉県知事賞が本校卒業生1名に贈られた。

II. 入学試験

1. 平成22年度推薦入学試験は、1次試験を平成21年11月4日(水)に、2次試験を11月14日(土)に実施した。志願者数43名中42名が合格し入学した。
2. 平成22年度一般入学試験は、1次試験を平成22年1月26日(火)に、2次試験を1月28日(木)に実施した。志願者数は265名、入学者は79名でその内訳は次のとおりである。
 - (1) 現役70名、既卒者9名(内大卒3名、短大卒3名、高卒3名、専門卒0名含む)
3. 平成21年度学校説明会は、平成21年7月・8月・10月の3日間実施し、参加者数は約390名であった。
4. 学生確保の目的による推薦入学で在学中の出身高等学校42校(千葉県22校、茨城県8校、埼玉県7校、東京都5校)に対して学校訪問を行った。
5. 予備校等で開催された学校相談会に出席し約200名の相談を受け付けた。

III. 看護師国家試験

1. 第99回看護師国家試験は、平成22年2月21日(日)に実施され、その結果が3月26日(金)に発表された。21期生55名が受験し、51名が合格した。

なお、全国の看護師国家試験合格率は88.9%であった。

IV. 学生関係行事

- 1) 4月16日(木) 1、2年生健康診断実施
- 2) 4月21日(火) 3年生健康診断実施
- 3) 7月28日(火) 体育祭を実施
- 4) 10月17日(土) 秋芳祭を実施
- 5) 12月22日(火) キャンドルサービスを実施

7) 卒後臨床研修

1. 初期臨床研修

- 1) 平成21年度初期臨床研修医は、82名（本学卒51名、他学卒31名）、歯科2名、計84名が平成21年4月1日より研修を開始した。

附属4病院別の採用数は下記の通りである。

本 院 42名（定員49名）内訳：本学卒20名、他学卒22名
（歯科医師2名を含めると本院の研修医は44名である。）

青戸病院 7名（定員9名）内訳：本学卒6名、他学卒1名

第三病院 19名（定員24名）内訳：本学卒12名、他学卒7名

※その他本学卒の他施設にて研修、中断していた1名を平成21年4月1日より受入れている。

柏病院 14名（定員25名）内訳：本学卒13名、他学卒1名

- 2) 平成22年度初期臨床研修医（医科）の採用試験を7月25日、8月21日に西新橋校において実施した。厚生労働省からの指示により、研修プログラムの制約が大幅に緩和され、東京都の臨床研修病院は定員削減となった。また定員20名を超える研修病院は小児・産科プログラムを定員枠内にて設置する必要があり、22年度の募集定員は下記の通りとなった。

本 院：47名（一般45・小児産科2）、青戸病院：8名、

第三病院：21名（一般19・小児2）、柏病院：24名（一般22・小児産科2）。

附属4病院合わせて定員100名の全員採用を見込み224名のマッチング登録を行ない、マッチング結果は90名であったため、追加募集を実施し4名（青戸病院2名、第三病院1名、柏病院1名）を内定した。

- 3) 平成22年度初期臨床研修医（歯科）の採用試験を8月8日西新橋校において実施した。定員3名のところ、10名のマッチング登録を行ない、マッチング結果は3名と充足した。
- 4) 各大学における卒業試験および医師・歯科医師国家試験の結果、平成22年度初期臨床研修医は医科85名（本学卒56名、他学卒29名）、歯科3名となった。

結果、附属4病院別の採用数は下記の通りである。

本 院 40名（定員47名）内訳：本学卒15名、他学卒25名
（歯科医師3名を含めると本院の研修医は43名である。）

青戸病院 4名（定員8名）内訳：本学卒 4名、他学卒 0名

第三病院 20名（定員21名）内訳：本学卒 18名、他学卒 2名

柏病院 21名（定員24名）内訳：本学卒19名、他学卒2名

- 5) 研修指導医講習会を1回開催し、34名が修了した。
 - ・第6回研修指導医講習会 平成21年8月21日（金）、22日（土）修了者数34名なお、当該講習会は、厚生労働省の開催指針に基き開催し、修了者には修了証として、厚生労働省医政局長と院長の両者印が押印されたものが授与される。
- 6) 他大学医学科生向けに病院説明会を2回開催し合計94名の参加者を集めた。

第1回説明会 平成21年6月27日（土）

第2回説明会 平成21年7月11日（土）

- 7) 外部機関・メディカル・プリンシプル社が主催する『医学生のための臨床研修指定病院合同セミナー・レジナビフェア2009in 東京』（平成21年7月19日開催）に参加した。大学、市中病院等を含めて356施設が出展し、5年生を中心に1765名の参加があった。本学ブースには、34大学135名の学生が来場した。
- 8) 今年度のCPCについては5月から11月にかけて計6回開催した。

開催回数	開催日	担当科	臨床診断名
第696回	5月11日(月)	循環器内科	高度全身動脈硬化症、多臓器塞栓性梗塞、心不全
第697回	6月8日(月)	腫瘍・血液内科	NHL、臍帯血移植、進行性多巣性白質脳症
第698回	7月6日(月)	呼吸器内科	Goodpasture's syndrome
第699回	9月7日(月)	外科	胃癌
第700回	10月5日(月)	泌尿器科	腎盂癌
第701回	11月9日(月)	糖尿病・代謝・内分泌内科	糖尿病、脳梗塞

2. 専門修得コース（レジデント）

- 1) 平成21年度より、レジデント127名（本学初期臨床研修修了者78名、他施設初期臨床研修修了者46名（本学卒20名）、大学院単位取得者3名）が専門修得コースでの研修を開始した。
- 2) レジデント84名、リサーチレジデント3名の合計87名が平成22年3月31日をもって専門修得コースを修了した。
- 3) 平成22年度レジデントの採用試験を平成21年9月26日（土）に実施し、その後も随時追加試験を実施した結果、133名（前年比+6名）を採用した。採用者の内訳は次の通りである。
本学初期臨床研修修了者79名、他施設初期臨床研修修了者54名（本学卒15名）、大学院単位取得者0名

8) 生涯学習センター

- 1) 登録者数：平成22年3月現在237名、内港区医師会31名、中央区医師会6名である。
- 2) 利用者数：平成21年度は147名である。
- 3) テレフォンプサービス利用件数：平成21年は80件である。
- 4) 月例セミナーが下記のとおり開催された。
 - ① 第176回・平成21年4月11日
インフルエンザの現状と対策 井田博幸（小児科）
 - ② 第177回・平成21年5月9日
脳卒中のリハビリテーション
—最新のリハビリテーションを中心に— 安保 雅博（リハビリテーション科）
 - ③ 第178回・平成21年6月13日
アルツハイマー病の予防と治療の最前線 阿部 俊昭（脳神経外科）
 - ④ 第179回・平成21年7月11日
胆石症の診断と胆嚢温存療法 高木 一郎（消化器・肝臓内科）
 - ⑤ 第180回・平成21年9月12日
降圧薬の選び方と使い方
高血圧治療ガイドライン2009 景山 茂（薬物治療学）
 - ⑥ 第181回・平成21年11月14日
尿路感染症・性感染症の標準治療と新戦略 小野寺昭一（感染制御部）
 - ⑦ 第182回・平成22年2月13日

- 救急医療の現状
⑧ 第183回・平成22年3月13日
実地医家のための画像診断再入門
- 小川 武希（救急部）
福田 国彦（画像診断部）

5) 第30回夏季セミナー

「血管内治療最前線」が平成21年8月8日（土）午後4時より福田国彦（画像診断部）の司会で行われ、参加者は88名であった。

- ① 高齢化社会到来に対する備え
；血管病治療の最前線
- ② 脳血管内治療—今後の可能性—
- ③ 冠動脈インターベンション治療の最前線
- ④ 腹部のIVR
- ⑤ 総合討論
- ⑥ 懇親会（立食）
- 大木 隆生（血管外科）
石橋 敏寛（脳血管内治療部）
小川 崇之（循環器内科）
貞岡 俊一（画像診断部）

4. 研究

1) 教育研究助成委員会・大型プロジェクト対策委員会・発明委員会

- (1) 教育研究助成委員会は、本学の教育と研究の向上を図るため、これらに係る学内教育研究費の予算化および文部科学省科学研究費補助金を始めとする公的研究費の他各種財団等からの補助・助成について審議し、決定事項を教授会に提案、報告している。また、委員会は研究費の不正防止計画担当部署として、文部科学省「公的研究費の管理・監査のガイドライン」に基づく体制整備等の推進と運用の徹底を推進している。
- ① 平成21年度の委員会は、委員長：渡辺直熙、委員：大川清、松藤千弥、田尻久雄、細谷龍男、寺坂治、茅島江子各教授及び高木敬三専務理事で構成された。
 - ② 平成21年度文部科学省科学研究費補助金の採択件数・交付額は、合計107件・総額182,565千円（間接経費含む）であった。厚生労働科学研究費補助金および関係独立行政法人委託研究事業等は、採択後大学で経理事務を行った研究代表者および研究分担者数は56件、総額295,354千円（間接経費含む）、また研究者等より大学あてに報告のあった各種民間財団等から交付通知を受けた研究補助・助成金は19件（応募件数126件）であり金額は29,290千円であった。
 - ③ 平成21年度私立大学等経常費補助金（特別補助）の申請ゾーンのメニュー区分改定に伴う本学申請ゾーンの見直しを行った。
 - ④ 平成22年度教育研究経費関係予算の立案および研究機器等の選定を行った。
 - ・学生教育用実習機器購入費
 - ・文部科学省私立大学等研究設備費等補助金費
 - ・慈恵大学一般研究設備費
 - ・文部科学省「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」
 - ・日本私立学校振興・共済事業団「学術研究振興資金」
 - ・私立大学等経常費補助金（特別補助）
 - ⑤ 「研究費適正化推進計画」の策定
研究費の不正防止を図る観点から、文部科学省「公的研究費の管理・監査のガイドライン」に基づき「研究費適正化推進計画（第1次）」策定し、教授会議の報告した他、学内イントラネットに掲載した。
 - ⑥ 「研究費使用ガイド」の作成
研究費使用における留意事項等の要点のほか、各種規程や承認権限の一覧表を掲載した「研究費使用ガイド」を作成し、学内イントラネット掲載と合わせて冊子にして研究者に配布し、周知事項の充実と広報の工夫に努めた。
 - ⑦ 「研究費不正使用による取引停止取扱規程」の公表
本学の教職員の研究費不正運用に加担、協力または不正運用を誘引した企業に対して取引停止の処分を講ずる必要が生じた場合の取扱いを定めている「東京慈恵会医科大学の研究費不正使用による取引停止取扱規程（平成19年10月1日より実施）」について、より周知徹底するため大学のホームページへ掲載し公開した。
 - ⑧ 外部有識者（監査法人）に委託して複数の研究課題や高額な公的研究費の交付を受けている研究者を対象に日常における研究費の管理方法、使用ルールの理解・周知度等についてヒアリング調査を実施した。
- (2) 大型プロジェクト対策委員会は、全学の研究体制の整備拡充の推進と研究活動の活性化のため、本学がとるべき適切かつ最善な方策（総合医科学研究センター各研究施設の充実、大型研究設備設置、大型研究プロジェクト申請の選定等）を審議している。
- ① 平成21年度の委員会は、委員長：渡辺直熙教授、委員：馬詰良樹、阿部俊昭、森山寛、田尻久雄の各教授と高木敬三専務理事で構成された。
 - ② 平成21年度に委員会が審査を実施し、応募申請した大型研究プロジェクトは次のとおり

である。

- ・文部科学省「教育研究高度化のための支援体制整備事業」
- ・内閣府「最先端研究開発支援プログラム」
- ・武田科学振興財団「特定研究助成金」
- ・文部科学省「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」

なお、私立大学戦略的研究基盤形成支援事業については、平成22年4月13日付けで文部科学省より採択通知があった。

- (3) 発明委員会は、本学が関係する発明と特許について審議している。
- ① 平成21年度の委員会は、委員長：渡辺直熙教授、委員：馬詰良樹、阿部俊昭、森山寛、田尻久雄の各教授と高木敬三専務理事で構成された。
 - ② 平成21年度は6件の発明の届出があり、6件の発明すべてについて特許権等の権利を大学が承継することになった。なお、企業との共同出願していた発明のうち、国内特許登録となったものが2件、外国（米国）特許登録となったものが1件あった。
 - ③ 東京慈恵会医科大学発明実施補償金細則を定めた（平成21年5月1日制定）

2) 総合医科学研究センター

総合医科学研究センターは、本学の特色ある先端的な研究の推進、臨床研究の活性化のため、センター組織改編の審議を重ね、平成21年4月1日より以下の新体制を整備した。

- ① DDS 研究所を平成21年3月31日に閉鎖し、同研究室を主として臨床講座の研究推進のための施設とした。
- ② センター研究支援部門に「共用研究施設」を新設した。
- ③ 臨床研究開発室を発展的に解消して、新たに「分子疫学研究室」並びに「臨床疫学研究室」を設置した。

今回のセンター組織の改編により総合医科学研究センターの活性化につながった。旧 DDS 研究所の跡は「共用研究施設」として活用され、センター内だけでなく多くの臨床・基礎講座からも利用されている。共用研究施設は付属する微細形態研究室、生化学研究室、共用研究室の3つの研究室が本稼働し、学内の登録研究者が自由に研究を行える環境となり、電子顕微鏡や質量分析機などを用いた精密な観察や測定が学内研究支援制度として可能となった。「分子疫学研究室」、「臨床疫学研究室」の両研究室は、分子疫学、臨床疫学という特徴を活かし、総合医科学研究センターの他の研究部門や多くの臨床講座と密接に連携し学内全体の発展に寄与している。

なお、平成21年度における総合医科学研究センター3研究所（DNA 医学研究所・高次元医用画像工学研究所・臨床医学研究所）の活動状況は次のとおりである。

(1) DNA 医学研究所

概要：DNA 医学研究所は6研究部（遺伝子治療、分子免疫学、悪性腫瘍治療、分子細胞生物学、分子遺伝学、臨床情報部）と、1つのプロジェクト研究部（腎臓再生研究室）より構成され、基礎と臨床を結びつける研究を行っている。その成果は海外英文誌や国際学会で発表された。平成21年度より総合医科学研究センター内に共用研究施設が設立された関係でプロテオーム関連、および電子顕微鏡等による微細構造に関する受託事業が DNA 医学研究所より分離された。しかし、DNA シーケンシング等の受託件数は順調に増加した。学内講座からは多くの一般研究員を受け入れ、大学院生の指導・教育も各部において積極的に行った。研究の進捗は随時セミナーで発信し、また、20年度からは研究に関する技術セミナーも開催した。研究は主として下記の課題よりなる。

- ① 悪性腫瘍：悪性腫瘍に対する診断から先端的治療法の開発までを目指した。前立腺がんに対する新規腫瘍マーカーの検索を泌尿器科と共同で行い、複数の有力な候補遺伝子を見出した。治療法では、巨核芽球性白血病の分子生物学的解析と分化誘導療法の開発、消化器外科との共同で膵臓がんに対する遺伝子治療法の開発、超音波を利用した脳腫瘍

治療法の開発、腫瘍・血液内科との共同での薬剤耐性に関する基礎的研究等を行った。免疫療法の開発では新規腫瘍特異的抗原の解析を取り入れた治療法の開発。臨床研究としては消化器内科との共同で WT ワクチンと抗腫瘍薬の併用による固形腫瘍に対する臨床治験と、その効果増強に関する作用機序の解析。さらに、GMP 施設を使用した脳腫瘍に対する樹状細胞と腫瘍細胞の融合を用いた免疫療法を継続して行った。

- ② 遺伝病・再生医療：遺伝病寄附講座との共同でライソゾーム病に対し、iPS 細胞を用いた分子病理の解析を行った。また、同疾患に対する酵素補充療法の効果を検証する臨床応用に関する研究を継続した。再生医療に関しては造血幹細胞を用いた神経疾患の新規治療法の開発を開始した。腎臓再生医療では大型哺乳動物を用いたヒト腎の作製を試みた。また、スーパー特区（代表：古幡博）に関連して、神経幹細胞を用いた神経保護法の開発研究を開始した。
- ③ 免疫・アレルギー：花粉症や食物アレルギーなどの分子機序解明とその治療法の開発に取り組んだ。主として行った課題は、自然免疫による獲得免疫の調節機構を PGD₂ レセプターの観点からの解析、IL-31 によって誘導される IgE 抗体産生のメカニズムの解析、スギ花粉症緩和剤の経口投与による有効性・安全性の評価である。
- ④ 他の進行中の研究として、脊髄性筋萎縮症の病因解明とその治療法の開発、分泌蛋白グリアシリンと分泌能に関する研究、蛍光シリコンナノ粒子の開発などが行われた。

(2) 高次元医用画像工学研究所

高次元医用画像工学研究所は医用工学、医用画像工学領域の先端的研究開発の成果を一日でも早く臨床に活用できるようにすることを使命とし、国策プロジェクトを含め現在25テーマの研究開発を進行させている。特に生体の3次元構造、その動態の4次元的现象を可視化して解析し、これらを活用した手術シミュレーション、ナビゲーション技術の開発を行っている。また新しい概念に基づく手術ロボットの開発やアジア圏をカバーできる遠隔手術ネットワークの開発を進めている。まず文部科学省科研費関連では新学術領域研究（研究領域提案型）において本年度より5年間の期間で「医用画像に基づく計算解剖学の創成と診断・治療支援の高度化」の研究プロジェクトが開始された。東京農工大学、大阪大学、名古屋大学、九州大学との共同研究であり、本研究所は「計算解剖学」の手術シミュレーションへの活用を進めている。NEDO（独立行政法人新エネルギー・産業技術開発機構）が委託元であるインテリジェント手術機器研究開発プロジェクトは現在、東京大学、九州大学を含む11校の大学と3社の企業が参画した大規模研究開発プロジェクトである。今年3年目を迎え、平成21年12月に中間評価を受けた。このプロジェクトにおいて本研究所は九州大学医学部とともに消化器外科用インテリジェント手術機器開発に取り組んでいる。我々の開発した消化器領域手術のための内視鏡型手術用ロボットシステムは各チームの中でも特に高い評点を得ることができた。今後同システムの臨床応用に向けて研究開発を進め、平成20年度経済産業省健康研究推進会議により認定された先端医療開発特区（スーパー特区）での臨床応用の準備を行っている。昨年度終了した独立行政法人日本学術振興会による科学研究費補助金（基盤研究（S））の成果、総務省と実施した日本-タイ間での Tele-NOTES 実験の経験およびタイ政府、現地研究機関との連携関係を用いて、現在アジア圏をカバーする遠隔手術ネットの開発を進めている。また学内共同研究として、次世代ナビゲーション手術システムの実現を目指し、第三病院内に設置されているハイテクナビゲーション手術室を活用した研究を行っている。これは私立大学等経常費補助金を基礎として本学外科学講座、耳鼻咽喉科学講座、形成外科学講座とともに臨床試験を実施している。これらの成果と学内共同研究の過程はTBS、NHK や科学技術振興機構サイエンスチャンネル等で長編ドキュメンタリー番組として本研究所の理学領域の成果とともに放映された。例年同様一般の人々への啓蒙も研究所の使命の一つと考え、その他のTV、新聞等マスコミの取材へもできるだけ対応し、また、フランス大使館主催の視察団など、国内

外諸団体からの研究所への見学などについても前向きに対応した。昨年度より開始された検察庁、警視庁からの犯罪事例に関する被害者損傷状況、事件現場の再現などの高次元画像解析鑑定への依頼に対し本学法医学講座と共同して対応を開始し、鑑定結果に基づく裁判も実施されるなど本格的な活動となった。

(3) 臨床医学研究所

当臨床医学研究所は「患者さん中心の最高・最適の医療を研究面から支援し、かつ推進する」という理念のもと、研鑽を積んできた。平成21年度においては、専任教員（専任研究員）として常勤2名、兼任3名、事務、技術職員（計4名）のほか、総合診療部、消化器・肝臓内科、循環器内科、腫瘍・血液内科、臨床検査医学、脳神経外科、産婦人科など柏病院診療部に所属する教員が一般研究員として登録・参加し、それぞれの研究テーマに取り組み成果を上げている。この中の一部は平成22年3月2日に開催された「DNA 医学研究所・臨床医学研究所合同研究発表会」にて報告された。以下、代表的研究内容を記す。

- ① ダイオキシン類汚染土壌・底質の分解酵素を用いた浄化システムの開発（環境省環境技術開発推進事業）。
- ② ダイオキシン「2378-TCDD」を標的とする持続的広域的環境修復技術の創出（文科省科研費基盤研究Aを分担）。好熱菌 SH 2 B-J 2 株由来酵素の遺伝子クローニングが完成し、アリル-芳香族 2 環構造化学発癌物質の酵素分解の研究を開始。
- ③ 肝発癌の過程において酸化ストレスと関連性が強い遺伝子を網羅的・包括的遺伝子発現解析により明らかにした（Microarray データは NCBI GEO に登録）。
- ④ ラクトフェリンの新規剤型抗酸化剤としてのペグラクトフェリンを開発し、臨床応用へ向けて研究。
- ⑤ C型慢性肝炎における治療法向上への取り組み：附属柏病院の消化器・肝臓内科と共同でウイルス動態等の解析や新規プロトコルの治験を開始。また IL28B 等の SNP 解析や HCV 遺伝子解析を行い、治療効果への影響を研究。
- ⑥ がん診断や治療を目指した磁性ナノ粒子の開発（平成20～23年度の新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）課題）を継続。
- ⑦ 新規磁性ナノ粒子による核酸導入試薬の市販を目指した共同研究。
- ⑧ 磁性ナノ粒子を用いた新型インフルエンザの簡易迅速診断のための原理確認（ライフサイエンス振興財団の研究助成）。
- ⑨ 樹状細胞と膀胱癌細胞を融合した融合細胞ワクチンの基礎研究
- ⑩ 進行膀胱癌に対する塩酸ゲムシタピンと WT 1 ペプチドの併用療法
- ⑪ ヘルパー T 細胞を中心とした革新的免疫治療法の開発（第 I 相臨床試験）（NEDO 技術開発機構）の研究分担。
- ⑫ 抗菌薬療法による潰瘍性大腸炎の粘膜細菌叢の変化と治療効果の検討
- ⑬ 樹状細胞の CRF 分泌に対する腸内細菌の作用
- ⑭ 血清抗菌活性：川崎病の動脈硬化性病変との関わり
- ⑮ バクテリアファージを対象とした血清抗ウイルス作用の同定とその作用機序
- ⑯ 陰イオン交換 HPLC リポ蛋白定量法の発展と臨床的有用性

5. 診 療

1) 病院概況

- (1) 本 院 (院長：森山寛、副院長：落合和徳、谷口郁夫、橋本和弘、大水美名子、事務部長：今出進章)
- (1) 病床利用状況
平成21年度の病床利用率は稼働床1,049床に対して86.3% (昨年比+1.6)、平均在院日数は、12.7日 (昨年比-0.3日) であった。
- (2) 患者紹介率
平成21年度の紹介率は年間平均で医療法54.4% (昨年比+1.2)、保険法48.8% (昨年比+2.3) であった。
- (3) 初期臨床研修
平成21年度採用者は医科42名 (内訳：本学卒20名、他学卒22名)、歯科 2 名の計44名であった。
- (4) 行政監査・指導・検査
- ① 平成21年度立入検査 (平成21年10月21日)
 - ② 医療法第25条第3項による特定機能病院の立入検査 (平成21年10月21日)
 - ③ 精神病院等実地指導 (平成21年10月21日)
- (5) 2 症例に対して生体肝移植の適否が検討され、移植手術が実施された。
(当院 7 例目：平成21年 7 月24日、8 例目：平成21年10月 2 日)
- (6) 先進医療 (高度医療含む)
平成21年 4 月に第 3 項先進医療 (高度医療) の取扱いの一部が改正された。①②については、平成21年10月 1 日付、第 3 項先進医療 (高度医療) より第 2 項先進医療へ移行され、名称の一部が変更された。
- 1) 新規申請・承認 (承認 4 件)
 - ① 乳がんにおけるセンチネルリンパ節の同定と転移の検索 (乳腺・内分泌外科)
平成21年 4 月 1 日付承認→平成21年10月 1 日付、第 2 項先進医療へ移行
 - ② 悪性黒色腫におけるセンチネルリンパ節の同定と転移の検索 (皮膚科)
平成21年 8 月 1 日付承認→平成21年10月 1 日付、第 2 項先進医療へ移行
 - ③ 早期胃がんに対する腹腔鏡下センチネルリンパ節検索 (消化管外科)
平成21年 6 月 1 日付承認
 - ④ 多焦点眼内レンズを用いた水晶体再建術 (眼科)
平成21年12月 1 日付承認
- (7) 臨床研究、保険適用外診療 (平成21年度審査状況)
承認件数：新規申請119件、変更申請 (期間延長など) 64件
- (8) 病院改修について
- ① 病棟整備工事
 - ・ 3 E 病棟5306号室の増床 (平成21年 6 月 3 床→4 床)
 - ・ 中央棟 5 階 ICU の増床 (平成21年 4 月～7 月 工区を 3 回に分けて実施)
 - ・ 7 E 病棟個室の陰圧化工事 (平成21年 9 月)
 - ・ 中央棟 3 階に「心大血管疾患リハビリ室」設置 (平成22年 3 月)
 - ② 外来整備工事 (インフルエンザ対策として、F 棟 1 階旧ペインクリニック跡地に診察室を設置・平成21年 5 月)
 - ③ E 棟 1 階・当直室の改修 (平成21年 5 月)
 - ④ 外来棟 4 階・病児預かり室「ひまわりルーム」の設置 (平成21年 8 月)
 - ⑤ 外来棟 1 階・7 番 CT 室の機種変更に伴う改修 (平成21年 9 月)
 - ⑥ 外来棟 4 階・患者支援・医療連携センター拡張 (平成22年 3 月)
 - ⑦ C 棟 7 階への教育センターおよび訓練施設の移設 (平成22年 3 月)

- (9) 日本医療機能評価機構による病院機能評価（Ver. 6.0）を平成22年1月20日（水）～22日（金）の3日間受審し、指摘事項もなく認定された。
 ・認定期間：平成22年2月21日～平成27年2月20日
- (10) 医療安全管理
- ① リスクマネジメント委員会、4病院リスクマネジメント会議、フロアリスクマネージャー会議、医療安全運営会議等を主管し、医療問題発生防止並びに医療安全推進活動を実践した。（通年）
 - ② 発生した医療安全問題について、必要に応じて関係者を招集し、問題点の検証や以後の対策を組織として決定し、実践した。（通年）
 - ③ パソコンによる医療問題の発生源入力システム safe master を利用した問題事例の収集と分析を通じ、再発防止策を立案し実践した。（通年）
 - ④ 基礎研修、一般研修、専門研修の3部門より構成されるリスクマネジメント教育・研修計画を策定し、年度内に一人2回以上の出席を目標に出席ポイント制度を運用した。また、出席時に配布するシールを各部署の一覧表に貼付して管理した。（通年）
 - ⑤ 都内の特定機能病院における医療安全推進対策の向上と病院間連携を目的とした、私立大学病院医療安全推進連絡会議の幹事校を担当し、大学間相互ラウンド、メディエーター研修会、日本航空安全啓発センターの見学等を実施した。（通年）
 - ⑥ システム工学の見地からみた医療問題分析手法について、東大・早大・慈恵共同研究を継続した。（通年）
 - ⑦ 医療安全院内ラウンドを実施した。
 - ・全外来・中央診療部門、病棟、手術部門、診療支援部門対象ラウンド（通年）
 - ・附属病院間の相互ラウンド（各病院訪問、来訪各々1回、計6回）
 - ・私立大学病院間の相互ラウンド（訪問2回、来訪1回、計3回）
 - ⑧ 全ての教職員や委託・派遣職員に対し、携帯版リスクマネジメントマニュアルを配布し、医療安全に必要な事項の周知徹底を図った。（平成21年4月）
 - ⑨ 東京慈恵会医科大学附属病院医療安全管理指針を改訂した。（平成22年6月）
 - ⑩ 東京慈恵会医科大学附属病院医療安全管理部業務運営規則を改訂した。（平成22年6月）
 - ⑪ リスクマネジメント委員会規程を改訂した。（平成22年6月）
 - ⑫ 医療安全推進室運営細則を改訂した。（平成22年6月）
 - ⑬ 東京慈恵会医科大学附属病院リスクマネジメント委員会フロアリスクマネージャー会議運営要領を改訂した。
 - ⑭ 医療安全推進週間を実施した。（平成21年11月）
 - ・患者向けの「安全な医療にご協力いただくために」のリーフレットを改訂し配布した。なおリーフレットに関するアンケート調査を実施した。
 - ・医療安全のシンボル「みどりのリボン」を全ての教職員、学生、委託職員が着用した。
 - ・4病院合同リスクマネジメントシンポジウム等の教育・研修企画を実施した。
 - ・4病院合同災害対策訓練を実施した。
 - ・患者家族、一般市民を対象に市民公開講座「転倒・転落予防のための勉強会」を開催した。
 - ・研修医に対し、これまでに経験したインシデント・アクシデント事例の報告を、医療安全推進週間中に行うよう、研修医本人および所属長宛に書面で依頼した。
 - ・医療安全推進活動全般に関する職員からの意見を聴取するために、「ご意見ポスト」を設置した。
 - ・5S活動の診断チェックリストの集計結果を一覧表にして院内に掲示した。
 - ⑮ 医療安全対策を周知徹底した。
 - ・日本医療機能評価機構医療事故情報収集事業「医療安全情報」を周知徹底した。（通年）

- ・抗凝固薬・抗血小板作用一覧表を改訂した。(平成21年5月)
- ・中心静脈カテーテル挿入に関する運用基準を制定した。(平成21年6月)
- ・DVT(深部静脈血栓症)予防アセスメントシート運用マニュアルを制定した。(平成21年6月)
- ・報告すべき項目を定め、特に報告を求める(オカレンスレポート)事例の変更を行い院内周知した。(平成21年6月)
- ・商品名が類似している「タキソテル注」と「タキソール注」について、タキソール注についても一般名の「ドセタキセル注」で記載するよう注意喚起した。(平成21年7月)
- ・口頭指示運用基準を改訂した。(平成21年9月)
- ・指示出し・指示受け・実施システムを制定した。(平成21年9月)
- ・医療機器の保守点検・安全使用に関する管理手順書を改訂した。(平成21年9月)
- ・特に安全管理が必要なハイリスク薬品について表示マークを作成し、保管場所にこのマークを貼付し注意喚起した。(平成21年9月)
- ・身体抑制に関する運用基準を改訂した。(平成21年9月)
- ・医薬品安全使用のための業務手順書を改訂した。(平成21年9月)
- ・チューブ・ドレーン管理基準を制定した。(平成21年11月)
- ・チューブ・ドレーン抜去予防対策マニュアルを制定した。(平成21年11月)
- ・チューブ・ドレーン誤接続予防対策マニュアルを制定した。(平成21年11月)
- ・ルート識別テープ・三方活栓運用基準を制定した。(平成21年11月)
- ・スタットコール(学内救急コール)システムの運用基準を改訂した。(平成21年11月)
- ・救急蘇生器材(救急カート・ボックス・バッグ・AED)管理運用手順書を改訂した。(平成21年11月)
- ・救急ボックスの取り扱いに関する基準を改訂した。(平成21年11月)
- ・救急バッグの取り扱いに関する基準を制定した。(平成21年11月)
- ・救急カート定数表を改訂した。(平成21年11月)
- ・ハイリスク薬取り扱い手順書を制定した。(平成21年12月)
- ⑯ リスクマネジメント委員会規程を改訂した。(平成21年12月)
- ⑰ 医療安全推進室運営細則を改訂した。(平成21年12月)

(11) 院内感染対策

- ① 感染対策強化病棟への介入
ICU、NICUを中心に感染リスクの高い部署に対しデータのフィードバックと改善のための支援を行った。
- ② サーベイランスの実施
サーベイランスを行い医療処置感染の発生状況の把握とフィードバックを実施した。
- ③ 教育啓発活動
全職員に対するセミナーを20回、認定看護師オープン講座を6回、各部署別の勉強会を15回開催し、計5428名の参加を得た。
- ④ 抗菌薬適正使用の推進
カルバペネム系抗菌薬投与例のラウンドを開始し、診療科に対し介入を行った。
抗菌薬使用ガイドライン(携帯版)を発行した。
- ⑤ 新型インフルエンザ対策
新型インフルエンザの流行に対し、トリアージ体制、発熱外来、専用病棟、患者と教職員へのワクチン接種などについて新たな体制を整備し運用を行った。
- ⑥ 職業感染対策
昨年度の麻疹、風疹に引き続き、水痘、流行性耳下腺炎について40歳以下の教職員に抗体価検査、ワクチン接種を行った。

(12) 保険関係承認・届出関係

- ① 地域連携診療計画管理料（追加の都度届出）※脳卒中連携病院の追加に伴う届出
- ② 特定集中治療室管理料（平成21年6月1日）
※ICU増床に伴う届出
- ③ 血液細胞核酸増幅同定検査、検体検査管理加算、緩和ケア診療加算（平成21年7月1日）
※医師の変更に伴う届出
- ④ 医療安全対策加算（平成21年7月1日）
※医療安全管理者の追加に伴う届出
- ⑤ 療養環境加算及び重症者等療養環境加算（平成21年7月1日）
※室料差額の料金改定に伴う届出
- ⑥ 外来化学療法加算1（平成21年11月1日）
※医師の変更に伴う届出
- ⑦ 評価療養の届出（平成21年6月10日）
※産科病床4人床1室の有差額床の届出
- ⑧ 評価療養の届出（平成21年7月1日）
※室料差額の料金改定
その他、施設基準に係る定例報告を行った。

(13) 患者支援・医療連携センター

- ① 患者支援・医療連携センターの3部門の名称を変更（平成21年5月）
 - ・在宅療養指導室⇒在宅療養支援部門
 - ・ソーシャルワーカー室⇒ソーシャルワーカー（医療福祉相談）部門
 - ・医療連携室⇒医療連携部門
- ② 広報紙の名称を「つなぐ つながる患者支援・医療連携センターだより」として発刊（平成21年8月）
- ③ 医療連携部門に「がん相談専用電話」を設置（平成21年10月）
- ④ ファックス予約で受診される患者の受付窓口が変更
 - ・11/16（月）よりファックス予約で受診される患者は、初診受付のファックス専用窓口ではなく、直接、受診科に行くことに改められた。（平成21年11月）
- ⑤ 他医療機関へ病病連携アンケートの実施および取り纏め（平成21年9月～平成22年1月）
 - ・取り纏めたデータを後方支援病院リストとして院内配布ならびにイントラネットに掲載
- ⑥ 近隣医療機関へ医療連携強化のための戸別訪問実施（平成21年10月～12月）
- ⑦ 東京都糖尿病医療連携協議会区中央部の事務局を患者支援・医療連携センターが担当（平成22年3月）
- ⑧ 患者支援・医療連携センターの室内拡張工事が行われ、完成（平成22年1月～3月）
 - ・センター内（ソーシャルワーカー部門、在宅療養支援部門）の体制整備づくりの一環などによる拡張

(14) 診療体制の整備

- ① 7E病棟個室5床を陰圧室へ改修し、感染症流行時の対策を行った。（平成21年9月25日）
- ② 大学で契約しているPHS約2,600台を全て新機種へ更新した。（平成22年3月12日）
- ③ 産科病床4室を差額床（平成21年6月10日算定開始）に、個室11室を個室差額床（平成21年7月1日算定開始）にそれぞれ改定した。
- ④ 病棟関連事務効率化検討会発足（平成21年5月11日）
病棟事務員と業務課入院保険担当者との病棟における事務教務の効率化及び融合を目的に発足する。

- ⑤ 外来関連事務効率化検討会発足 (平成21年12月4日)
患者サービス向上、患者待ち時間の短縮、医師・看護師の事務業務軽減を目的に発足する。
- (15) 患者サービス
- ① 外来待ち時間調査を2回実施した。
(初回：平成21年8月7日、2回目：平成21年12月11日)
- ② 入院患者向けフロアコンサート (高木会館1階ロビー)
- ・平成21年7月15日 (水) 午後3時～午後4時、メトロ財団主催 (演奏：東京都交響楽団数名による演奏)
 - ・平成21年11月30日 (月) クーペ&Shifo
 - ・平成21年12月5日 (土) 教職員等による有志
 - ・平成21年12月10日 (木) 原田真二さん
- ③ 患者向け広報誌「すこやかインフォメーション」第19号 (平成21年4月)、第20号 (平成21年6月)、第21号 (平成21年9月)、第22号 (平成21年12月)、第23号 (平成22年3月) を発刊した。
- ④ 「愛宕山みんなの健康教室」を開催した。※NHK 放送博物館と共催
1. 日 時：平成21年6月27日 (第16回) 参加者36名
 2. 日 時：平成21年10月3日 (第17回) 参加者45名
 3. 日 時：平成22年3月13日 (第18回) 参加者60名
- ⑤ 患者サービス携帯用ハンドブックの発刊 (平成22年1月19日)
- ⑥ 外来部門サービス改善委員会
会議を3回開催し、患者満足度調査結果の分析並びに改善 (案) を提案した。
- ⑦ 入院部門サービス改善委員会
会議を4回、院内ラウンド2回施行し、満足度調査の結果を分析し改善に向けて、平成22年1月12日の答申書を提出。
- ⑧ 平成21年8月30日の衆議院議員選挙に伴う入院患者不在者投票を、平成21年8月26日 (水) を中心に実施し過去最多の164件の申し込みがあった。
- (16) 講演会、シンポジウムの開催について
- ① 初期臨床研修医オリエンテーション
- ・日 時：平成21年4月2日 午前11時～午後12時
 - テーマ：1) リスクマネジメント総論
2) インフォームド・コンセントについて
3) 携帯版リスクマネジメントマニュアルの説明
- ② 4病院合同慈恵医大褥瘡セミナー
- ・日 時：平成21年12月7日 午後6時～午後7時35分
 - テーマ：『最新の褥瘡治療』
 - 講 師：杏林大学医学部付属病院 形成外科講師 大浦 紀彦先生
- ③ 4病院合同リスクマネジメントシンポジウム (合計2回開催)
- ・日 時：平成21年7月13日 (月) 午後6時～午後7時50分 テレビ会議システム
テーマ：近年の高度医療に伴う院内感染対策について (柏病院主催)
 - ・日 時：平成21年11月2日 (月) 午後6時30分～午後8時 テレビ会議システム
テーマ：患者とのパートナーシップ～医療安全の観点から～ (本院主催)
 - ・日 時：平成22年2月2日 (火) 午後6時～午後7時15分 テレビ会議システム
テーマ：各病院におけるワーキンググループの医療安全推進活動の報告 (青戸病院主催)
- ④ リスクマネジメント基礎研修会
- ・日 時：第1回 平成21年4月20日 (月) 第2回平成21年5月28日 (木)

第3回 平成21年10月6日(火) 午後6時～午後7時

テーマ：リスクマネジメント総論、携帯版リスクマネジメントマニュアルについて

⑤ 東大・早大・慈恵共同研究発表

・日 時：平成22年3月3日(水) 午後6時30分～午後8時

テーマ：1) 共同研究のテーマについて

2) 慈恵大学の医療安全プロジェクト全体像について

3) プロセスフローチャートの基本的考え方

4) プロセスフローチャートの実践例

5) 現在の事例分析の課題とRCA分析との比較

⑥ 新型インフルエンザ対策緊急セミナー

・第1回 日 時：平成21年4月30日(木) 午後5時～午後5時50分

テーマ：1) 新型インフルエンザ対策①

講 師：附属病院 感染対策室 中澤 靖 室長

・第2回 日 時：平成21年4月30日(木) 午後6時～午後6時50分

テーマ：1) 新型インフルエンザ対策②

講 師：附属病院 感染対策室 中澤 靖 室長

・第3回 日 時：平成21年5月2日(土) 午後5時～午後5時50分

テーマ：1) 新型インフルエンザ対策③

講 師：附属病院 感染対策室 中澤 靖 室長

・第4回 日 時：平成21年7月15日(水) 午後6時～午後8時

テーマ：1) パンデミック・インフルエンザ

講 師：WHO メディカルオフィサー 進藤奈邦子 先生

・第5回 日 時：平成21年9月8日(火) 午後6時～午後7時

テーマ：1) 新型インフルエンザ発生状況と当院の対応について

講 師：附属病院 感染対策室 中澤 靖 室長

⑦ 薬剤・感染セミナー

・第1回 日 時：平成21年8月11日(火) 午後6時～午後7時

テーマ：1) ESBL 産生菌とは

講 師：附属病院 感染対策室 中澤 靖 室長

・第2回 日 時：平成22年3月11日(木) 午後6時～午後7時

テーマ：1) カテーテル感染の診断と治療

講 師：附属病院 感染対策室 中澤 靖 室長

⑧ 感染対策セミナー

・第1回 日 時：平成21年9月18日(金) 午後6時～午後7時

テーマ：感染症診療のロジック－免疫不全患者に焦点を当てて－

講 師：静岡県立静岡がんセンター 感染症科 部長 大曲 貴夫 先生

・第2回 日 時：平成21年11月11日(水) 午後6時～午後7時15分

テーマ：1) 手術部位感染対策の意識高揚への取り組み

2) 下部消化管外科手術におけるSSI対策への取り組み

3) ICT介入による整形外科SSIに対する予防的抗菌薬の使用と経済効果について

講 師：1) 附属病院 肝胆膵外科 石田 祐一 先生

2) 附属病院 感染対策室 菅野みゆき 副室長

3) 附属病院 感染対策室 美島 路恵 看護師

⑨ 転倒転落の講習会

・第1回 日 時：平成21年5月15日(金) 午後5時30分～午後6時30分

テーマ：明日から実践！ 転倒・転落予防

- ・第2回 日 時：平成22年2月15日（月）午後5時30分～午後6時45分
テーマ：明日から実践！ 転倒・転落予防
- ⑩ チーム医療構築ワークショップ
平成21年4月18日（土）午後2時～午後5時30分 参加者105名
平成21年9月19日（土）午後2時～午後5時30分 参加者124名
平成22年1月16日（土）午後2時～午後5時30分 参加者109名
- ⑪ 医療機器の安全使用講習会（通年開催）延べ参加者：413名
- (17) 慈恵 ICLS コース、慈恵 BLS コース
 - ① 心肺停止患者に対する適切な救急蘇生の手技教育「慈恵 ICLS コース」（年間5回）
日 時：平成21年5月24日（日）午前8時30分～午後6時 青戸病院
日 時：平成21年7月26日（日）午前8時30分～午後6時 本院
日 時：平成21年9月27日（日）午前8時30分～午後6時 本院
日 時：平成21年11月29日（日）午前8時30分～午後6時 柏病院
日 時：平成22年1月24日（日）午前8時30分～午後6時 第三病院
 - ② 初期心肺蘇生術の講習会「慈恵 BLS コース」を年間5回開催した。
- (18) 鏡視下手術トレーニングコース
鏡視下手術を行う外科系医師の育成、認定を行う独自の制度である鏡視下手術トレーニングコース認定試験を実施した。（STEP1計4回、STEP2計5回）
- (19) 東京都赤十字血液センターによる献血が実施された。
 - ① 平成21年9月2日 献血者100名（申込者数133名）
 - ② 平成22年2月24日 献血者117名（申込者数157名）
- (20) 慈恵医大晴海トリトクリニック（所長：阪本要一）
平成21年度の患者数実績は、1日平均外来患者数139.3人（昨年比-0.9人）、うち健診は27.7人（昨年比+0.5人）である。
- (21) 保険診療講習会の開催

1回目	平成21年4月2日	午後1時30分～2時50分	大学1号館6階講堂
2回目	平成22年2月16日	午後6時～7時	中央講堂

(2) 青戸病院（院長：伊藤 洋、副院長：吉田和彦、蔵田英明、事務部長：横山秀彦）

- (1) 病床利用率
 - ① 平成21年度の病床利用率は、稼動床363床に対して87.7%、平均在院日数は11.5日であった。
- (2) 患者紹介率
 - ① 平成21年度の患者紹介率は医療法で46.9%、保険法で45.8%であった。
- (3) 患者サービス
 - ① 平成21年7月1日、診療開始時間を午前9時から午前8時45分に繰り上げた。
 - ② 平成21年10月1日、内視鏡・放射線検査の検査説明窓口を設置し運用を開始した。
 - ③ 平成21年12月12日、教職員有志によるフロアコンサートを開催した。
 - ④ 平成22年3月1日、本館1階フロアにサービスカウンターを設置し、看護部と事務部が協働し更なる充実した患者サービスの提供を開始した。
- (4) 医療連携
 - ① 平成21年4月、東京都からの受託事業である、区東北部糖尿病医療連携検討会の座長（糖尿病・代謝・内分泌内科 蔵田診療部長）及び事務局を継続受託した。
 - ② 平成21年10月、地域の医療機関（6施設）と双方の特徴を活かした医療連携の推進ならびに協働体制の構築を目的として「医療連携に関する覚書」を締結した。
 - ③ 平成22年2月27日、医療連携フォーラム2010を開催した。
 - ④ 平成22年3月、病病・病診連携構築のため江戸川区30医療機関を訪問した。

(5) 指定・受託事業

- ① 平成21年4月、東京都周産期連携病院に指定された。
- ② 平成21年9月、東京都からの受託事業である平成21年度東京都看護職員地域確保支援事業を受託した。

(6) 青戸病院リニューアル

〈建築関連〉

- ① 平成21年12月1日、準備工事着工
- ② 平成22年1月26日、青戸病院新築工事 起工式開催
- ③ 平成22年2月1日、本工事着工

〈IT関係〉

- ① 平成22年1月12日、青戸病院看護専門学校にて、情報システム開発候補会社によるプレゼンテーションを開催した。
- ② 平成22年2月2日、大学リニューアル委員会にて、情報システム開発候補会社によるプレゼンテーションを開催し、第一優先交渉権会社を決定した。

〈その他〉

- ① 平成21年7月24日及び7月26日、東京都中高層建築物の建築に係る予防と調整に係る条例による近隣対象の建替説明会を開催した。
- ② 平成21年8月26日、東京慈恵会医科大学同窓会江東ブロック対象の新病院建替説明会を開催した。
- ③ 平成21年9月30日、近隣対象の仮設駐車場説明会を開催した。
- ④ 平成21年10月30日及び11月1日、東京都中高層建築物の建築に係る予防と調整に係る条例による近隣対象の工事説明会を開催した。
- ⑤ 葛飾区医師会7支部への建替説明会を実施した。

(7) 指導・監査

- ① 平成21年1月6日、東京都福祉保健局医療政策部医療安全課による医療法第2条の規定に基づく立入検査及び放射線使用施設を有する病院に対する立入検査が実施された。

(8) 防火・防災

- ① 平成21年7月30日、本館3階3A病棟において第1回防火訓練を実施した。
- ② 平成21年10月27日、本田消防署管内での自衛消防隊訓練審査会が開催され、青戸病院隊が参加し敢闘賞を受賞した。
- ③ 平成21年11月6日、4病院合同防災訓練及び講演会を実施した。
- ④ 平成22年2月25日、本館4階4B病棟において本田消防署合同の第2回防火訓練を実施した。
- ⑤ 平成22年3月19日、トリアージに関する講習会を医療安全推進室と共同で開催した。

(9) 病床運用

- ① 平成21年4月1日、重症床13床を稼動床に算入し、稼動床数を363床に変更した。
- ② 平成21年5月1日～3日、3C31号室（6人室）の準個室ユニット（4人室）設置工事が施工された。これに伴い、5月7日より有差額床が46床から50床に増床された。
- ③ 平成21年5月12日、病床管理システム「ベッドマン」の本稼動を開始した。

(10) 医療安全

〈研修関係〉

- ① 平成21年4月2日、1年目研修医を対象に医療安全の基本研修とオリエンテーションを実施した。
- ② 平成21年4月23日、5月18日、新入・転入教職員を対象にリスクマネジメント基本研修を開催した。
- ③ 平成21年5月23日、慈恵 ICLS 青戸コースを開催した。
- ④ 平成21年6月30日、全教職員を対象に薬剤安全セミナーを開催した。

- ⑤ 平成21年6月25日、7月2日、職員対象に移乗動作介助技術研修を開催した。
- ⑥ 平成21年7月10日、全教職員対象に転倒防止対策勉強会を開催した。
- ⑦ 平成21年7月13日、4病院合同リスクマネジメントシンポジウムを開催した。
- ⑧ 平成21年8月4日、8月19日、4病院合同リスクマネジメントシンポジウムのDVD研修会を開催した。
- ⑨ 平成21年10月3日、全教職員・学生を対象にチーム医療構築ワークショップを開催した。
- ⑩ 平成21年10月21日、リスクマネージャー及び教職員対象に医療事故の初期対応に関する講演会を開催した。
- ⑪ 平成21年10月31日、地域住民・患者・家族を対象に転倒防止対策セミナーの一般公開セミナーを開催した。
- ⑫ 平成21年11月2日、4病院合同リスクマネジメントシンポジウムを開催した。
- ⑬ 平成21年11月11日、4病院合同感染対策セミナーを開催した。
- ⑭ 平成21年12月7日、慈恵医大褥瘡セミナーを開催した。
- ⑮ 平成21年11月～12月、全教職員・部署を対象に5S活動コンテストを開催した。
- ⑯ 平成22年1月15日、全教職員を対象に、職員研修委員会と共同でKYT研修会を開催した。
- ⑰ 平成22年2月2日、4病院合同リスクマネジメントシンポジウムを開催した。
- ⑱ 平成22年3月3日、東大・早大・慈恵共同研究に関するシンポジウムを開催した。
- ⑲ 平成22年3月8日、青戸中学校において3年生を対象としたBLS+AED講習会を開催した。
- ⑳ 平成22年3月12日、全教職員対象に、第2回薬剤安全セミナーを開催した。
- ㉑ 平成21年度のBLS+AED講習会を5月～3月の期間で計9回開催した。
- ㉒ 平成22年3月19日、全教職員対象に防災委員会と共同でトリアージの基礎研修会を開催した。

〈院内安全ラウンド及び相互ラウンド関係〉

- ① 平成21年5月19日、3A病棟の医療安全ラウンドを実施した。
- ② 平成21年6月23日、放射線部・3E病棟の医療安全ラウンドを実施した。
- ③ 平成21年9月28日、3C病棟の医療安全ラウンドを実施した。
- ④ 平成21年10月5日、3D病棟・4B病棟の医療安全ラウンドを本院医療安全推進室と共同で実施した。
- ⑤ 平成21年11月2日～14日、医療安全推進週間中に院長ラウンドと院内5Sラウンドを実施した。
- ⑥ 平成21年12月3日、4A病棟・3B病棟の医療安全ラウンドを柏病院医療安全推進室と共同で実施した。
- ⑦ 平成22年1月26日、4C病棟・4D病棟の医療安全ラウンドを第三病院医療安全推進室と共同で実施した。
- ⑧ 平成22年3月8日、4A病棟・3A病棟の医療安全ラウンドを昭和大学豊洲病院と共同で実施した。

〈その他〉

- ① 平成21年4月1日、オカレンスレポートの運用を開始した。
 - ② 平成21年9月16日、リストバンドバーコード認証システムの運用を開始した。
- (11) 成医会青戸支部例会開催
- ① 平成21年6月20日 第102回青戸支部例会
 - ② 平成21年12月19日 第103回青戸支部例会
- (12) 青戸病院公開カンファレンス開催
- ① 第18回 平成21年4月22日 担当科：消化器・肝臓内科、外科
 - ② 第19回 平成21年7月11日 担当科：神経内科

- ③ 第20回 平成21年11月26日 担当科：神経内科
- (13) 青戸病院公開健康セミナー開催
 - ① 第25回 平成21年 6 月 6 日「認知症—今わかっていること、私たちにできること」
 - ② 第26回 平成21年11月14日「あなたは困っていませんか？めまいと目の病気」
- (14) メディカルカンファレンス
 - ① 第61回 平成21年 6 月20日
「新病院における ICU・CCU のあり方」～青戸病院全体で支えるために～
- (15) 症例検討会（CPC）開催
 - ① 第36回 平成21年 4 月28日 担当科：総合内科
「反復性脳梗塞に、多彩な合併症を伴って死亡した一例」
 - ② 第37回 平成21年 9 月24日 担当科：外科
「反復性イレウス術後、腎後性腎不全と腫瘍マーカーの上昇を併発し、全身衰弱で死亡一例」
 - ③ 第38回 平成22年 2 月 1 日 担当科：腎臓・高血圧科
「慢性腎不全にて長期透析中、真菌性腹膜炎疑いで急変、死亡した一例」
- (16) 工事関係
 - ① 外来カルテ倉庫移設に伴う工事
 - ・看護専門学校地下改修 平成21年10月完了
 - ・共同利用研究室改修 平成21年10月完了
 - ・本館屋上倉庫改修 平成21年11月完了
 - ・カルテ・XP 移設作業 平成21年11月完了
 - ③ 仮設駐車場移設に伴う工事 平成21年11月完了
 - ④ 患者及び教職員用駐輪場移設に伴う工事 平成21年11月完了
 - ⑤ 第2 堤桜寮 1 階フロア、各居室他整備工事 平成22年 3 月完了
- (17) その他
 - ① 平成21年 7 月 9 日、東京都議会議員選挙の不在者投票を実施した。
 - ② 平成21年 8 月27日、衆議院議員選挙及び最高裁判所裁判官国民審査の不在者投票を実施した。
 - ③ 平成21年10月、院内連絡用 PHS の新機種への更新を実施した。
 - ④ 平成21年11月 5 日、葛飾区議会議員及び葛飾区長選挙の不在者投票を実施した。
 - ⑤ 平成22年 2 月 1 日、コスモ亀有寮の契約戸数を91戸から44戸に縮小した。

(3) **第三病院**（院長：坂井春男、副院長：伊藤文之、根津武彦、中村 敬、事務部長：井出晴夫）

- (1) 患者数・病床利用状況

平成21年度 1 日平均患者数 入院494名（前年比－23名）、外来1,435名（前年比－16名）であった。紹介率は医療法41.3%（昨年度39.8%）、保険法35.0%（昨年度34.2%）であった。平均在院日数14.1日（前年度15.1日）、病床利用率85.3%（前年度84.8%）
- (2) 医療連携
 - 平成21年 5 月28日 第16回第三病院医療連携フォーラム「産婦人科腫瘍の診断」
 - 平成21年 9 月25日 調布医師会と診療部長懇談会
 - 平成21年10月22日 第17回第三病院医療連携フォーラム「消化器内視鏡診断・治療」
- (3) 第三病院医療セミナー
 - 平成21年 5 月25日 第49回第三病院医療セミナー「本院における BSC 作成の進捗と今後の課題」
 - 平成21年 7 月17日 第50回第三病院医療セミナー「第三病院夏の BigDebate 病院機能リニューアル！グリーンフロア誕生！」
 - 平成21年 9 月 2 日 第51回第三病院医療セミナー「ターミナル期における臨床的選択のジ

レンマ」～患者の最善をどう見出すか？～

- (4) 公開健康セミナー
平成21年 6月27日 第32回「心筋梗塞・狭心症の予防と治療」参加人員204名
平成21年 9月19日 第33回「脳卒中の予防と治療」参加人員161名
平成21年10月10日 第34回「認知症との付き合い方」参加人員180名
平成21年12月19日 第35回「アトピー性皮膚炎 治療のポイント」参加人員65名
平成22年 1月30日 第36回「最新の消化器内視鏡診療について」参加人員112名
平成22年 2月13日 第37回「高齢者と栄養～健康的な食生活とは」参加人員132名
平成22年 3月 6日 第38回「顔つきで分かる脳の病気とその対処法・恐ろしい頭痛と心配ない頭痛の見分け方」参加人員270名
- (5) ちょうふ市内・近隣大学公開講座
平成21年 9月16日 ここが知りたい「アトピー性皮膚炎」—子どもの将来を見据えて—
平成21年10月14日 かぜ・インフルエンザ—季節性～新型インフルエンザを含めて—
平成21年11月11日 中高年者におけるうつ病治療—うつ病に陥らないための生活とは—
- (6) こまえ市民大学医療講座
平成21年 5月30日 高齢者の食事と健康～その特徴と留意点～
- (7) 第三病院癒し企画（入院患者向け）
平成21年 4月11日 蓄音機によるレコードコンサート～昭和のレコードを聞く会～（有木繁郎氏）
平成21年 6月13日 ピアノコンサート（看護学科 興村慎也氏）
平成21年 7月 4日 七夕コンサート（慈恵大学音楽部）
平成21年 7月25日 「一人ミュージカル」（安宅忍氏）
平成21年11月 7日 びわコンサート（全国一水会 関 汪水氏）
平成21年11月14日 ハワイアンバンド 岩田典康氏他
平成21年12月 5日 クリスマスコンサート（慈恵医大音楽部）
平成21年12月19日 ハンドベルコンサート（藤村女子中学高等学校）
平成22年 1月23日 俳優座による出前ミュージカル（俳優座有志）
平成22年 2月27日 吹奏楽（明大OB）
平成22年 3月13日 ギターコンサート（阿部忍氏）
平成22年 3月20日 新春落語（立川志の吉氏）
- (8) 諸官庁への届出・報告等（関東信越厚生局東京事務所）
平成21年 7月15日 施設基準等の届出状況報告書提出
平成21年 8月 1日 基本診療料の施設基準「ハイリスク分娩管理加算」届出
平成21年 8月 1日 一般床45床減少に伴う各届出を提出 630床→585床
保険医療機関届出事項変更届出
重症者等療養環境特別加算の施設基準に係る届出
特別の療養環境の提供の実施変更報告書届出
平成21年 9月 1日 180日を超える入院の変更報告書提出
平成21年10月 1日 特別の療養環境の提供の実施変更報告書届出（無菌室床増床）
平成22年 1月 1日 外来化学療法加算1の変更届出
平成22年 1月27日 酸素の購入価格に関する届出書提出
平成22年 3月30日 地域歯科診療支援病院歯科初診料の報告書提出
- (9) 工事関係
① 3 A病棟系統チラーユニット圧縮機オーバーホール工事（平成21年 4月10日完了）
② 点滴センター医療ガス設備設置工事（平成21年 5月12日完了）
③ 救急車患者搬入口電飾看板設置工事（平成21年 9月 7日完了）
④ 6 A ナースステーション系統空調機取替工事（平成21年10月16日完了）

- ⑤ 本館地下1階外来トイレ、中央棟1階外来トイレ改修工事 (平成21年10月19日完了)
- ⑥ 5B面会室改修工事 (平成21年11月25日完了)
- ⑦ 本館9階、4階臨床工学部機器保管室跡改修工事 (平成21年12月13日完了)
- ⑧ 青樹寮前オートバイ駐車場設置工事 (平成21年12月19日完了)
- ⑨ 6A病棟新生児室系統空調機取替工事 (平成21年12月29日完了)
- ⑩ 手術棟圧縮空気ポンプオーバーホール工事 (平成22年1月12日完了)
- ⑪ 6A新生児室、分娩室(A)自動ドア修理工事 (平成22年2月22日完了)
- (10) 行政監査・実地検査
 - 平成21年8月31日 狛江消防署による査察 病院全館
 - 平成22年2月18日 医療法第25条に基づく精神科実地調査・放射線使用施設立入検査
 - 平成22年2月22日～平成22年2月24日 監査法人トーマツ監査
 - 平成22年1月15日 関東信越厚生局「施設基準等に係わる実地状況調査」
- (11) 行事関係
 - 平成21年4月2日 平成21年度研修医オリエンテーション
 - 平成21年4月2日 平成21年度研修医歓迎会
 - 平成21年6月17日 病院機能評価Ver5認定祝賀会
 - 平成21年6月30日 本採用辞令交付
 - 平成21年7月24日 第三病院納涼会
 - 平成21年12月4日 病院忘年会
 - 平成22年2月26日 診療部会議懇親会
 - 平成22年3月26日 研修医修了式
- (12) 特記事項
 - 平成21年4月24日 平成20年度(第1回)ベスト診療科選出 総合診療部
 - 平成21年6月5日 病院機能評価Ver5認定
 - 平成21年8月1日 新病棟体制運用開始
 - 平成21年8月13日 1階泌尿器科外来前の天井より水漏れ(原因は配管の詰まり)
 - 平成21年8月19日 1階泌尿器科外来前の天井より水漏れ(原因 配管の詰まり)
 - 平成21年9月17日 自衛消防審査会 優秀賞
 - 平成21年9月29日 新型インフルエンザ緊急集会
 - 平成21年10月1日 グリーフロアオープン・エコロジーガーデン運用開始
 - 平成21年11月8日 第4回ホスピタルフェア(狛江消防署・調布警察署等参加)地域住民約1,200名が参加
- (13) 成医会
 - 平成21年7月10日 成医会第三支部例会 特別講演 米山武義先生「インフェクションコントロールとしての口腔ケアの重要性」
 - 平成21年12月4日 成医会第三支部例会 特別講演 久保政勝柏病院院長「柏病院 発展へのかけ橋」
- (14) 医療安全
 - 平成21年7月13日 4病院合同リスクシンポジウム
 - 平成21年11月2日 4病院合同リスクシンポジウム
 - 平成21年12月11日 第三病院リスクシンポジウム
 - 平成22年2月2日 4病院合同リスクシンポジウム
 - 平成22年3月3日 慈恵・早稲田・東大共同研究報告 テレビ会議
- (15) 救急・防災関係
 - 平成21年6月30日 狛江救急業務連絡協議会
 - 平成21年7月28日 東京都救急医療説明会
 - 平成21年8月18日 二次救急 東京ルール打合せ 調布医師会館

- 平成21年10月9日 北多摩南部地域救急医療会議（東京ルール）
 平成21年11月6日 4病院合同防災訓練（テレビ会議）
 平成22年3月2日 狛江消防署合同防災訓練
- (16) その他研修
- 平成21年5月20日 メンタルヘルス研修会（新人向け）
 平成21年6月16日 臨床研究講習会（テレビ会議システム）
 平成21年7月9日 個人情報保護講習会（テレビ会議）
 平成21年8月28日 メンタルヘルス研修会（ライン・スタッフ向け）
 平成22年3月25日 職員研修会主催「マナー講習会」
 平成22年3月19日 保険診療講習会
- (4) 柏病院（院長：久保政勝、副院長：小林進、清水光行、岸本幸一、事務部長：宮崎栄一）
- 1) 平成21年度の一日平均入院患者数は511名で病床稼働率は稼働床583床（平成21年4月1日現在）に対して87.6%、1人平均在院日数は14.2日であった。
 - 2) 平成21年6月24日 NHK交響楽団によるフロアコンサートを実施した。
 - 3) 平成21年7月4日 第40回成医会柏支部例会を開催した。
 - 4) 平成21年7月27日 消防訓練を実施した。
 - 5) 平成21年9月8日 柏市自衛消防隊競技会が開催された。
（男子隊：優秀賞、女子隊：努力賞）
 - 6) 平成21年9月10・17日 PACS/RISシステム導入に向けての研修を実施した。
 - 7) 平成21年10月1日 千葉県柏市保健所による医療監視が行われた。
 - 8) 平成21年11月6日 4病院合同防災訓練を実施した。
 - 9) 平成21年12月5日 第41回成医会柏支部例会を開催した。
 - 10) 平成22年1月18日 トリアージ訓練を実施した。
 - 11) 平成22年3月4日 合同消防訓練を実施した。
 - 12) 保険関係承認・届出関係
 - ① 平成21年5月1日 521、526、549、601、621号室に準個室ユニットを導入したため、室料差額を5,250円から6,300円に変更し、特別の療養環境の提供の実施（変更）報告書を提出した。
 - ② 平成21年6月15日 新型インフルエンザの流行に伴い、千葉県の要請を受けてクラブ棟に診察室を設置した。
 - ③ 平成21年7月1日 禁煙外来を開設し、特掲診療料「ニコチン依存管理料」の算定を開始した。
 - ④ 平成21年7月1日 先進医療である「早期胃がんに対する腹腔鏡下センチネルリンパ節検索」が承認された。
 - ⑤ 平成21年8月1日 基本診療料 ハイリスク分娩管理加算の算定を開始した。
 - ⑥ 平成21年11月1日 退院調整加算の算定を開始した。
 - ⑦ 平成22年1月より神経内科を第10診療から第5診療へ移設した。
 - 13) 医療連携関係
 - ① 平成21年4月 柏病院連携登録医、登録病院制度の運用を開始した。
 - ② 平成21年6月24日 第26回症例検討会（CPC）「敗血症から回復中に突然の心停止を来したマントル細胞腫の1例」を開催した。
 - ③ 平成21年6月24日 東飾北部地域難病相談・支援センター事業の一環として、平成21年度第1回吸引実技研修会を開催した。
 - ④ 平成21年10月27日 「平成21年度慈恵医大柏病院医療連携フォーラム」を三井ガーデンホテル柏にて開催した。連携登録医を含む連携医療機関から60施設

94名、柏病院内から院長を含め93名が出席し、総勢187名の会となった。

- ⑤ 平成21年11月より、糖尿病地域医療連携バスを開始した。
- ⑥ 画像診断検査の Web による予約登録は新たに3施設が追加となり、14施設で実施している。
- ⑦ 平成21年11月5日 東葛北部地域難病相談・支援センター事業の一環として、PEG 講演会を開催した。
- ⑧ 平成21年12月16日 東葛北部地域難病相談・支援センター事業の一環として、平成21年度第2回吸引実技研修会を開催した。
- ⑨ 平成22年3月24日 第27回症例検討会（CPC）「膵胆管合流術後長期経過した2手術症例」を開催した。
- ⑩ 平成22年3月から幹部職員及び業務課事務員による医療施設訪問を開始した。（平成21年1月から12月末日までの当院への紹介数30件以上の医療機関80施設）
- ⑪ 平成21年度より、東葛北部医療連携実務者の会、世話人に業務課・山越係長が選任され、本会の運営会議を柏病院にて通年開催することに変更した。また、第6回の実務者の会では、柏病院見学会及び板垣師長の基調講演を実施し、連携医療機関からの参加を含め、44名の出席があった。

14) 地域がん診療連携拠点病院関係

- ① 平成21年5月8日 院内研修「医師・看護師・コメディカルのための実践緩和ケア講座」を開催した。
- ② 平成21年5月14日 第4回がん・緩和ケア交流会「がん患者さんとその家族のためのストレス対処法」を開催した。
- ③ 平成21年7月9日 第5回がん・緩和ケア交流会「安心して治療にのぞめるために」を開催した。
- ④ 平成21年7月11日～12日 緩和ケア基礎研修会を開催した。
- ⑤ 平成21年7月18日 第3回市民公開講座「怖がらないで生きようよ」を開催した。
- ⑥ 平成21年9月10日 第6回がん・緩和ケア交流会「リンパ浮腫と上手につきあおう」を開催した。
- ⑦ 平成21年11月12日 第7回がん・緩和ケア交流会「がん治療中の食事について」を開催した。
- ⑧ 平成22年1月14日 第8回がん・緩和ケア交流会「安心して治療を受けるために」を開催した。
- ⑨ 平成22年2月20日 第4回市民公開講座「がんの最新医療—予防・緩和—」を開催した。
- ⑩ 平成22年3月11日 第9回がん・緩和ケア交流会「治療中のお口のトラブル対処法」を開催した。

15) 医療安全推進関係

- ① 平成21年4月6日 1年目研修医を対象に医療安全研修を実施した。
- ② 平成21年4月18日 新人看護職員を対象にリスクマネジメント研修を実施した。
- ③ 平成21年4月24日 医療安全勉強会「脳神経外科のドレーン管理について」を開催した。
- ④ 平成21年5月2日 緊急感染対策セミナー「新型インフルエンザ」を開催した。
- ⑤ 平成21年6月16日 臨床研究に関する講習会「臨床研究に関する倫理指針」を開催した。
- ⑥ 平成21年7月9日 個人情報保護研修会「個人情報の保護」を開催した。
- ⑦ 平成21年7月13日 4病院合同リスクシンポジウム「近年の高度医療に伴う院内感染対策について」を開催した。
- ⑧ 平成21年7月18日 柏病院チーム医療ワークショップを開催した。
- ⑨ 平成21年9月24日 感染対策セミナー「新型インフルエンザ—現状と当院の対応について—」を開催した。

- ⑩ 平成21年10月6日 感染対策セミナー「薬剤耐性菌感染症の治療とその対策」を開催した。
- ⑪ 平成21年11月2日～11月14日 4病院医療安全週間を実施した。
 - ・平成21年11月2日 4病院合同リスクシンポジウム「患者とのパートナーシップ」を開催した。
 - ・平成21年11月6日 4病院合同災害対策訓練・講習会を開催した。
 - ・平成21年11月9日 院長、看護部長らによる院内医療安全ラウンドを実施した。
 - ・平成21年11月11日 4病院合同感染対策セミナー「手術部位（SSI）対策」を開催した。
 - ・平成21年11月14日 患者家族を対象に転倒・転落予防対策セミナーを開催した。
- ⑫ 平成21年12月7日 4病院合同褥瘡セミナーを開催した。
- ⑬ 平成21年12月16日 医療安全勉強会「チェストドレーンバックの正しい知識と安全管理」を開催した。
- ⑭ 平成21年12月19日 柏病院チーム医療ワークショップを開催した。
- ⑮ 平成22年2月22日 医薬品安全管理セミナー「麻薬使用時の注意点」を開催した。
- ⑯ 平成22年2月2日 4病院合同リスクシンポジウム「各病院のワーキンググループによる医療安全推進活動報告」を開催した。
- ⑰ 平成22年3月3日 4病院合同東大・早大・慈恵共同研究に関するシンポジウム開催した。
- ⑱ 平成22年3月12日 医療安全勉強会「静脈血栓塞栓症の予防と注意」を開催した。

16) 工事関係

- | | |
|------------------|------------|
| ① 病棟ファンコイル空調設備更新 | 平成21年6月完了 |
| ② 手術室拡張改修 | 平成21年7月完了 |
| ③ 外来カルテ搬送システム更新 | 平成21年9月完了 |
| ④ 4C病棟感染対策扉設置 | 平成21年9月完了 |
| ⑤ 産婦人科外来改修 | 平成21年11月完了 |
| ⑥ 職員食堂及び廊下整備 | 平成22年2月完了 |
| ⑦ 冷水膨張タンク更新 | 平成22年3月完了 |
| ⑧ 高架水槽塗装 | 平成22年3月完了 |
| ⑨ PACS導入に伴う付帯工事 | 平成22年3月完了 |
| ⑩ 7A・B病棟個室整備 | 平成22年3月完了 |

(5) 総合健診・予防医学センター

センター長 錢谷 幹男
 新橋健診センター 所長 和田 高士
 晴海健診センター 所長 阪本 要一

1) 20年度実績（新橋健診センター）

年間受診者	13,050名
（内訳）	
* 人間ドック	7,935名
* 入社健診	663名
* 定期健診	2,374名
* 特殊検診	1,522名
* 予防接種	284名
* その他	267名

2) 契約企業対象の健康医学セミナーを毎年開催している。

平成21年度は、2月24日（水）開催した。参加人数は41名であった。講演内容は「働く女性の健康管理」について神谷直樹教授（産婦人科学講座）が講演した。

- 3) 日本ドック学会による人間ドック健診施設機能評価を平成21年11月18日に受審し、平成22年2月に認定証が交付された。
- 4) 見える化タスク・フォースによるバランスト・スコアカード (BSC) ビジョン「攻めの予防医学」・サブテーマ「サービスと質と向上と特定保健指導の充実」について作成した。

(6) 病床数および外来患者数

(1) 病床数（使用床）

（平成21年4月1日現在）

	本 院	青 戸	第 三	柏	合 計
個 室	289	26	64	67	446
2 人 室	6	38	36	40	120
3 人 室 以 上	753	299	509	476	2,037
合 計	1,048	363	609	583	2,603
比率（内科系：外科系）	42：58	44：56	56：44	38：62	

(2) 病床数（届出床）

（平成21年4月1日現在）

	本 院	青 戸	第 三	柏	合 計
個 室	294	26	73	86	479
2 人 室	6	38	42	62	148
3 人 室 以 上	775	326	515	476	2,092
合 計	1,075	390	630	624	2,719
比率（内科系：外科系）	42：58	44：56	56：44	36：62	

(3) 平成21年度診療実績

（平成21年度）

	本 院	青 戸	第 三	柏	晴海トリトン	合 計
一日平均外来患者数	2,989	1,070	1,435	1,473	147	7,114
一日平均入院患者数	906	318	494	511		2,229
利用率（稼働床）	86.3	87.7	85.3	87.6		86.6
予 算 達 成 率	104.9	106.1	102.2	101.0	102.1	103.7
紹 介 率 医 療 法	54.5	46.9	41.3	60.4	8.8	
〃 保 険 法	48.8	45.8	35.0	51.2	3.8	

2) 派遣・関連病院関係

(1) 大学協力病院（5病院）

（平成21年4月1日現在）

	病 院 名	院 長	副 院 長	常勤医数 (慈恵関係者)	病 床 数
1	国立病院機構 西埼玉中央病院	竿代 丈夫 (昭45)	池内 健二 (昭57)	41 (21)	325
2	富士市立中央病院	山田 治男 (昭43)	永井 素大 (昭45) 笠井 健司 (昭56) 鈴木 康之 (他学) 鈴木 優子 (看護)	72 (59)	596
3	厚木市立病院	田代 和也 (昭51)	太田 秀臣 (昭49) 吉塚 弥生 (看護)	47 (41)	356
4	町田市民病院	事業管理者 四方 洋 院長 近藤 直弥 (昭53)	佐藤 裕 (他学) 羽生 信義 (昭53) 金崎 章 (昭56) 櫻本千恵子 (他学)	72 (22)	458
5	東 急 病 院	徳留 悟朗 (昭56)	筋野 甫 (昭54)	23 (24)	135

※大学協力病院の指定要件は次の通りである。

- 1) 院長または副院長等の主要ポストが得られること
- 2) 人事などに大学の意向が反映されること

(2) 教室等関連病院 (○印：大学協力病院)

内科学講座 ○ 国立病院機構西埼玉中央病院 ○ 富士市立中央病院 ○ 厚木市立病院 ○ 町田市民病院 神奈川県リハビリテーション病院 神奈川県立汐見台病院 国立病院機構宇都宮病院 社会保険大宮総合病院 社会保険桜ヶ丘総合病院 国立病院東京医療センター 東京通信病院	京橋病院 国立病院機構東埼玉病院 横須賀うわまち病院 太田総合病院	社会保険川崎中央病院 都立清瀬小児病院 湘南病院 国立成育医療センター 都立大塚病院 神奈川県立こども医療センター 狭山病院 葛飾赤十字産院 多摩南部地域病院
※消化器・肝臓内科 ○ 東急病院 国立病院機構相模原病院 虎ノ門病院 松下電器東京健康管理センター 立川中央病院 川口市立医療センター 埼玉慈恵病院 早期胃癌検診協会 松島病院大腸肛門病センター	※糖尿病・代謝・内分泌内科 川口市立医療センター 衣笠病院 川崎臨港病院 町立津南病院	皮膚科 ○ 厚木市立病院 東京警察病院 NTT 東日本関東病院 東京通信病院
※神経内科 川崎臨港病院 国立精神・神経センター武蔵病院 亀田総合病院 兵庫県立高齢者脳機能センター 姫路循環器病センター 国立国際医療センター 日本赤十字社医療センター	※呼吸器内科 国立国際医療センター 国立病院機構東京病院 埼玉県立循環器呼吸器病センター 国立がんセンター中央病院	放射線科 ○ 富士市立中央病院 ○ 厚木市立病院 神奈川県立汐見台病院 放射線医学総合研究所 日赤医療センター 大田原赤十字病院 JR 東京総合病院 都職員共済組合青山病院 松下電器東京健康管理センター 癌研究会附属病院 星総合病院 都立荏原病院 東京歯科大学市川総合病院 東京労災病院 立川総合病院 藤沢市民病院 立川中央病院 聖マリアンナ医科大学
※腎臓・高血圧内科 ○ 東急病院 済生会中央病院 益子病院 中野江古田病院 東京都老人医療センター 川口市立医療センター 沼津市立病院 養生会かしま病院	精神医学 ○ 富士市立中央病院 ○ 厚木市立病院 ○ 町田市民病院 栃木県精神保健センター 松下電器東京健康管理センター 北辰病院 横手興生病院 湘南病院 成増厚生病院 成田病院 総武病院 東条病院 放射線医学総合研究所 西熊谷病院 国立成育医療センター 常心会川室記念病院 栃木県立岡本台病院 豊後荘病院 久喜すずの木病院 高田西城病院 那須高原病院 両毛病院 河津浜病院 芳野病院 光生会平川病院	外科 ○ 国立病院機構西埼玉中央病院 ○ 富士市立中央病院 ○ 厚木市立病院 ○ 町田市民病院 ○ 東急病院 神奈川県リハビリテーション病院 神奈川県立汐見台病院 社会保険桜ヶ丘総合病院 社会保険大宮総合病院 癌研究会附属病院 埼玉慈恵病院 湘南病院 川口市立医療センター 総合高津中央病院 賛育会病院 藤村病院 春日部中央総合病院 守谷慶友病院 藤立病院 金町中央病院
※リウマチ・膠原病内科 国立病院機構相模原病院	小児科 ○ 富士市立中央病院 ○ 厚木市立病院 神奈川県リハビリテーション病院 神奈川県立汐見台病院 国立病院機構宇都宮病院 国立病院機構相模原病院 埼玉県立小児医療センター 町立津南病院 都立北療育医療センター	
※循環器内科 ○ 東急病院 埼玉県立循環器呼吸器病センター 松下電器東京健康管理センター 衣笠病院 魚沼病院 湘南病院 聖隷三方原病院 大洗海岸病院 国立がんセンター中央病院 町立津南病院 東京武蔵野病院 古川橋病院		

<p>青山病院 麻生病院 川崎市立川崎病院 国立成育医療センター 佐々木病院 日比谷病院 第三北品川病院 安田病院 市川第二病院 益子病院 東葛辻仲病院 武蔵野総合病院 行田中央病院 佐倉中央病院</p>	<p>産婦人科</p> <p>○ 国立病院機構西埼玉中央病院 ○ 富士市立中央病院 ○ 厚木市立病院 ○ 町田市民病院 神奈川県立汐見台病院 茅ヶ崎市立病院 深谷赤十字病院 杏雲堂病院 太田総合病院 国立成育医療センター 立正佼成会附属佼成病院 東京顕微鏡院附属病院 谷津保健病院 都健康推進財団多摩がん検診センター 横浜市立みなと赤十字病院</p>	<p>大森赤十字病院 太田総合病院 東京共済病院 東京厚生年金病院 東京歯科大学市川総合病院 都立豊島病院 同愛記念病院 国立がんセンター東病院 東部地域病院 総合病院国保旭中央病院 東京臨海病院</p>
<p>整形外科</p> <p>○ 国立病院機構西埼玉中央病院 ○ 富士市立中央病院 ○ 厚木市立病院 ○ 東急病院 神奈川リハビリテーション病院 神奈川県立汐見台病院 国立病院機構宇都宮病院 社会保険桜ヶ丘総合病院 都職員共済組合青山病院 第三北品川病院 とちぎりリハビリテーションセンター 都立豊島病院</p>	<p>泌尿器科</p> <p>○ 富士市立中央病院 ○ 厚木市立病院 ○ 町田市民病院 神奈川県立汐見台病院 社会保険大宮総合病院 星総合病院 JR 東京総合病院 東京都リハビリテーション病院 平塚共済組合病院 立正佼成会附属佼成病院 国立成育医療センター 栃木県立がんセンター</p>	<p>麻酔科</p> <p>○ 富士市立中央病院 ○ 厚木市立病院 ○ 町田市民病院 ○ 東急病院 川口市立医療センター 国立病院機構宇都宮病院 社会保険大宮総合病院 神奈川県立汐見台病院 東京北社会保険病院 埼玉県立循環器呼吸器病センター</p>
<p>脳神経外科</p> <p>○ 富士市立中央病院 ○ 厚木市立病院 東大宮病院 秋葉病院 麻生病院 宇都宮第1病院 大森赤十字病院 聖マリアンナ医科大学病院 明徳会佐藤第一病院</p>	<p>眼科</p> <p>○ 厚木市立病院 ○ 町田市民病院 ○ 東急病院 神奈川リハビリテーション病院 神奈川県立汐見台病院 社会保険桜ヶ丘総合病院 国立病院機構相模原病院 東京労災病院 国立病院東京医療センター 田中農協病院 二本松眼科病院 八潮中央総合病院 衣笠病院 新松戸中央総合病院 国立身体障害者リハビリテーションセンター 東京警察病院</p>	<p>リハビリテーション科</p> <p>神奈川リハビリテーション病院 国立病院機構宇都宮病院 聖隷三方原病院 東京通信病院 中伊豆リハビリテーションセンター 都立大塚病院 都立豊島病院 都立墨東病院 とちぎりリハビリテーションセンター 東京都リハビリテーション病院</p>
<p>形成外科</p> <p>○ 富士市立中央病院 ○ 厚木市立病院 ○ 町田市民病院 東京厚生年金病院 第三北品川病院 都立駒込病院 本島総合病院</p>	<p>形成外科</p> <p>○ 富士市立中央病院 ○ 厚木市立病院 ○ 町田市民病院 東京厚生年金病院 第三北品川病院 都立駒込病院 本島総合病院</p>	<p>病理学</p> <p>○ 国立病院機構西埼玉中央病院 ○ 富士市立中央病院 ○ 厚木市立病院 立正佼成会附属佼成病院 国立病院機構千葉東病院</p>
<p>心臓外科</p> <p>○ 富士市立中央病院 ○ 町田市民病院 埼玉県立循環器呼吸器病センター 埼玉県立小児医療センター 横浜総合病院 都立豊島病院 佐久総合病院 新東京病院 都立清瀬小児病院</p>	<p>耳鼻咽喉科</p> <p>○ 富士市立中央病院 ○ 厚木市立病院 ○ 東急病院 神奈川リハビリテーション病院 神奈川県立汐見台病院 癌研究会附属病院 湘南病院 聖路加国際病院</p>	<p>歯科</p> <p>○ 町田市民病院 社会保険大宮総合病院</p>
		<p>内視鏡科</p> <p>益子病院 松島クリニック 社会保険中央総合病院 川村病院</p>
		<p>感染制御部</p> <p>神奈川県立汐見台病院</p>
		<p>法医学</p> <p>東京都監察医務院</p>
		<p>分子生理学</p> <p>東京歯科大市川総合病院</p>

(3) 特殊派遣機関（9 機関）

病 院 名	科 名	病 院 名	科 名
日本航空インター ナショナル（羽田）	内 科	日本航空ジャパン	内 科
	精 神 医 学		精 神 医 学
	放 射 線 医 学		眼 科
	眼 科		耳 鼻 咽 喉 科
日本航空インター ナショナル（成田）	耳 鼻 咽 喉 科	衆 議 院 診 療 所	内 科
	内 科		皮 膚 科
全 日 空	精 神 医 学		出版健康保険組合診療所
	内 科	耳 鼻 咽 喉 科	
	整 形 外 科	東京国税局診療所	内 科
	眼 科		精 神 医 学
	耳 鼻 咽 喉 科		外 科
航空医学研究センター	内 視 鏡 科	社 会 保 険 新 宿 健 診 セ ン タ ー	内 科
	内 科		外 科
	精 神 医 学		内 科
	眼 科		外 科
	耳 鼻 咽 喉 科		

(4) 特殊派遣機関（海外派遣機関）

病 院 名	科 名
英 国 ロ ン ド ン 日 本 人 ク ラ ブ	内 科
	小 児 科

6. 学術情報センター

学術情報センター長 兼平 千裕（放射線医学）（平成19年4月より）
同 図書館国領分館長 小澤 隆一（社会科学）（平成19年4月より）

1) 平成21年度統計（平成21年4月1日～平成22年3月31日）

(1) 図書館

① 蔵書冊数	251,741冊
② 現在受入雑誌数	1,023種（和732種、洋291種）
③ 電子ジャーナル提供数	約4,300種
④ 館外貸出冊数	10,978冊
⑤ 他学との文献相互貸借数	貸出5,816件 借受4,391件
⑥ 複写サービス	600,941枚
⑦ 情報検索サービス	79,407件（代行とセルフサービスの合計）

(2) 国領分館

① 蔵書冊数	81,887冊
② 現在受入雑誌数	386種（和339種、洋47種）
③ 館外貸出冊数	7,860冊

(3) 標本館

① 標本数	マクロ標本	1,735点
	顕微鏡標本	2,549点
② 視聴覚資料	ビデオ・プログラム	1,754セット
	スライド・プログラム	601セット
	16mm フィルム	37セット
	コンピュータ・ソフトウェア	52セット
	語学プログラム	204セット
	その他	79セット

(4) 史料室

見学者数 404名（学内154名、学外250名）

(5) 写真室

① 撮影・スライド制作サービス	16件（877枚）
② レントゲンフィルム複製サービス	289件（2,583枚）
③ ビデオ編集サービス	55件（149時間）
④ カラープリント出力サービス	40件（1,558枚）
⑤ 35mm スライド入力サービス	29件（1,523枚）

2) 主な事項

(1) 医学部学生演習

医学科1年生と2年生を対象にした基礎的な情報検索演習（医学総論）と、医学科3年生と4年生の「臨床疫学コース」の情報検索演習、看護学科1年生の図書館利用指導を担当した。

(2) ネットワークを介した情報提供

電子ジャーナルと医学関連データベースをネットワーク経由で利用できる環境を維持した。医学文献データベースであるMEDLINEと医学中央雑誌については、希望者を対象として、データベースに新規データが追加された際に電子メールにて通知している（AutoAlertサービス）。

また、平成20年度に引き続き、新聞4誌から医療関係の記事の見出しを電子メールで配信するサービスも実施した。

- (3) 学術リポジトリの構築
学内の学術成果物を電子的に蓄積し、インターネット上に公開する学術リポジトリの運用を担当している。東京慈恵会医科大学雑誌、Jikeikai Medical Journal、教育・研究年報、Research Activities、高木兼寛の医学、高木兼寛の生涯、Life of Kanehiro Takakiの内容を登録し、インターネットで参照できるようにした。
- (4) 『東京慈恵会医科大学教育・研究年報2008（第28号）』および『Research Activities 2008』の編集担当
標記各年報の原稿を大学ネットワーク経由で収集し、編集・出版の作業を担当した。
- (5) 東京慈恵会医科大学記録Ⅶ」の編集担当
平成16年度から20年度の標記大学記録について全学に原稿を依頼し、編集・出版の作業を担当した。
- (6) 医学論文書きかた講習会の開催
Jikeikai Medical Journal 編集委員会と東京慈恵会医科大学雑誌編集委員会の共催により、5月25日および6月5日に岡崎真雄准教授（学術情報センター）により英語で論文執筆の際の注意点について、また6月2日に諏訪邦夫先生（元帝京大学麻酔科教授）により「論文を書く技術：ファイルリンクを使おう」と題する内容についての講習会が開催された。また、大学院共通カリキュラムの枠へ統一のため、開催時間が平成21年度までの17時30分-19時が、18時-19時30分に変更された
- (7) 教材・研究資料の作製支援
学内教職員、学生、同窓生を対象に、静止画及び動画の撮影をはじめ、アナログ・デジタル写真の作製・加工、スライド作製、ビデオ編集のサービスを行っている。また35mmスライドをデジタルデータ化するサービスも行っており、パワーポイントファイル作製支援をしている。
- (8) レントゲンフィルムの複製
教育・研究用の資料として、他病院への診療情報提供、裁判所等への提出資料として、また病院保管用資料として用いるレントゲンフィルムのコピーを行っている。
- (9) 広報活動支援業務
広報活動支援業務として、学内行事の撮影、および保管している画像データの提供を行っている。
- (10) 情報技術支援業務
学事課・システム課・教育センターの職員との協力による情報技術支援業務（テレビ会議等）を継続担当している。
- (11) リモートアクセスサービスの開始
電子ジャーナルおよびデータベースは大学ネットワーク上でのみ利用可能であったが、必要機器を導入して、学外（自宅や派遣先）からアクセスするためのサービスである「リモートアクセスサービス」を開始した。
- (12) 「東京慈恵会医科大学創立130年記念誌編集委員会」への参加
東京慈恵会医科大学創立130年の記念式典並びに130年記念誌編集委員会への協力、史料室の史料提供も行っている。

7. 教育センター

教育センターの目的は、卒前教育、卒後教育、生涯学習の連続性の中で、大学、附属病院を横断する教育活動を支援・実施することである。

平成21年度の本センター活動については、大学の基本方針、運営計画に基く活動として、下記事業を実施した。

- 1) 広報活動の充実においては、本センターが主管している公開講座推進委員会主導のもと、大学および4附属病院の独自性、自主性を保ちつつ、大学看護学科4回、附属病院愛宕山みんなの健康教室（NHK放送博物館共催）3回、CPR公開講座2回、青戸病院公開健康セミナー2回、第三病院公開健康セミナー7回、柏病院地域医療連携フォーラム2回、計20回の大学主催公開講座が開催され、1,842人の参加があった。その中で15回分を国の私学助成の経常費補助金を利活用して実施した。その他に、医学講座、診療科主催の公開講座、地域医療者を対象とした公開講座が年間8回開催された。

これらの取り組みについては、学内から情報の提供を広く呼びかけ推進を図り、大学の公開講座ホームページに掲載し、情報発信を行った。

- 2) 本学学生、教職員の診療技能教育の充実において、本センターが主管しているスキルス・ラボ運営委員会のもと、学部学生、研修医、看護部等がスキルス・ラボの施設および機器備品貸出を利用し、診療技能教育の向上に活用した。西新橋校では34点の貸出機器備品を管理し、年間291件利用があった。国領校では18点の貸出機器備品を管理し、年間81件利用があった。西新橋スキルス・ラボはシミュレーション教育の充実と卒前・卒後・医療従事者の利用向上を図るため、平成22年4月1日よりC棟7階に移設することとなった。

- 3) 4機関合同の教育活動の支援において、本センターが主管しているテレビ会議運営委員会主導のもと、4機関を接続したテレビ会議システムを利用して、4病院合同リスクマネジメントシンポジウムを年3回（7月、11月、2月）、臨床研究に関する倫理指針（6月）、新型インフルエンザ対策を年2回（5月、9月）個人情報に関する研修セミナー（7月）、東大・早大・慈恵共同研究発表会（3月）等の教育活動を支援し、年間15回テレビ会議システムの利用支援を行った。

- 4) 文部科学省戦略的大学連携支援事業（東京慈恵会医科大学（主管）、昭和大学、東京医科大学、東邦大学の4大学間連携）：東京都内4医療系大学連携によるカリキュラム開発と地域医療者生涯学習コース提供

事業実績としては本センターが主管して4大学（昭和大学、東京医科大学、東邦大学と本学）責任者会議を5回開催した。また、4大学電子教材委員会を主管して5回開催し、電子教材共有化のガイドラインを作成した。さらにIT担当者SDプログラムを次の通り開催した。

- (1) 第1回「教材共有化のための著作権処理および教材開発・蓄積」平成21年5月23日、
4大学 35人参加、高木会館2号館 南講堂
- (2) 第2回「教職員のマネジメント能力と実践力を兼ね備えた人材育成」平成21年6月27日、
4大学 26人参加、大学1号館 6階講堂
- (3) 第3回「機関リポジトリ」平成21年10月10日、
5大学 21人参加) 大学1号館 6階講堂
- (4) 第4回「電子教材ライブラリの管理・運用」ワークショップ形式 平成21年12月21日、
4大学 17人参加、大学2号館カンファレンスルーム
- (5) 第5回「高等教育における情報リテラシー教育とeラーニング」平成22年2月19日、
5大学 22人参加、中央棟 8階 会議室1・2

- 5) 19特色GP事業：テーマ「地域の教育力を活かす医療者教育」

- (1) 家庭医実習指導医FDワークショップ（第44回）

日 時：平成21年10月25日（日）5名参加。会場：E会議室

講義内容：「家庭医実習指導医FD」福島統（教育センター長）他

- (2) 在宅ケア実習指導者 FD ワークショップ (第45回)
 日 時：平成21年10月31日 (土) 8名参加。会場：E会議室
 講義内容：「慈恵医大の地域医療教育」、「学生指導の工夫と悩み」他
 福島 統 (教育センター長)
- (3) 地域医療者 FD プログラム
 日 時：5月9日 (第11回) ~ 1月9日 (第14回) の4回開催、計61名参加。
 会 場：本学西講堂、スキルス・ラボ
 講義・実習内容：「シミュレータ (Mr. Lung) による聴診」他、
 福島 統 (教育センター長) 他
 ※本プログラムは地域の訪問看護師を対象としているが、本年度は本学の在宅ケア実習受
 入ステーションも対象に開催した。

6) 19医療人 GP 事業：テーマ「プライマリケア現場の臨床研究者の育成」

【1期生・受講生12名】

- (1) 講義 (eラーニング)：2コース 全15回 (生物統計学、医療倫理と研究倫理)
 (2) 第4回ワークショップ 10名参加
 日 時：10月11日 (日) 会場：5階講堂
 第5回ワークショップ 10名参加
 日 時：3月7日 (日) 会場：5階講堂
 講義内容：受講生による研究発表

【2期生・受講生12名】

- (1) 講義 (eラーニング)：4コース 全26回
 (家庭医療学、EBM から始まる臨床研究、疫学臨床研究、質的研究)
 (2) 第1回ワークショップ 11名参加
 日 時：5月16日-17日 会場：セミナーハウス クロスウェーブ東中野
 第2回ワークショップ 10名参加
 日 時：9月12日-13日 会場：セミナーハウス クロスウェーブ東中野
 第3回ワークショップ 10名参加
 日 時：2月6日-7日 会場：慈恵医大 セミナーC
 講義内容：「疫学・臨床研究」
 松島 雅人 (臨床疫学研究室・教育センター・総合診療部) 他

8. その他

1) 成医会

(1) 第126回成医会総会は、平成21年10月1日(木)・2日(金)の2日間にわたり開催された。

① 特別講演

近藤 一博教授(ウイルス学)

「ウイルス学的アプローチによる疲労の分子機構の解明」

中山 和彦教授(精神神経科)

「精神科薬物治療法の最適化—発症から自己治癒過程を踏まえて—」

② 宿題報告

福島 統教授(教育センター)

「医学教育の新しい流れ」

阪本 要一教授(晴海トリトニッククリニック)

「体組成に関する基礎的・臨床的研究」

福永 眞治教授(病院病理部)

「胞状奇胎の臨床病理学的研究」

池本 庸准教授(泌尿器科)

「前立腺肥大—症状スコアからみたその病態特性—」

③ シンポジウム

「新型インフルエンザパンデミックへの対応を考える」

司会 小野寺昭一(感染制御部)

近藤 一博(ウイルス学)

1. 感染症情報センターの対応

岡部 信彦(国立感染症研究所感染症情報センター)

2. 海外渡航者への対応

加地 正伸(日本航空健康管理室)

3. 附属病院としての対応

中澤 靖(感染対策室)

4. 新しいインフルエンザワクチンの開発

長谷川秀樹(国立感染症研究所インフルエンザウイルス研究センター)

④ パネルディスカッション

「女性医師の働きやすい環境づくりに向けて」

司会 田尻 久雄(消化器・肝臓内科)

川瀬 和美(乳腺・内分泌外科)

1. 基調講演『企業における女性の活躍支援』

岩田喜美枝(㈱資生堂代表取締役副社長)

2. 本学の女性医師の現状と支援

岡崎 史子(循環器内科)

3. レジデントの現状と問題点

三木 麗(外科)

4. 開業医の立場から

大野 京子(小児科)

5. 教室運営と女性医師

中川 秀己(皮膚科)

6. 病院としての今後のサポート体制

谷口 郁夫(副院長・常務理事)

(2) 第1255回成医会例会は、平成22年2月19日(金)に行われ「日本のこれから、日本人のこ

れから」が講演のテーマとして選ばれた。司会は、阿部俊昭（成医会運営委員長）が務め、お茶の水女子大学名誉教授の藤原正彦先生が講演し、最後に栗原敏成医会会長（学長）が総括を行った。

- (3) 第127回成医会総会については、平成22年10月7日（木）、8日（金）の2日間にわたって開催の予定。

2) 各種行事

- (1) 平成21年4月9日（木）、平成21年度医学科および看護学科入学式を挙行了した。
- (2) 平成21年8月4日（火）～8月6日（木）、宮崎県穆佐小学校学童2名、教諭2名の本学招待旅行が行われた。この行事は、昭和50年より始められ、今回で35回目となる。
- (3) 平成21年10月3日（土）、同窓会支部長会議・学術連絡会議が開催された。
- (4) 平成21年10月10日（土）、学祖高木兼寛先生の墓参を行った。
- (5) 平成21年10月17日（土）、卒業50周年を迎えた卒業生（昭34年）をお招きし、懇談の集いを開催した。
- (6) 平成21年10月28日（水）、第105回解剖諸霊位供養法会を増上寺において執り行った。
- (7) 平成22年1月30日（土）、馬詰良樹教授、田嶋尚子教授、久保政勝教授、古幡博教授を囲んでの退任記念パーティーが行われた。
- (8) 平成22年2月22日（月）献体者遺族に対して文部科学大臣よりの感謝状伝達式を執り行った。
- (9) 平成22年3月12日（金）、第85回医学科、第15回看護学科卒業式を挙行了した。

3) 印刷物等の発行

- (1) 法人誌「The JIKEI」の発行
平成22年3月に「The JIKEI14号」を発行した。
同窓、医学部父兄および120周年記念事業寄付者、医療連携病院、教職員に配布しているほか、各種説明会に使用している。
- (2) 慈恵ニュース
平成21年7月に185号、平成22年1月に186号を発行し教職員に配布した。なお、平成21年度の初回発行となる185号の号外として「学校法人慈恵大学 中期目標・中期計画・平成21年度事業計画」を発行した。
- (3) 大学広報
発行なし。
- (4) 大学ガイド
平成21年6月に入試用ガイドとして「平成21年度版大学ガイド」を発行した。
- (5) 大学説明会案内ポスター
「大学ガイド」の作成に合わせ平成21年6月にオープンキャンパスと入試日程のポスターを作成した。
高等学校、予備校等をはじめ、同窓会長、支部長、学術連絡委員に郵送し広報に関するご協力を頂いている。
- (6) 大学公報
毎月発行した。
- (7) 大学ホームページ
ホームページを利用した情報収集が一般化し、大学ホームページの閲覧数は年々増加傾向にある。特に病院ページへのアクセス増加は、患者の病院選択においても大きな影響を与えると判断される。こうした状況に配慮し、関連部署ならびに関連委員会と連携し、ホームページの掲載内容の充実とともに、常に最新情報を掲載するよう努めた。
- (8) イントラネット

「大学・本院会議予定」、「大学・病院行事予定」、「理事会抄録」等のほか、各部署の保有する情報をイントラネット上のホームページに掲載し、学内での情報共有の有効な手段として活用している。

(9) オールユーザーメールの活用

講演会、研修会等の開催のほか、教職員のテレビ・ラジオ・講演会等への出演や新聞・雑誌等への掲載情報を主として、平成21年度は407件のオールユーザーメールを発信した。

〔付〕 1. 平成21年度 事業計画に対する実施結果一覧

中 期 計 画	平成21年度事業計画	平 成 2 1 年 度 実 施 結 果
<p>I. 大学の教育・研究・診療等の質の向上に関する目標</p> <p>1. 教育に関する目標</p> <p>(1) 教育の成果に関する目標</p> <p>①教養教育のあり方を検討する。</p> <p>②医学科と看護学科でエビデンスに基づいた判断能力を涵養するカリキュラムを改善充実させる。</p> <p>③研究的態度を涵養するカリキュラムを改善充実させる。</p> <p>④外国語教育の充実を図る。</p> <p>⑤学生の個性を尊重した教育を実施する。</p> <p>⑥国家試験を視野に入れた評価方法の改善を図る。</p> <p>⑦大学間連携を推進する。</p>	<p>①-1 医学科新カリキュラムの導入効果を検証する。 ・看護学科の新カリキュラムを実施する。</p> <p>①-2 高学年への教養科目導入を検討する。</p> <p>②研究室配属期間を延長する。</p> <p>③臨床実習時間を延長し、参加型実習にした効果を検証する。</p> <p>④今年度より開始する医学科と看護学科を分けてクラス編成する方式の実態調査と検討を行う。</p> <p>⑤選択臨床実習の期間を延長し、自由度を拡大する。</p> <p>⑥国家試験を考慮した試験形式を検証する。</p> <p>⑦ 4 私立医大や首都大学東京などとの連携を継続する。</p>	<p>医学一コース責任者会議で検討中 看護一平成21年度の入学生から実施した。</p> <p>医学一カリキュラム委員会で将来的に教養科目を上位学年に選択科目として導入する方向とした。導入時期は今後検討。 看護一検討の結果、新カリキュラムでは導入を止めた。</p> <p>平成22年度から従来の3週を6週間に延長する。</p> <p>医学一総合試験（医学総括試験）およびOSCE（客観的臨床能力試験）の結果に成績の向上が見られる。各科の特徴を生かした実習となっている。 看護一参加型実習は導入済みであり、新カリキュラムより実習時間も延長する予定。</p> <p>学科毎のクラス編成で今のところ特に問題はなし。</p> <p>医学一選択実習 PhaseIVの後に選択実習 PhaseV（選択科目）を新設した。履修者は2名であった。看護一以前より実施。学生数の増加に伴い枠を広げている。</p> <p>医学一国家試験問題に準じて多選択式問題、計算問題を卒業試験に導入した。 看護一担当教員独自の工夫による試験方法を実施している。第99回看護師、第96回保健師国家試験は全員合格であった。</p> <p>国領校、西新橋校でそれぞれ首都大学東京から特別科目等履修生として計7名を受け入れた。平成20年度より本学を中心に、戦略的大学連携支援事業として『東京都内4医療系大学連携による教育カリキュラムの開発と地域医療者生涯学習コースを提供する』という取り組み（電子教材、SD、地域医療、選択制臨床実習、他職種連携）を展開している。</p>
<p>①豊富な症例を対象とした臨床研究を行うため基盤整備を行う。 ・トランスレーショナルリサーチを推進する環境を整備する。</p> <p>②社会人入学の振興を図る。</p>	<p>①臨床研究推進のための検討を行う。</p> <p>②大学院の社会人入学制度の検証を行い更なる改善につなげる。</p>	<p>・臨床研究開発室を発展的に改組し、分子疫学研究室と臨床疫学研究室を設置した。 ・研究奨励費と研究振興費を統合し、次年度の運用に向け研究基盤を整備した。</p> <p>社会人の勤務体制を考慮し、大学院の一部の授業（共通カリキュラム、選択カリキュラム）を夜間の時間帯あるいは土曜日に設定した。平成22年度から選択カリキュラムの授業の一部にe-learningシステムを導入することにした。 更に社会人学生の在籍する以外の授業細目まで社会人用のカリキュラムを作成した。社会人用のカリキュラムを導入している授業細目科、研究部門は11の授業細目科と3部門の総合医科学研究センターである。（社会人学生12名）</p>

中 期 計 画	平成21年度事業計画	平成 21 年 度 実 施 結 果
<p>③研究者に必要な倫理観、判断力を涵養するプログラムを策定する。</p> <p>④共通カリキュラムの改善を図る。</p> <p>⑤看護学専攻修士課程における研究を充実させ質を高める。</p>	<p>③新設した医学教育のカリキュラムの内容を継続的に検証し充実を図る。</p> <p>④共通カリキュラムの内容を継続的に検討する。</p> <p>⑤看護学専攻修士課程の安定した運用を図る。</p>	<p>大学院共通カリキュラム「医学教育学」の講義を改組し、看護学専攻修士課程と共修科目（全8回）にした。当講義内容は本学大学院の教育方針に則して実施され、全ての大学院生（修士課程・博士課程）に受講を義務づけ授業内容の充実化を図った。</p> <p>大学院共通カリキュラムに「医学教育学 全8回」、「医の倫理全8回」、「医学研究法概論 全8回」を設定し、研究者の倫理、医学教育、研究費獲得、論文の書き方等の講義を行った。更に、当講義は大学院生のみならず研究者にとって有益な講義であったため、講義の一部を公開講義とした。社会人大学院生でも履修できるよう動物実験や医療統計学を土曜日に開講した。今後、入学する社会人大学院生のニーズ、本学大学院の理念より授業内容を更に検証していく。</p> <p>平成21年度については新規開学のため、各委員会を発足させ、活動させることが修士課程として安定的な運営と考え、内規を整備するとともに、該当委員会で議決された業務の遂行まで行なった。</p> <p>また、研究の質を高めるという点においては、博士課程と同様に授業料の返戻制度を利用して「研究指導費（院生分）」として分野別教員の教育支援制度を作った。</p> <p>また、学生に対しては、博士課程と同様な「研究助成制度」を創設して、学生にとっては、研究指導費の院生使用分と研究助成制度により、活動の範囲や内容を高めるようにした。</p>
<p>(2) 教育内容等に関する目標</p> <p>①医学科・看護学科の入学試験を改善する。</p> <p>②医学科と看護学科のカリキュラムを点検し改善する。</p> <p>③モデル・コア・カリキュラムを考慮した医学科の特色あるカリキュラムを継続的に検討する。</p> <p>④医学科の交換留学制度を充実させる。</p> <p>⑤レジデント教育プログラムを改善して医学生に公開する。</p> <p>⑥高校訪問やオープンキャンパスを積極的に行い、看護学科受験者増を推進する。</p> <p>⑦看護学科の定員を増やす。</p>	<p>①医学科受験者の詳細な調査を実施し、優秀な学生を獲得する方策を立てる。 ・看護学科の志願者増を図る。</p> <p>②新カリキュラムの実施状況を検証する。</p> <p>③医学科カリキュラムの状況を検証する。</p> <p>④医学科の外国人留学生の受入れ体制を充実させる。</p> <p>⑤新プログラムをホームページへ開示し、プログラムの充実を図る。</p> <p>⑥看護学科の志願者を増やすために継続して広報活動を行う。</p> <p>⑦"看護教育のあり方を検討するプロジェクト"を設置し、看護学科定員増に関連する課題を検討する。</p>	<p>私立医科大学協会との協賛による大学説明会の開催により多くの受験生の相談を受け、本学のPR活動を行った。また、各有名予備校に教授の協力を得て大学ガイダンスや相談会を実施した。</p> <p>看護学科入試検討委員会では、入学試験の方法についての情報収集・分析を行った。</p> <p>各区分者会議を実施した</p> <p>コース社会医学Ⅰおよびコース社会医学Ⅱを見直すこととなり、コース社会医学Ⅰから法医学関係を除いたユニットをコース社会医学Ⅱに移行することとなった。平成22年度の経過措置を経て平成23年度に移行される。</p> <p>今年度、セントトーマス医学校留学に関する内規の改定を行い、次年度より2名から3名の枠に推薦者を増やした。また、大学からの補助も1名につき30万円とした。海外からの受入れは、国際交流委員会が中心となって行っているが、年間30名近く受入れている。今年、専用の寮を人事課と協議して男性用を2部屋とした。</p> <p>派遣検討会に出席する各科医局長を通じて、各科HPの立ち上げを促進し、ほぼ全科で独自のHPを立ち上げ、専門修得コース（レジデント）に関するプログラム等が詳細に掲載されている。</p> <p>高校訪問、模擬授業の実施。オープンキャンパスの内容改善などを活発に実施した。</p> <p>今後も継続検討中。</p>

中 期 計 画	平成21年度事業計画	平成 21 年 度 実 施 結 果
<p>⑧看護学科の講義、実習、演習の比率を改善する。</p> <p>⑨少人数教育体制の点検・評価を行う。</p> <p>⑩看護における臨床技能を高めるために実習方法を改善する。</p> <p>⑪看護学科の海外実習を振興する。</p>	<p>⑧看護学科の講義、実習、演習の比率を見直し実践能力を向上するよう改善策を検討する。</p> <p>⑨少人数教育の効果について点検・評価を行う。</p> <p>⑩臨床技能を高める実習を検討する。</p> <p>⑪タイの看護教員の講演会の実施、アジア方面への看護研修の計画を立案する。</p>	<p>地域看護学実習と老年看護学実習期間を延長した。</p> <p>卒業時に評価を実施、確認した。</p> <p>看護技術ステップアップノートを有効に運用し、技術修得に努めている。</p> <p>国際看護交流協会研修生（開発途上国の看護師）の受け入れと交流会を平成21年6月10日、10月7日に実施した。アメリカ看護研修は平成22年3月14日～29日に実施し、7名の学生が参加した。本学科の公開講座委員会と協力してタイ国のガルニー・ルクトラカーン博士の招聘講演会を平成21年6月20日に企画したが、国内での新型インフルエンザの発生に伴い、安全面を考慮し中止した。</p>
<p>(3) 教育の実施体制等に関する目標</p> <p>①教育・研究を考慮した教員の適正配置と教員数を検討する。</p> <p>②講義室などの教育環境整備を行う。</p> <p>③教育能力向上のための教育研修を実施する。</p> <p>④教員・医師人事評価制度の運用と体系的人事制度を構築する。</p>	<p>①教員医師人事室で教員の適切な人数を把握する。</p> <p>②継続的に教育環境やアメニティの改善を図る。</p> <p>③-1 継続的に Faculty Development、Staff Development を行い、教育体制の充実を図る。</p> <p>③-2 生涯教育のための講演会を継続的に開催する。</p> <p>④教員評価システムを教員人事に活用する。</p>	<p>平成22年度医師定数の設定を各科の実績を考慮した上で決定し、運用を開始した。</p> <p>医学—教学委員と学生会と懇談会を年2回実施し、学生からの環境改善の要望を確認し、備品購入および改修工事を実施した。看護—各教室への視聴覚機器が整備された。</p> <p>医学—教員を対象としたFDを年5回実施（学内）。4私立医科大学と共同の上SD研修会を3回実施 看護—一年3回実施した。</p> <p>生涯学習センター主催のセミナーは予定通り、開催することができた。</p> <p>教員評価システムへの各部署での情報入力は順調である。今後は、教員本人による個別入力の徹底に努め、教員個人票の出力が可能となるようシステムを改修し、平成22年度より教員の昇格に資料として活用する予定である。</p>
<p>(4) 学生への支援に関する目標</p> <p>①学生支援のための教員組織を充実させる。</p> <p>②奨学金制度を充実させる。</p> <p>③精神的支援を必要とする学生のためのシステムを構築する。</p>	<p>①学年担当教員制度を改善する。</p> <p>②奨学金授与・貸与方法を改善する。</p> <p>③学生健康管理チームの活動を開始する。学生相談室、学生アドバイザー制度の見直しを図る。</p>	<p>教学委員会と学生委員会が共同して入学時オリエンテーションを行い、特に学習支援が必要な学生には、個別に指導を行い、有効であった。</p> <p>経済的に困難な学生については、奨学金を紹介した。</p> <p>問題をかかえる学生の相談事例に対応する学生健康管理システムおよび学生健康管理チーム運用内規を教学委員会で再確認し、今後の対応を確認した。</p> <p>看護—1,2年生については、学生生活アドバイザー制度を導入した。教員は多少戸惑いがあったが、学生の評価は好評であった。</p>
<p>(5) 看護専門学校に関する目標</p> <p>①看護教員の確保に努める。</p> <p>②看護実践を重視した看護教育を行う。</p> <p>③学生確保のため積極的に広報活動を行う。</p>	<p>①看護教員確保に必要な具体的な措置を講じ、教員を確保する。</p> <p>②技術体験・見学体験の機会を増加させる。 ・臨床と基礎をつなげる教育方法の開発を行う。</p> <p>③受験雑誌への掲出、ネットサイトと契約など広報活動の充実を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページ、教員養成課程等で3校の採用活動を行い、新橋1名柏2名採用できた。教員定数は満たっていない。産休や大学院修学中の代替教員はいない。 ・看護教員の定数増員に向けての見直しを継続検討とする。 ・看護技術体験が充実するよう、臨床と連携がスムーズにはかれた。 ・オープンキャンパス参加者、応募者、受験者ともに増加した。 ・ほぼ定員に満った。

中 期 計 画	平成21年度事業計画	平成 21 年 度 実 施 結 果
④学生生活支援を積極的に行う。	④学習についていけない学生や生活上で問題のある学生への支援・指導、保護者との連携・協力を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 各学年で定期面接、成績不振者の個別面接・指導を実施必要に応じて保護者とも連絡を取り合い、精神面・学習面の支援を行った。 学生のメンタル面の支援について充実できるよう検討が必要。 経済的に貧窮する学生が増加しているため、大学に奨学金増額や貸与方法の継続検討を依頼中である。
⑤看護専門学校再編の再編を検討し実行する。 再編に向けて4病院を活用した実習カリキュラムを検討する。	⑤看護専門学校の再編計画を策定する。	<ul style="list-style-type: none"> 青戸看護専門学校は最終年度の学生がすべて卒業し国家試験に全員合格した。閉校申請も受理され閉校した。 記念誌の発刊、閉校式、閉校記念パーティーが滞りなく終了した。 備品・書類の移管準備と手続き中である。
2. 研究に関する目標 (1) 研究水準及び研究成果に関する目標 ①教員の職位に応じた論文発表を評価する。	①-1 論文の発表数と掲載された論文を自己評価する。	<ul style="list-style-type: none"> 教育・研究年報および英文研究年報の原稿執筆依頼とあわせて、教員評価システムへの論文発表データ入力呼びかけた。 教員評価システムへの論文発表データ入力の使用方法等に関する問い合わせに応じた。 大学自己点検・評価委員会で必要となるデータの作成に協力した。 研究開発支援総合ディレクトリ (ReaD) の学内窓口業務が、学術情報センターに移管となったため、本学教員の ReaD へのデータ登録の問い合わせに応じた。また教員評価システムに入力されている論文発表データの ReaD への転送を実施した。(学術情報センター)
②国際誌への投稿を推進する。	②国際誌への投稿推進策を策定する。	未実施 <ul style="list-style-type: none"> 研究および診療活動、また学会発表や論文執筆に必要な電子ジャーナル、各種データベースの利用環境を整備し、使用法の案内、問い合わせなどに応じた。 投稿時に必要となる情報検索や投稿規程などの問い合わせに対応した。 論文執筆時の図表作成、画像処理の技術的支援を実施した。 医学論文書きかた講習会を開催し、より有効な英語論文執筆の方法を紹介した。(学術情報センター)
③Jikeikai Medical Journal の充実を図る。	③MEDLINE 掲載を目標に Jikeikai Medical Journal の掲載論文の質と量の充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> MEDLINE 掲載要件やインパクトファクター取得に関する条件を調査し、Jikeikai Medical Journal 編集委員会においてその方策(掲載論文の質の充実)について検討を重ねた。 掲載論文の増加を図るために学内からの投稿の呼びかけを行なった。 利益相反に関する動向を調査し、Jikeikai Medical Journal での対応を策定した。 Jikeikai Medical Journal への迅速なアクセス性をはかるため、学術情報センターのホームページに早期公開版(プリント版発行前のネットワーク公開)を開始した。(学術情報センター)

中期計画	平成21年度事業計画	平成21年度実施結果
<p>(2) 研究実施体制等の整備に関する目標</p> <p>①臨床研究支援体制を構築する。</p> <p>②先端研究を促進する体制を作る。</p> <p>③トランスレーショナル研究推進体制を作り振興する。</p> <p>④寄付講座を振興する。</p>	<p>①-1 疫学研究と臨床研究を更に振興させるための組織を整備する。</p> <p>①-2 共同利用研究施設を整備する。</p> <p>②アンケート結果を参考に大型研究費申請の準備をする。</p> <p>③現在進行中のトランスレーショナル研究を推進する。大型研究費の採択に向けて研究組織や研究内容の充実を図る。</p> <p>④新たな寄付講座の開設に向けて取り組む。</p>	<p>○本学の特色ある研究の推進、臨床研究の活性化のため、センター運営委員会では、組織改編の審議を重ね、平成21年4月1日より臨床研究開発室を発展的に解消して、新たに「分子疫学研究室」並びに「臨床疫学研究室」を設置した。両研究室は、臨床疫学、分子疫学と云う特徴を活かし、総合医科学研究センターの他の研究部門や多くの臨床講座と密接に連携し学内全体の発展に寄与している。(総合医科学研究センター) 学内の疫学、臨床研究をさらに活性化し、発展させるために設置された臨床疫学研究室・分子疫学研究室は、それぞれの特徴を活かし、研究の支援と教育活動を行った。(臨床疫学研究室)</p> <p>○総合医科学研究センター・研究支援部門「共用研究施設」を平成21年4月に新設した。共用研究施設は付属する微細形態研究室、生化学研究室、共用研究室の3つの研究室が6月より本稼働し、学内の登録研究者が自由に研究を行える環境となった。また、電子顕微鏡や質量分析機などを用いた精密な観察や測定が学内研究支援制度として可能となった。(総合医科学研究センター)</p> <p>臨床疫学研究室によって、文部科学省医療人GPで採択され開発された教育プログラム「プライマリ・ケア現場の臨床研究者の育成」が実施され、さらに来年度に向けての準備がなされた。(臨床疫学研究室)</p> <p>○大型プロジェクト対策委員会は、公募のあった「武田科学振興財団2009年および2010年特定研究助成金」、「教育研究高度化のための支援体制整備事業」、「最先端研究開発支援プログラム」、「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」など大型研究費事業の申請において、先端医療研究推進委員会と連携し、学内公募後研究代表者によるプレゼンテーションを実施し、審査を行い各事業への申請を行った。</p> <p>○iPS細胞作成技術を用いた研究が開始された。遺伝病iPS細胞によるembryonic bodyの作製。悪性腫瘍可塑性研究へのiPS技術の応用。</p> <p>○先端医療研究推進委員会は、学長より諮問された本学における再生医療研究のあり方について、学内の再生医療研究の現状等を踏まえて、センター内に専門部署の設置、専門家の配置を答申した。</p> <p>○平成21年度先端医療開発特区(スーパー特区)に採択された本学の事業について本学の大きなトランスレーショナル研究であるが学外との連携を高めて実用化を目指している。また、実験動物研究施設に小動物用デジタルMR装置の設置およびスーパー特区共同利用実験施設を整備した。</p> <p>○遺伝病(ライソゾーム病)研究講座は運営その他も順調に推移し、平成21年度をもって終了となる予定であったが、更新されることが決定した(平成22年度から24年度までの3年間)。</p>

中 期 計 画	平成21年度事業計画	平成 21 年 度 実 施 結 果
<p>(3) 総合医科学研究センターに関する目標</p> <p>①大学の自己点検・評価を推進し外部評価を受ける。</p> <p>②研究成果を積極的に開示する。</p> <p>③各研究所・研究室の特色ある研究を推進し、情報公開に努める。</p>	<p>①自己点検評価を実施し、評価結果を公開する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 研究支援体制を充実させるため、センターの組織を改編する。 <p>②研究所の合同研究発表会の開催を検討する。</p> <p>③ホームページの学術研究欄を学術リポジトリページとのリンクを考慮して整備する。</p>	<p>○大学基準協会の審査にあたり、自己点検評価を行い公開した。自己点検・評価に関して東京慈恵会医科大学教育研究年報の中に各部署ごとに自己点検・評価の項目を記載して広報を行った。</p> <p>○本学の特色ある研究の推進、臨床研究の活性化のため、センター組織改編の審議を重ね、平成21年4月1日より以下の新体制を整備した。</p> <p>①DDS 研究所が平成21年3月31日に閉鎖し、同研究室を主として臨床講座の研究推進のため運用する。</p> <p>②センター研究支援部門に「共用研究施設」を新設する。</p> <p>③臨床研究開発室を発展的に解消して、新たに「分子疫学研究室」並びに「臨床疫学研究室」を設置する。</p> <p>今回のセンター組織の改編により総合医科学研究センターの活性化につながった。旧 DDS 研究所は「共用研究施設」として活用され、センター内だけでなく多くの臨床・基礎講座からも利用されている。</p> <p>○前年度に引き続き「DNA 医学研究所・臨床医学研究所合同研究発表会」を平成22年3月2日（火）に開催した。また、学外から講演者を招いて「医学の基礎を語り合う集い」を開催しているが、本年度は多くの参加者があり、討議を介して本学の研究成果広報に役だてた。</p> <p>○DNA 医学研究所のホームページは管理体制をリニューアルし随時アップデートできる体制に切り替えた。共用研究施設はじめ総合医科学研究センターの各研究支援部門のホームページも情報公開に役だっている</p>
<p>(4) その他</p> <p>①知的財産を社会に還元するために市民公開講座を積極的に開催する。</p>	<p>①補助金を活用して市民公開講座を継続して積極的に開催する。</p>	<p>大学、附属病院、青戸病院、第三病院、柏病院の5つの柱で予定以上となる大学主催公開講座を20回開催した。受講者数は合計で1,842名になり、好評を得た。その他に診療科や講座等の主催での公開講座を8回開催し、合計28回実施した。</p>
<p>3. 附属病院（4病院）に関する目標</p> <p>(1) 医療安全の推進</p> <p>①医療安全管理体制の点検・評価を実施する。</p> <p>②迅速対応体制を確立する。</p>	<p>①システム工学の視点で医療安全管理体制を点検し、改善策を立案・実践する。</p> <ul style="list-style-type: none"> フロアリスクマネージャーが担当部門の評価・点検とスタッフ教育を行える体制を構築する。 <p>②医療問題への迅速対応体制の認知度を高める。</p>	<p>①10月17日に開催された病院管理学会学術総会ではプロセスの構造的可視化を通じた点滴業務の改善への取り組みを発表した。また、11月21日に開催された医療の質・安全学会では不具合事例分析手法の検討（RCA、プロセスフローチャート）を発表した。次の課題として、内服投与忘れについての取り組みを始めた。</p> <p>②院内ではフロアリスクマネージャーが「医療安全ラウンド自己評価表」による現場の点検と相互ラウンドを実施している。また、多職種のフロアリスクマネージャーによるRCA分析チームを編成し、事例分析と対策立案を実施し、3ヶ月後にフロアリスク会議で改善状況について報告している。</p> <p>オカレンス報告システムの項目を見直し、インシデント・アクシデントに関わらず迅速な報告が行える体制を整備したことにより、全体の報告件数に占める医師からの報告が5%から9%に増加した。</p>

中 期 計 画	平成21年度事業計画	平成 21 年 度 実 施 結 果
③私立医科大学病院間の相互ラウンドを実施する。	③私立医科大学病院間の相互ラウンド制度を更に推進する。	①都内11私立医科大学附属病院間で定期的な会合を設け、全国の私立医大病院相互ラウンドの基準となるチェックリストを作成した。今年度は、新たに医療機能評価 Ver 6 の「患者の安全確保」の視点と「院内暴力」もラウンド点検項目に加え更なる充実を図っている。 ②日々の医療安全活動において、都内私立医科大学のネットワークを活用した情報交換を実施している。 ③私立医大医療安全連絡会議では、メディエーター研修や外部企業の安全啓発センター見学など医療安全に関する多角的知識を深めるために活動を広げている。
(2) 先進医療の推進 ①医療の質と技術向上のための取り組みを推進する。	①低侵襲手術を始めとした先進医療トレーニングシステムを周知させ振興する。	教育センターによるシミュレーションセンターの開設に協力し、研修医、レジデント、若手医師に利用を促進している。
(3) 患者サービス・病診連携の推進 ①医療連携を進める具体的な体制整備を行う。 (医師・看護師・SW 等が協働できる体制) ②患者の受診をサポートする。 (紹介診療予約、医療案内など) ③退院・転院・在宅医療などの支援業務を一体化する。	①BSC を用いて患者支援・医療連携センター等の協働体制を整備する。 ②患者をサポートするボランティアの受入れを積極的に行う。 ③退院・転院・在宅医療支援組織を設置し患者支援を推進する。	定期的に当センターの BSC を 3 部門の代表者で評価、修正してきた。また、ミーティング等を通じ、目標を一致させ、課題を明確にしながら質の向上に努めている。後方支援病院の確保については、近隣医療機関への戸別訪問や関東近県へのアンケート調査等を行い、強化連携に努め、後方病院リストを更新した。一方、平成21年度より、区中央部糖尿病医療連携検討会の事務局（3/9 準備会開催）を患者支援・医療連携センターが担当することになり（病院運営会議で決定）その整備体制が急務である。（患者支援・医療連携センター） 脳卒中パスはリハビリテーション科と連携、東京都認定がん診療連携病院としての患者相談窓口機能の充実についてはがん治療連絡会議や関係部署間と連携しながら、患者支援・医療連携センターの機能拡充を図った。（管理課） 今年度新たにボランティア事務局が設置されたことで、ボランティアの募集や調整が円滑になった。新規採用は53名で、外来案内も 4 月当初 2 名から現在32名に増え、ボランティアによる患者支援も充実してきた。活動者総数は89名で、昨年度末の約 2 倍になった。 3 部門の一室化により効率良く連携を図るよう進めてきた。今後は、医療の変化と共に患者支援・医療連携センターのあり方について更に調査・検討を経た上で、改善、改革が必要である。
(4) 効率的な医療の推進 ①DPC に対応したクリニカルパスを普及し、治療の標準化、医療の安全と効率化を図る。	①-1 青戸病院、第三病院、柏病院の DPC の検証と分析を行い増収につなげる。	DPC 導入に伴う治療の標準化推進により、医療の安全と効率化を図り、DPC 収入増に対応したクリニカルパスの作成を推進させ、クリニカルパス実施件数が増加した。下半期については、病床の利用率向上に対応できる柔軟で効率的なクリニカルパスの日数についても検証と作成を開始した。（第三） 診断群分類ごとあるいは症例ごとの出来高比較を中心に分析を行い、改善と増収に結び付けた。また、経済性を勘案した最適なクリパスへの見直しと、クリパス帳票システム（クリパスくん）を構築し随時稼働させている。（青戸） 8 月に診療科ごとに、コンサルタント会社（株サイプレス）より分析ソフト「girasol」を利用した DPC 導入後における DPC 請求と出来高請求における増減収症例を中心とした分析説明会を実施した。減収症例に対しては、入院日数の増減や主病名・副傷病名の付与方法により収入増に繋がる等の改善策を検討し、実行した。（柏）

中 期 計 画	平成21年度事業計画	平成 21 年 度 実 施 結 果
<p>②医師、看護師、コメディカル、事務職の効率的な業務分担の推進を図る。</p> <p>③ 4 病院共通操作性オーダーリングシステムの導入を検討する。</p>	<p>①- 2 DPC に対応したクリニカルパスの導入を推進する。</p> <p>①- 3 後発薬品導入を推進する。</p> <p>①- 4 外来疾病別原価分析を実施する。</p> <p>②関係部署間で協力して担当業務、業務分担を見直す。</p> <p>③ 4 病院のオーダーリングシステム導入計画を策定する。</p>	<p>新規のクリニカルパスは、増加している。特に、東京都認定がん診療病院の認可をうけ、肺がんのクリパスを導入するなどの取組みを行った。</p> <p>薬事委員会、診療部会議にて後発薬品切替が報告され、院内周知を図りながら段階的に後発薬品に切替を行っている。</p> <p>外来患者ごとの原価分析を作成中であるが、疾病別原価分析までに至っていない。</p> <p>また、同時に市販の分析ツールの評価をし、導入を検討している。</p> <p>平成22年度より、当課主管による医療従事者勤務適正化委員会が立ち上げられることになり、具体的な検討が開始される。 (医師人事) 4 機関ソーシャルワーカーの労務管理を本院から各機関の管理課に変更した。(人事)</p> <p>青戸病院へのシステム導入ベンダが決定され、開発工程や実運用の中で評価する段階となるため、継続的に注視した上で検討する。</p>
<p>(5) 予防医学の推進</p> <p>①総合健診・予防医学センターと各病院との連携を強化する。</p> <p>②スポーツ・ウェルネスクリニックとスポーツ医学研究を見直す。</p>	<p>①総合健診・予防医学センターと各病院との情報を共有し、円滑に診療へ移行させる。</p> <p>②- 1 一般人を対象とした運動療法・栄養指導を継続実施し拡大させる。</p> <p>②- 2 体力医学研究を推進し学会発表等を行い研究の活性化を図る。</p>	<p>オーダーリングについては関連部署と継続検討しているが FAX 予約を利用して診療に繋げている</p> <p>運動療法に関しては計画どおりだが、栄養指導は未だ充実していない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山内秀樹, 安保雅博. 骨格筋への温熱刺激による Akt の活性化と損傷後の再生促進効果. 第46回日本リハビリテーション医学会. 静岡. (平成21年 6 月) ・山内秀樹, 安保雅博. 高齢期の非荷重による骨格筋 Akt 活性の低下と抵抗運動の介入効果. 第46回日本リハビリテーション医学会. 静岡. (平成21年 6 月) ・山内秀樹, 安保雅博. 非荷重によるラット骨格筋線維の変性と抵抗運動の介入効果. 第17回日本運動生理学会. 東京. (平成21年 7 月) ・山内秀樹, 安保雅博. 尾部懸垂によるヒラメ筋の萎縮と myostatin の発現増大に対する抵抗運動の抑制と加齢の影響. 第64回日本体力医学会. 新潟. (平成21年 9 月) <p>上記の学会発表を行った。</p>
<p>●附属病院（本院）に関する目標</p> <p>①特定機能病院としての機能を充実させる。</p>	<p>①特定機能病院としての機能を充実させるため、各診療科へ病院としての支援策強化や実施申請方法の簡素化を行う。</p>	<p>特定機能病院としての機能充実のため、本年度は高度医療技術の推進および医療安全の向上を中心に実施した。</p> <p>①毎月の診療部会議にて、各診療科において実施している臨床研究で特に先進性の高いものを新規申請するよう促した。また、本邦で認められている高度医療・先進医療の全リストを各診療科に配布し、当院での実施状況を確認、さらに新規申請手続きが非常に煩雑であるため、管理課事務員が医師のサポートを行ったことにより、下記の通り新規申請、承認件数が増加した。</p> <p>※平成21年度の高度および先進医療技術⇒合計 6 件（平成22年 3 月 1 日現在）</p> <p>②症例確保においては、経費の一部を病院が負担している。</p> <p>③医療の安全性について、毎年実施される関東信越厚生局による立入検査においての指摘事項を迅速に改善した。</p> <p>④その他、施設基準の届出事項（患者紹介率等）は毎月確認した。専門医・指導医の人数も充足している。</p>

中 期 計 画	平成21年度事業計画	平成 21 年 度 実 施 結 果
②東京都認定がん診療病院としての機能を充実させる。	②院内がん登録の促進、がん相談支援の院内体制整備。 がん薬物療法の体制整備の充実を図るため、レジメン登録を推進する。	管理課として、『東京都認定がん診療病院』指定に伴い、同機能強化事業として交付される補助金の獲得に向け、①がん登録の推進、②がん患者相談支援体制の拡充など強化すべき事項を洗い出し「がん治療運営連絡会議」や関係部署間で検討を行った。今後は、「東京都認定がん診療病院」としての役目を果たし、「がん診療連絡拠点病院」の認定を受けるべく院内整備を行っていく。11,000,000円（平成21年度補助金実績）（管理課）当センターが中心となり、3/26に院内がん相談窓口の運営に関する会議を開催し、体制整備に務めた。今後も更に機能充実が必要であることは明らかであり、当センターのあり方について抜本的に検討する必要がある。（患者支援） レジメン審査委員会にて、院内で使用しているレジメンの申請受付、審議、承認、登録が 610レジメンについて完了した。（薬剤部）
③人材育成（スキルアップ）を行う。	③関係部署と協力し、各科のキャリアパスの作成を推進する。 ・キャリアパスが既にある部門のキャリアパスの取り纏めを行う。	大卒事務職のキャリアパスを作成中。（人事課） 教員・医師のキャリアパスは多様であり、特定のパスを設定には至っていない。（医師人事）
④院内研修制度の充実を図る。	④「家庭医・再研修コース」を開設し、4病院学内公募を開始する。	総合診療部での受け入れ制度は整備済みであるが、制度利用者は今のところなし。
①鏡視下手術トレーニングコースの充実を図る。	①STEP 1 及び MCQ に関する e-learning システムの導入と STEP 2 の継続的な開催について検討する。	平成21年度も STEP 1 の試験は円滑に実施された。平成22年度からは本院で STEP 2 が暫定実施されることを確認した。
①医療安全に関する組織横断的な活動を推進する。	①医療安全に関する組織横断的な活動として研修医・レジデント・新規採用医師への医療安全教育を実施する。	医療安全体制の理解と教育のために、推進週間を活用し研修医へ医療問題事例の報告を依頼した。研修医からの報告は、前年度比で約2倍に増加した。 新規採用医師に対しては、医療安全推進室に入室させ、直接医療安全に関する教育を行う体制を整備した。今年度の医療安全研修の未参加者はゼロとなった。 次年度に向け、研修センターと連携し、研修医に対する教育研修の具体的な構築を図る事ができた。
①インフォームド・コンセントを徹底する。	①インフォームド・コンセントの実施状況の調査を行い問題点の抽出を図り改善策を検討する。	患者からの苦情や意見があった場合、現場でのインフォームド・コンセントが確実に行われていたか状況を確認する。徹底されていない場合は直接注意し、警鐘事例はリスク会議や診療部会議にて報告している。
①患者支援・医療連携センターの機能充実を図る。	①患者支援医療連携センターの機能を再整備するため BSC を着実に実行する。	センター内で BSC の手法を基に種々の問題点の検討、解決に努めている。情報の共有、方向が明確になっている。
①臨床試験の支援体制を充実させる。	①臨床研究コーディネーターのレベル向上と治験の推進を図る。 ・臨床疫学研究室（新設）や分子疫学研究室と連携し、臨床研究を推進する。	①センター内の勉強会及び外部の研修会等を通して各臨床研究コーディネーター（CRC）のレベルアップを図った。②実施率について、担当医師及び CRC は努力したが、エントリー基準が厳しい治験が多くなっており、昨年度より約3パーセントポイントが低下した。③臨床研究について、4件の研究に CRC が係わっており、依頼の診療科からの評価は良好である。④治験システムについて、治験依頼者への教育指導が円滑に行われており、順調に稼働している。⑤患者向け「おしえて！治験のはなし」について、第4作目をプラズマディスプレイによる放映を行っている。⑥治験・臨床試験 e-learning について、利用する流れはまとまった。内容の充実と利用者の拡大についてメーカーと検討している状況である。 ・複数の臨床試験を行っている。 ・Nature を含む 8 つの英語論文を専門誌に発表した。

中 期 計 画	平成21年度事業計画	平成 21 年 度 実 施 結 果
①オーダーリングシステム導入による効率的な運用を図る。 ②効率的な診療体制の構築を図る。 ③手術室の効率運用を図る。 ④救急患者受入れの体制整備を行う。	①オーダーリングシステム第2期を導入し、効率的な二次利用を行う。 ②-1 ICUの増床により診療の効率化を図る。 ②-2 外来点滴室の有効活用を図る。 ③-1 手術室の利用枠管理を徹底する。 ③-2 中央材料室業務の効率化に向けて継続的に改善を図る。 ・病棟器材の回収・搬送を増加させる。・1次洗浄の中央化を病棟部門へ拡大。 ④救急患者受入れ増加のため体制を整備する。 ・臨床管理能力の向上 ・コアカリキュラムの改善 ・地域救急隊との勉強会実施 ・ICUとの有機的な連携	処置オーダ、レジメンオーダの導入には至らなかった。(業務課) レジメンオーダでは、注射薬アンブルピッカーシステムが更新されたため、運用調整が遅延しているが、当システムが安定稼動しつつある中で、検討が再開された。(システム課) ICU 運営内規を策定し、増床目的(手術後症例の確実な収容、救急ストップ時間の解消、一般病棟安全運用へのサービス)を実行している。 実施総数は本年度初めの月200件前後から後半は250~300件と増加し、利用率も80%を超える運用となった。患者からの評判もよい。また5月からは外来全科のインフルエンザトリアージ機能も果たし利用効率が更に上がった。 手術枠管理は順調で、枠利用は最大限に近づいた。 ほぼ計画を遂行し、9部署の病棟で1次洗浄業務を中央材料室へ移行し、搬送日を増加させた。追加業務として滅菌保証精度の向上に取り組み、結果質の高い滅菌器材の提供ができた。 1. 救急外来・救急病棟(1A)の役割が明確化された。 2. 未着手 3. 定期的に行っている。 4. 7月から具体的交流が始まる。
①月次医療収支額を把握する。 ②DPCデータの他大学とのベンチマークを実施する。 ③医療材料のSPD業務の再編を行う。	①月次医療収支額に基づくコスト管理の強化、収益性の向上を検討する。 ②5大学ベンチマークプロジェクトを継続的に推進する。 ③大学全体の物流全般に関する将来計画を策定する。 ・医療材料、医療消耗品の使用状況を適宜把握できるシステムを策定する。	4病院長・事務・看護部長会議や病院運営会議等にて検討し、効率の良い収支管理を行った。 昨年度に引続きデータ交換および実務者定例会議を実施している。また東京女子医科大学も新規参加し6大学でプロジェクトを遂行している。 4病院医療材料・物流検討WGを医療材料委員会の下部組織として設置し、医療材料・消耗品の使用把握と適正化について検討している。また、柏病院の手術室を中心とした物流の改善を開始した。(企画部)
①施設基準等の定期点検を行う。 ②慣例的に行っている業務手順を法令遵守の視点で見直す。	①施設基準に照らして検証し、未実施のものを明確にし、実施実現に向けて検討を行う。 ②病院機能評価を受審する。 ・病院機能評価受審に向け、標準作業書の整理を行う。	診療報酬改定の都度、施設基準の確認を実施している。今年度はICU病棟増床に伴う届けを実施した。また、平成22年度診療報酬改定に伴う施設基準の届出を滞りなく実施した。 4月より委員会を12回、全教職員を対象とした全体説明会を3回実施した。病棟、外来など度重なる模擬訪問審査を実施し、審査当日(1月20日~23日)を迎え滞りなく終了し、認定を受けた。
①学内個人情報管理規定を遵守する。	①定期的な研修会や講演会を実施し、個人情報管理を徹底する。	外部講師を招聘し、個人情報保護合同委員会主催による研修会を7/9に実施した。本研修は、テレビ会議システムを利用した初の全機関合同研修である。なお、平成22年度についても、外部講師を招聘して全機関合同研修会を予定している。(総務課) 個人情報保護委員会を開催し、規程の改定、USBメモリー等による患者情報漏洩の防止策等を検討した。今後、病院での勤務者だけでなく、医学生並びに看護学生等の学生に対して、個人情報保護に関する教育が必要である。(管理課)

中 期 計 画	平成21年度事業計画	平成 21 年 度 実 施 結 果
②電子媒体による情報管理を徹底する。	②電子媒体の管理により情報を把握し、紙媒体の情報離散を減少させる。	上記研修会により管理面等を含めた啓蒙を図ると同時に、総務課にてオリジナルのチェックシートを作成し、全機関の職員へ所属長を通じて配布し、自己点検を行なっていただき、問題点の把握に努めた。なお、今後も研修会等により管理面等を含めた啓蒙を図りたい。
①診療情報を評価するシステムを構築する。	①関係部署と共同し、診療情報評価システムを構築するため情報収集を行う。	同システムに関する検討は実施できていない。(管理課) 診療情報の評価、開示については、「見える化TF」で検討中である。(企画部)
①働きやすい環境整備等を行う。 ②女性教職員・女性医師の復職を支援する。	①職場環境の整備を検討し、具体的な改善を実施する。 ②病児保育の導入・院内保育を検討する。21年度は「病児預かり」を開始する。 ・短時間勤務の活用を推進する。	各部署からの要望の申し出を基に、病院運営会議等で検討し病院全体の環境整備に努力した。また、病院機能評価受審に当たり、病院全体のアメニティー向上を図れたことは大いに成果であった。(管理課) 医師のための女性用ロッカー室を設置し、利用内規を定め運用を開始した。女性医師からは好評を得ており、利用者は約60名で、現在も順調に運用されている。(教員医師) ・厚生業務は給与課担当。ボランティアのロッカー室を改善した。また、委託業者の休憩室利用を可能とした。 ・産業医と連携しメンタルヘルス不調者の対応を強化した。(人事課) 登録者40名のうち延べ利用者数(重複者あり)は43名、月利用日数は1日～10日とまばらではあるが(平均5.5日)、登録方法や利用方法も周知し育休からの復帰時に必ず登録を行う職員や女性医師が増加した。現在は看護部小児科外来スタッフで運用中である。短時間勤務者は平成21年度40名からスタートし、年度末までに8名の復帰を得て48名に達した。産休・育休後の復帰は保育施設の決定と関連しており育休延長6ヶ月を最大限利用するスタッフも多くなっており、支援を続けている。(看護部) 女性医師(臨床系)・看護師を対象に8月1日より旧在宅療養指導室跡に「ひまわりルーム(病児預かり室)」を開設した。預かり時間平日午前8時～午後5時30分(初回のみ9時・日祭日等病院休診日は閉室)、1日の受入を2名とし、運用を開始したが、順調に登録者・利用者も増加している。今後は利用対象者を拡大することを視野に入れ検討をしていく必要がある。(管理課) 医師のための短時間勤務制度は順調に運用され、約10名が利用しており、離職防止に大きく寄与している。また、育児支援WGを中心として、本制度の見直しや新たな女性医師の支援策について検討を継続している。平成22年度には、本学卒の女性医師を対象としたアンケート調査を実施すべく準備を進めている。(教員医師) ・平成22年4月1日付けより再就職規程の改定を行なった。再就職希望者の登録制度の新設と、再就職時の処遇に配慮することで、復職を支援する仕組みを充実させた。 ・人事部門のイントラネットのワークライフバランスのページ及び育児休職関連等の帳票を改定した。 ・産休育休の説明会の際に短時間勤務措置等の案内を実施した。(人事課)
③職種間の業務分担を見直す。	③職種ごとに担当する業務内容を見直し、業務分担と連携を再構築する。	人事課の厚生業務を給与課へ業務移管した。理事会業務を総務課から秘書課へ業務移管した。また、4機関ソーシャルワーカーの労務管理を本院から各機関管理課に変更した。
●青戸病院に関する目標		
①開かれた組織体制を構築する。	①青戸病院 BSC の見直しと各部門への BSC の落としこみを行う。	・平成21年度版 BSC に基づき各部門へのブレイクダウンを指示しているところ、複数の部署で完了した。

中 期 計 画	平成21年度事業計画	平成 21 年 度 実 施 結 果
<p>②迅速な意思決定が出来るように組織を強化する。</p> <p>③各運営委員会を活性化し、病院長の諮問機関としての役割を強化する。</p>	<p>②病院組織を再整備し、統治権限を明確にする。</p> <p>③運営委員会を活性化するため、役割を見直し再編成する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・運営会議の情報の集中と権限強化を図った。 ・運営委員会の統廃合、委員長の交替、開催日時の変更を実施した。
<p>①十分な内部留保ができるよう経営の安定化を図る。</p> <p>②発生主義に基づく予算管理、収益性分析、生産性分析による経営課題を解決できるシステムを構築する。</p>	<p>①-1 材料費、一般経費の管理を強化する。</p> <p>①-2 医師定数の見直しに着手する。</p> <p>②-1 収益性分析を実施して対応策を講じる。</p> <p>②-2 生産性分析を実施して対応策を講じる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・月次経費予算の執行状況を把握し材料費等の超過項目について検証を行った。管理経費は、院外寮の契約戸数を大幅に縮小し経費節減を行った。 ・眼科の定数1名増員 ・診療科目毎の診療指標に基づき参考資料を作成した。 ・予算執行状況と期末の見直しについて、経常収支の分析を行った。 ・生産性分析により、付加価値を測定し他機関とのベンチマークを行った。
<p>①附属4病院連携、地区医師会、連携医療施設、行政とのネットワーク整備をする。</p> <p>②学内連携を図ることによって、診療、教育体制を強化するとともに、教育研修制度を整備する。</p> <p>③東京都看護職員復職支援研修施設として対象者を受け入れる。</p>	<p>①-1 登録医制度を推進する。</p> <p>①-2 病病連携ネットワークを構築する。</p> <p>②メディカルカンファレンスを一層充実（継続）させる。</p> <p>③看護師再教育制度の内容を充実させ地域へ貢献する。</p>	<p>登録医制度のプロモーションを通して登録医の拡大を図った。平成21年12月現在38名</p> <p>葛飾区、足立区の友好的6病院と病々連携ネットワークを構築し覚書を締結した。</p> <p>対象を医師だけでなく訪問看護ステーションの看護師などに広げ開催した。（テーマ：神経難病と訪問看護）</p> <p>3クール終了。</p>
<p>①総合内科・救急医療の協働体制を確立し、患者受入体制を強化する。</p> <p>②手術室の物流を改善し効率運用を図ることによって手術数を増加させる。</p> <p>③医療の効率化、透明化、標準化を図る。</p> <p>④患者フローの視点で、入院から退院・転院まで一貫したコーディネートを行う。</p> <p>⑤ICU・CCUを設置する。</p>	<p>①総合内科病棟を設置する。</p> <p>②オペラマスターによる手術材料管理を徹底する。手術室運用の効率化を図る。</p> <p>③DPCに併せクリバスの導入拡大を図る。</p> <p>④病床管理システムを導入し、PFMを推進する。</p> <p>⑤22年度準ICUの設置に向けて構造設備・運用案を整備する。</p>	<p>3B・4B病棟に総合内科病棟を集約した。</p> <p>1手術材料在庫の圧縮、2キット化による業務の効率化、3看護師の本来外業務の見直しを行い手術件数3900件超を達成した。</p> <p>DPC対策委員会とクリニカルバス実践委員会を統合し、DPCに最適なバスの導入とシステムを構築した。</p> <p>ベッドコントロールの看護部への全面移管が完了した。空床管理の共有化と効率化を目的に病床管理システムを導入した。</p> <p>HCU設置準備WGを設置し、平成22年度設置を目的に検討中。</p>
<p>①大学病院、地域中核病院として患者志向の機能的な病院を建築する。（平成23年竣工を目指す。）</p>	<p>①-1 リニューアルTF_フェイズIVの検討推進と新病院建築準備室の強化を図る。</p> <p>①-2 実施設計を完了して、建築着工する。</p> <p>①-3 情報システム要求仕様書を作成する。</p> <p>①-4 行政折衝、住民対応を遅滞なく行い建築工事を着工する。</p>	<p>各WGと部門別検討体制が連携し実施設計を完結。検討体制の原動力である病院準備室は、責任者の交替とIT担当を加え新体制とした。</p> <p>実施設計は概ね完了。昨年12月の準備工事を経て本年2月本工事を開始した。</p> <p>システム要求仕様書完了。当該仕様書に基づく提案見積書、プレゼンテーションの総合評価において、開発会社の選定を完了した。</p> <p>地区計画変更、総合設計許可、近隣土地対応等懸案事項をクリア。近隣住民説明会4回開催し合意形成。</p>

中 期 計 画	平成21年度事業計画	平成 21 年 度 実 施 結 果
●第三病院に関する目標		
①診療に関する情報を公開する。	①-1 診療科研究業績、診療成績を開示する。	各診療科の診療に関する情報を「平成21年度診療実績及び治療成績」として院内に掲示した。開示内容として①外来患者数②入院患者数③平均在院日数④主たる疾患名⑤取扱い件数⑥特に力を入れている対象疾患と治療成績等を掲示した。外科系は更に総手術件数と代表的疾患手術件数を追加した。開示に際しては、当初は全診療部を対象としたが、実際に開示公開に至った診療科は10診療部であった。
②地域住民や行政への医療啓蒙行事を更に充実させる。	①-2 第三病院 BSC の改定と各部門 BSC を作成する。	平成21年度は平成18年度に策定した病院 BSC と平成19年度に策定した部門別 BSC をより理解しやすい内容に改訂することを目的に作業を開始した。病院 BSC については本年度10月に改訂作業が完了し、部門別 BSC については毎月2部門ずつ作業を開始し、今年度中に職員部門の9部署の BSC 作成作業が完了した。
③患者に対する対応を見直し改善を図り、積極的に患者を受入れる。	②各種イベント、市民公開講座等を調布市と連携するなどして積極的に開催する。	平成21年度は調布市・狛江市との市民大学講座にて前年と同様に調布3回、狛江2回の当院医師によるセミナーを開催した。また当院主催の公開健康セミナーにおいては回数を前年度3回から7回へと大幅に増加させ、各回の参加者数においても広報に力を入れ平均50名から150名へと大幅にアップさせた。その他、ホスピタルフェアについても各部署からの協力を募り、昨年よりイベントを増やし1200名の参加者を集め病院の良き PR が出来た。
③患者に対する対応を見直し改善を図り、積極的に患者を受入れる。	③救急、(中央)診療部門の患者対応の改善を図る。	昨年度は登録医に平日夜間帯に内科・外科・脳神経外科・小児科の当直医に PHS でのホットラインで直接話せる体制を構築した。
①医療材料コストを見直す。	①患者単位の手術材料コスト管理を実施する。	日本メディカルプロダクツ(株)「OC-system」を導入し、手術原価管理システム運用を開始した。9月分よりデータ化を開始した。システムバージョンアップをスケジュールに従って実施し、平成22年度4月正式データ化予定。
①診療部を評価する。	①学術・診療・運営に関する院内評価を行う。	1. 年1回(7月;予定では2月にも実施予定であったが診療部長交代予定のため延期)院長・診療部長面接を行い診療活動状況を数字で評価している。また、2ヶ月毎に各診療科診療実績(13項目)レーダーチャートを配布している。 2. 「教職員の研究活動のご紹介」を掲示した。 3. 第三診療部として「診療活動」「院内外連携」「病院機能への尽力」「学術活動」など年間で努力また成果があったと総合的に評価される診療科をベスト診療科として表彰した。平成20年度は総合診療部に決定。
①森田療法センターを本学の特色ある医療として内外に強く再アピールする。	①森田療法センターと共に特色ある診療科を積極的に紹介する。	ホームページの充実、森田療法セミナーの開催など積極的な広報活動を行った。
①病診連携、病病連携のための強化を図る。	①-1 糖尿病地域連携バスを確立し、実践する。 ・病診・病病連携の強化策を講じる。 ①-2 診療科横断的な高齢者医療勉強会の開催、医師会・行政との高齢者医療に関する意見交換会を開催する。	糖尿病地域連携バスにおいては、東京都二次医療圏において複数年計画で検討しているが、今年度中の実現に向けて調整中である。病診連携については地域医師会との意見交換会を実現するなど新たな対策を講じている。 1. 多摩5大学(東京医大八王子医療センター・日本医大多摩永山病院・杏林大学病院・東海大学八王子病院・第三病院)の情報交換の実施。平成21年度は杏林・東海大学が新たに参加。 2. 調布医師会・狛江医師会、三鷹医師会・世田谷医師会との情報交換の実施。
①高齢者に対する対応策を検討する。	①療養病床のあり方の検討を進める。	今年度、病床数44床の削減により効率的なベッド運用を病院全体で取り組んでいる。第三病院の特徴として、他病院よりも高齢者の入院患者数が多く、療養病床のあり方については継続的に検討。

中期計画	平成21年度事業計画	平成21年度実施結果
<p>①施設改修による療養・職場環境改善を持続的に実践する。</p> <p>②入院患者向け行事を開催する。</p>	<p>①病室のトイレ転換について継続検討、2C病棟の改修工事について検討する。</p> <p>②各種「癒しの行事」を継続開催する。</p>	<p>今年度、病床数44床の削減により効率的なベッド運用を病院全体で取り組んでいる。第三病院の特徴として、他病院よりも高齢者の入院患者数が多く、療養病床のあり方については継続的に検討。病棟の和式トイレを全て洋式便座に改修した。</p> <p>平成21年度は入院患者への「癒しの企画シリーズ」として11回のイベントを実施した（前年度は7回）。さらに今年度からは毎年恒例のイベントに加えて外部からのボランティアを募り、高校の児童文化部によるハンドベルやハワイアンバンドなど新しい企画を実施し、非常に好評であった。</p>
<p>●柏病院に関する目標</p> <p>①包括化による減収を回避する。</p> <p>②DPC導入に合わせ医療の効率化、標準化による安全を確保する。</p>	<p>①DPC導入による検証後、クリバスの導入拡大等医療の効率化、標準化を図る。</p> <p>②DPCデータを用いて第三病院等とのベンチマーク分析を実施する。</p>	<p>クリニカルパス委員会を中心に、疾患別・手術別・病棟別にクリニカルパスの整備を進めた。安全性・効率性・経済性を網羅した全てのパスのオーダー化に向けて取り組み、外科・泌尿器科の手術症例で実施している。次年度には全てのクリニカルパスをオーダー化する予定である。</p> <p>12月にベンチマーク分析結果が提示された。柏病院と第三病院（カッコ内の数値）との全体の比較では、手術実施率52.4%（45.2%）、平均在院日数15.1日（14.8日）、症例単価は83.3万円（70.2万円）、1日単価は548百円（447百円）、出来高比+6.0%（+5.5%）減収症例率は16.9%（24.2%）と平均在院日数を除き良好な結果が出た。</p>
<p>①がん診療連携拠点病院として必要な施設を整備する。</p> <p>②がん診療連携拠点病院として必要な地域連携を整備する。</p>	<p>①外来化学療法室と病棟で行っている化学療法を外来部門に集中するための体制を整備して対応する科を拡大する。</p> <p>②医師会・千葉大学・地域の病院が共同しバス構築を行う循環型地域医療連携システムの構築に積極的に参加する。</p>	<p>呼吸器内科・泌尿器科で実施していた外来患者を外来化学療法室に集約した。産婦人科において従来の入院例を同室で外来通院治療に移行した。</p> <p>千葉県がん診療連携協議会地域連携クリティカルパス専門部会・作業部会で検討されていた5大がんバスが完成し、近く千葉県健康福祉部より東葛地域医師会への運用説明会が開催され、本格的な運用が開始される予定である。</p>
<p>①手術件数増加に伴う対応策を検討し、救急受入れの困難を回避する。</p>	<p>①-1手術室の増室、小手術室の拡張、ICU・CCUの拡張改修工事を引き続き実施する。</p> <p>①-2手術室の増室、ICUの増床に対応する物流（SPD）の改善を慈恵実業と協働で改善し、コスト削減や効率化を図る。</p>	<p>ICUの拡張工事（7床⇒14床）完了後、手術室の拡張改修工事を実施した。手術室については、新規に2室を増室し、小手術室1室を拡張する工事を施工し、平成21年7月末に工事を完了した。この改修工事により、手術室は従来の8室から10室に増室された。現時点での効果として、手術部の救急ストップ時間が半減し、緊急手術がスムーズに受けられる体制になった。</p> <p>オペラマスターキットは平成22年2月22日に50キット全ての切り替えが完了した。</p> <p>ピッキング業務の効率化を目的として、滅菌室や中央ホール、器材庫、外周廊下にある器材等を整理しスペースを確保した。</p>
<p>①地域（柏市）が求める外来、入院機能の拡充、高度化を検討する。</p>	<p>①-1将来構想検討委員会にてメディカルセンター化構想を検討する。</p>	<p>将来構想検討委員会において、「外傷センター」の構想、「地域がん診療連携拠点病院」及び「災害拠点病院」の充実化等が検討された。いずれも大型の予算化が必要であり、許認可が絡むものもある。東葛北部地域は血液疾患を扱う病院が少なく、適切な時期に造血幹細胞移植ができない。また、造血幹細胞移植後や化学療法後の骨髄抑制期には十分な感染対策を行う必要がある。当院は地域がん診療連携拠点病院及び日本臍帯血バンクネットワークの移植施設認定を受けており、東葛北部地域において常時入院患者は40名以上で最も症例数の多い中心的な施設であるが、無菌病床が2床しかなく、十分対応できない状況にある。そのため、平成22年度において、7C病棟に無菌床を11床とする計画をまとめ予算申請を行った。</p>

中 期 計 画	平成21年度事業計画	平成 21 年 度 実 施 結 果
	<p>①-2 PACS/RIS システムの稼働を開始し、運用の安定化を図る。</p> <p>①-3 将来構想検討委員会にて歯科外来設置の必要性を検討する。</p> <p>①-4 将来構想検討委員会にて患者アメニティ向上を検討する。</p>	<p>PACS システム運用検討小委員会（外来病棟委員会の下部組織）にて導入及び運用面の検討を行い、平成21年9月24日撮影分より、PACS/RIS システムが稼働した。</p> <p>平成21年度下半期の将来構想検討委員会にて必要性を検討したが、近隣歯科医師会との関係を考慮し歯科外来設置は行わないこととした。</p> <p>平成21年度は病棟部門の空調設備（ファンコイル・ユニット）の更新、7階個室のリニューアル改修、外来1・2階身障者用トイレの入口ドアを自動ドアに更新した。</p>
①導入によるメリット、デメリットを検討する。	①運用検討部会の中で電子カルテ導入について検討する。	電子カルテのニーズは高まっているものの、操作性や効率性においては未知数である。また、オーダシステムを含めてシステム範囲を明確化すべく今後もITあり方検討委員会等で検討を進めたい。
<p>II. 業務運営の改善及び効率化に関する目標</p> <p>1. 運営体制の改善に関する目標</p> <p>①理事会の構成、運営組織を見直す。</p> <p>②慈恵大学行動憲章・行動規範を徹底する。</p> <p>③補助金、業務等の内部監査の実施により、内部統制の強化を推進する。</p> <p>④個人情報保護の継続的注意を喚起する。</p> <p>⑤本学の情報（社会貢献、研究成果、医療貢献）を学内外に発信する。</p>	<p>①法人運営を効率的に進める組織体制の確立を推進する。</p> <p>②関係部署と協力し4月入職以外の新入職員と既就職者に対し、慈恵大学行動憲章・行動規範の周知プログラムを作成する。 ・教職員に対して、慈恵大学行動憲章・行動規範を周知する仕組みを作る。</p> <p>③補助金監査、業務監査を実施する。</p> <p>④外部講師による講演会を実施する。 ・意識向上に対する対策を講じる。</p> <p>⑤-1 大学、附属病院に関する情報収集と広報手続き運用方法の仕組みを確立する。</p> <p>⑤-2 「The JIKEI」「慈大新聞」を活用し同窓へ積極的に情報発信する。 ・大学の精神を頻回に発信する仕組みを作る。</p>	<p>法人事務局の機能を高めると共に各部署の役割を明確にし、業務の効率化、組織間の連携が図れる視点をもって事務業務分掌規程を改定中である。</p> <p>新人研修の他に中途採用者に対して、採用日に実施する各種説明の際に、「新入職員研修の手引き」や「マナーハンドブック」を利用して説明し周知している。</p> <p>今年度計画した以下の内部監査は予定通り実施し、理事長ならびに監事に報告した。</p> <p>①平成20年度分私立大学等経常費補助金 ②平成20年度分厚生労働科学研究費等補助金 ③平成20年度分文部科学省科学研究費補助金 ④平成20年度分 JST 委託研究費「戦略的創造研究推進事業（CREST）」 ⑤平成20年度分臨床研修費補助金〔附属病院・青戸病院〕 ⑥看護師等養成所運営費補助金申請書類記載方法の改善状況について ⑦薬品の在庫・出庫管理について ⑧事務業務分掌規程および業務手順書の改善状況について</p> <p>外部講師を招聘し、個人情報保護合同委員会主催により、テレビ会議システムを利用した研修会を7/9に実施した。なお、H22年度についても、個人情報保護に対する意識向上のためテレビ会議システムを利用した全機関合同研修を予定している。</p> <p>テレビ出演や雑誌掲載などの教職員の活躍について、オールユーザー・メールや情報掲示板を活用し学内に周知するシステムが確立された。この結果、課内での情報収集だけでなく、教職員からの情報提供も増加し、漏れのない情報収集が行えるようになってきている。</p> <p>同窓会との情報の共有、活用に努めている。慈大新聞に対し、臨床医学研究所の研究成果の Nature Nanotechnology 誌掲載に関する情報提供や、10月4日に開催された調布市・6大学相互友好協力協定締結記念事業の慈大新聞への寄稿を行った。また、広報誌、イントラネットを通じて「大学の精神」に関する情報発信を行っている。</p>

中 期 計 画	平成21年度事業計画	平成 21 年 度 実 施 結 果
<p>⑥有事の際の広報体制確立と情報統制を確立する。</p> <p>⑦事業計画の実施状況を確認する。</p> <p>⑧BSCを普及拡大し、目標と進捗を把握、評価する。</p>	<p>⑥マスクミ対応マニュアルを作成し、管理当直者、夜勤医師等に周知する。</p> <p>⑦BSC的な考えに基づく事業計画の実施プランを策定する。</p> <p>⑧BSC冊子の発刊、BSC10部門への拡大を実施する。</p>	<p>平成20年度末に休日・夜間マスクミ対応マニュアルを作成し、周知した。今年度は、現場主導でマスクミ対応が行えるよう、マニュアルおよびチェックリストを作成した。</p> <p>事業計画については、各部門で設定した目標値に対する実施結果を取り纏め、事業報告書に掲載することとした。</p> <p>平成21年9月に「経営の"見える化"ワーキンググループ活動報告を発刊し、各部門や同窓の医師、関連病院に配布した。また3月に活動報告会を実施した。</p>
<p>2. 人材活用に関する目標</p> <p>①職員の人材育成制度を強化する。</p> <p>②人事評価システムを充実させる。</p> <p>③業務の見直し、配置人員の見直し、業務効率化と人件費抑制を図る。</p> <p>④教職員の定着率を高める。</p>	<p>①新任管理職員研修プログラム2年目を実施し、検証する。</p> <p>②教員による個別入力を徹底する。 ・教員人事への活用を図る。</p> <p>③-1 IT、業務改善、アウトソーシングによる人員計画を策定する。</p> <p>③-2 人件費抑制対策を検討し、抑制策を策定する。 時間外手当抑制の具体策を策定し実行する。</p> <p>③-3 各部門の業務標準作業書を作成する。</p> <p>④教職員自己評価アンケートを実施する。</p>	<p>新任管理職員研修プログラム2年目対象者は3月にプレゼンの発表会を実施し、研修考課の検証を行なった。</p> <p>教員評価システムへの各部署での情報入力は完全に遂行された。平成22年度からは本システムの情報を教員の昇格判定に利用すべくシステム改修することを決定した。これにより、教員本人による個別入力件数の増加が見込まれる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外部環境変化への対応、人件費の流動化促進のために事務員、看護補助員、研究補助員については、計41名の期限付契約職員を採用した。このことにより非正規労働力の安定的確保に寄与した。 ・健診センターの事務業務を人材派遣から業務委託へ変更し、業務の安定化を図った。 ・碑文谷寮の備品を一部廃止し、利用者の好みで利用できるようにすると同時に長期的な経費削減や、備品にかかる業務を削減した。(人事) <p>アウトソースに関する人員計画については、第一段階として柏病院保守要員の見直しを平成20年12月より実施。質についての見直しを委託会社と調整し進めている。(システム課)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医師の業務軽減に関する検討の場として、平成22年度より医療従事者勤務適正化委員会を開催することを決定した。(医師人事) ・常用職員や派遣職員の後任を期限付契約職員で充当することにより、人件費縮減が期待できる。 ・時間外労働抑制のため、給与課と連携して、時間外労働の多い労働者の所属長宛に、時間外縮減の業務改善通知と改善報告書提出による時間外労働抑制を図った。 ・カルテ製本作業をシルバー人材センターに委託し、安価な労働力で賄った。(人事) ・4月の所属長会議において大学全体として時間外労働前年比10%減の目標が掲げられ、各部署に対し、時間外労働適正化報告書を提出させ、各部署における達成目標、具体的な削減策の実行を求めた。その結果、平成21年度は大学全体で前年度比概ね10%減の目標を達成することができた。(給与課) <p>現在の事務業務分掌規程の整備を行なっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企画部・教員医師人事室と調整が必要である。 ・社会人採用者の初任等級格付け及び昇級可能年数を、能力に応じて早められるよう職能資格等級制度を一部修正した(人事) ・教職員満足度調査に盛り込み実施を計画中である。(企画部)

中 期 計 画	平成21年度事業計画	平成 21 年 度 実 施 結 果
⑤青戸看護専門学校閉校後に対する看護師確保体制を確立する。	⑤計画の人事異動の拡大により看護師を確保する。	<ul style="list-style-type: none"> 平成22年4月に向けて看護部に対して計画的な人事異動を実施した。 求人の際青戸病院の求人にウエイトをおいて活動を行った。(人事課) 計画的な人事異動体制構築には着手できなかった。青戸病院への就職に繋がる学内外からの看護学生実習受け入れ拡大を行っている。22年度からさらに2校増加して5校の実習受け入れを決めた。(看護部)
3. 事務の効率化・合理化に関する目標 ①適正な IT グランドデザインを構築し、IT 戦略を策定する。 ②附属4病院にオーダーリングシステムを導入し、効率化と患者満足度の向上を図る。 ③ネットワークの更新と再構築を行う。 ④経営管理データを一元管理し、経営判断を迅速に行える環境を構築する。	①最新の動向に関する情報を収集しながら電子カルテシステムの定義を見直し、それらを含めてシステム全般の導入計画を策定する。 ②附属病院オーダーリングシステム(二次)を確実に導入し、データ二次利用(DWH)の利用拡大を進める。 ③本院・柏病院は3ヵ年計画、青戸病院はリニューアルの中でネットワークシステムの更新を行い、第三病院について更新計画を策定する。 ④経営管理データの一元管理をする。	平成20年9月のITあり方検討委員会に「本学が目指す電子カルテシステムの定義と導入計画について(案)」を提示済であるが、社会動向を視野に入れた見直しを継続的に進める。 レジメンオーダでは、注射薬アンブルピッカーシステムが更新されたため、運用調整が遅延しているが、当システムが安定稼動しつつある中で、検討が再開された。また、データ二次利用(DWH)も徐々に拡大している。(システム課) 本年度に本院・柏病院の更新を実施。第三は平成22年5月に更新すべく着工。青戸病院はリニューアル時に更新予定。 データの一元管理は少しずつ進めている。全体をデータウェアハウスで一元管理する計画があったが、医事データの取り扱いが出来ず停滞している。
III. 財務の改善に関する目標 1. 収支改善・外部資金獲得に関する目標 ①予算実績管理体制を強化して効率的な運用推進の仕組みを策定する。 ②経営改善重要項目ごとに検討組織を設置し改善を推進する。	①-1 財務委員会を設置して財務計画の策定、およびその検証を行う。 ①-2 新財務システムを活用し収支状況の月次把握システムを作成する。 ①-3 未集金発生予防策を講じる。 ②-1 青戸病院と第三病院の収支構造を改善するためにあり方を検討し、マスタープランを作成する。	平成21年度は、夏季常任理事会に提出する中・長期資金計画策定の為の委員会を開催(7月22日)。一回のみの開催ではあったが有効な打合せができたことと評価する。 22年度については診療報酬改定があることから、財務委員会で検討する事項の増加が見込まれる。テーマや開催時期に関して関係部とよく相談を行う方針とする。(財務) 新システムでの発生主義会計については完了した。但し、中間報告の通り委託費(人件費関連)等の当月支払請求書の到着が遅く、月次把握時期が25日を若干超えてしまう場合がある。 ①課内未収金回収基準規程を制定し課員に周知②自動精算機24時間稼働化をH21.8より実施③患者に対し限度額認定の早期手続きを推進した。特に入院未収金に関しては対上半期比較で約230万円減少した。 新病院に向けた足元の改善・改革プランを実行した。(青戸)DPC対策に対し院内に組織横断的なプロジェクトチームを設置し、検査やレントゲン、注射といった包括項目についてジェネリックの使用促進、高額検査リスト作成による情報提供を行った。昨年に続き「DPCお助け通信」を月1回発行し具体的な改善項目を提示している。9月より手術原価管理システム(OC-sysutem)を導入し術式別原価管理を施行するためデータ収集を行なっている。(第三)

中期計画	平成21年度事業計画	平成21年度実施結果
<p>③科学的な分析に基づき医療収支の改善を推進する。</p>	<p>②-2 柏病院の患者動向・周辺医療機関状況を分析し、将来計画を策定する。</p> <p>②-3 補助金獲得のため補助金対象の調査を実施し申請の徹底を図る。</p> <p>③疾病別の医療収入の把握とタイムリーな原価計算作業を行い、改善を推進する。</p>	<p>柏病院将来構想検討委員会において、患者動向・周辺医療機関状況等を分析した。平成21年度は市場規模の大きい産婦人科疾患・循環器疾患・神経系疾患への対応のために、①産婦人科外来改修工事による診察ブースの増設（9⇒11）。②本館3階カテ室の血管撮影装置の最新鋭機への更新を行い効率化と収入増を図った。また、③神経内科外来を脳神経外科内に移動し同一エリア化することにより診療の効率化を図った。</p> <p>平成17年度より申請を控えていた「私立大学等戦略的研究基盤形成支援事業」の平成22年度応募に向けて、大学として申請する研究プロジェクトの学内公募をした。応募が4件あり、大型プロジェクト対策委員会で審査した結果、申請研究プロジェクトとして1件を採択した。平成22年度計画事業として予算化を計った。</p> <p>科研費補助金申請のため講習会・説明会を開催した。</p> <p>分析ソフト「ヒラソル」を利用しDPC請求と出来高請求における分析結果及び改善内容を各診療部へ提示し、分析・改善へ取り組みを行った。（本院）</p> <p>診断群分類ごとの分析結果を院長・診療部長面談で提示し、増収に向けた改善を推進した。また、毎月のDPCデータから出来高比較を科別で算出し、分析・改善を推進した。（青戸）</p> <p>分析ソフト「ヒラソル」の活用とコンサルタント会社（㈱サイプレス）からのアドバイス等により各診療部毎（年間1回の全診療部長面談実施）、疾患別DPCと出来高比較分析を中心に実施した。また、DPC導入から1年以上が経過した中で病院全体でのDPC請求の強みと弱みを分析し、収入改善に取り組んだ。（第三）</p> <p>8月に各診療科ごとに、分析ソフト「ヒラソル」を利用したDPC導入後におけるDPC請求と出来高請求における分析結果の説明会を実施した。説明会では、入院日数の増減や主病名・副傷病名の付与方法により増収症例は更に増収に、減収症例については収入増に繋がる等の改善策を検討し、実行した。（柏）</p> <p>疾病別分析は、各病院の機能評価等に合わせて実施している。平成21年度は柏病院の分析のため実施した。タイムリーな集計を実現するため、市販ツールの導入も検証している。（企画部）</p>
<p>2. 経費の抑制に関する目標</p> <p>①物流の見直し、購入組織の見直し、個別、疾病別の医療材料費を把握することにより改善を推進する。</p> <p>②医療経費の抑制を図る。</p> <p>③エコ活動を推進し、電気・ガス・水道・重油・電話・コピー・酸素等の経費削減を図るための具体策を実行する。</p>	<p>①物流全般を慈恵実業に集約し、一括購入、物流効率化で経費を削減する。</p> <p>②医療経費の抑制に向け検討組織を策定する。</p> <p>③西新橋キャンパスと全学対象の省エネルギー推進委員会を設置する。</p>	<p>患者・術式別の医療材料経費の把握は可能となっており実施済みである。また、医療材料、一般消耗品については慈恵実業に集約している。経費節減については随時実施している。</p> <p>10月より4病院医療材料・物流検討WGを医療材料委員会の下部組織として設置した。</p> <p>医療材料・消耗品の使用把握と標準化による経費抑制、使用量の開示等による啓蒙活動を開始した。また、柏病院の手術室を中心とした物流の改善を開始した。（企画部）</p> <p>7月に省エネプロジェクト（J-ECO）委員会を発足し、職場、建物等における省エネに繋がる事項を検討し、改善しやすい所からを実施した。（例）：①事務系建物の深夜消灯。（年間46,000円の経費削減と年間1,474KgのCO2削減）②職員駐車場内にアイドリングストップのポスターを掲示した。③教職員専用エレベーターに2STEP3DAUNのポスター掲示④省エネポスターの掲示⑤乾電池のリサイクル利用（試験実施）また、東京女子医大附属病院、昭和大学豊洲病院、晴海トリトンスクエア3施設の省エネ対策について見学を行った。12月中には中間報告の提出を行った。4月1日には新入職員オリエンテーションに省エネ活動に関して講演を行った。</p>

中 期 計 画	平成21年度事業計画	平成 21 年 度 実 施 結 果
④IT グランドデザインに基づく IT 投資計画、包括的な IT 関連経費の適正化を推進する。	④システム経費のベンチマークを実施し、適正金額設定を検討する。	女子医大と3回打合せを行い、①全体投資額、②機関別投資額、③教育研究にかかる投資額、④法人系システムに係る投資額の比較を行った。また定常費を中心に勘定項目の定義を合わせて医業収入との比率比較も行なった。(総務部) その後の進捗はなし(財務部) 東京女子医大と全体投資額、機関別投資額、教育研究に係る投資額、法人系システムに係る投資額の比較を行った。定常費を中心に勘定項目の定義に合わせて医業収入との比率比較を行った。情報システムに関する管理組織の策定について検討を開始した。(企画部)
3. 資産の運用管理の改善に関する目標 ①施設・設備の効率的な維持管理と計画的整備を図る。 ②機器・備品の効率的な管理、投資計画を策定する。	①施設・設備計画を策定する組織を設置し、効率的な維持管理を実施する。 ②慈恵実業と協働で機器登録管理システムを策定する。	今年度においては、具体的な検討は行わなかったが、来年度実施に向けて関係部署と検討を行って行きたい。 今年より4病院機器登録管理システムは構築したが、慈恵実業との連携に関しては、今後取り組んで行きたい。
IV. 自己点検・評価の充実に する目標 ①自己点検・評価を公表し、運営(中期目標・計画、支援、設備整備等)に関わる検討組織の審議に反映できるシステムを構築、運営する。	①-1平成20年度に行った自己点検評価をホームページで公開する。 ・大学基準協会の評価結果をホームページに掲載しPRする。 ①-2大学基準協会の実地審査の準備を進める。	平成22年3月、大学基準協会の基準に適合している旨通知があり、評価結果をホームページに掲載し社会へ公表した。また、今後評価結果を冊子として製本する予定である。(総務課) 大学基準協会から認定の評価を受けることができた。(大学事務部) 今年度10月7日・8日に実施された実地視察は、事前の準備を進めた結果、無事実地審査を終了することができた。また、3月には大学基準協会の基準に適合している旨の通知を受けた。(総務課) 実地審査は10月7日・8日に行われた。本学の希望した日程ではなかったが、各部署の工夫と協力により万全な準備ができ、視察委員に好印象を与えることができた。(大学事務部)
V. その他事業運営に関する重要目標 1. 青戸病院リニューアルに関する目標 ①青戸病院TFを設置し、リニューアル計画を推進する。 ②青戸病院リニューアル委員会を設置し、リニューアルTFと連携し、基本事項決定および行政折衝等を推進する。	①-1平成21年10月に実施設計を完了する。 ①-2平成21年5月総合設計許可申請平成21年8月統合設計許可・確認申請に向けて進める。 ②建築着工までの基本事項を審議決定する。	実施設計は1月29日に完了した。 総合設計は11月16日許可、建築確認申請は1月26日許可された。 基本事項の審議を行い2月1日より着工となった。
2. 附属病院外来棟建築に関する目標 ①西新橋キャンパス全体を視野に入れ建築計画を策定する。	①マスタープラン検討会を通じ本院外来棟の建築スケジュール・プロジェクトプランを検討する。	外来棟建築準備小委員会では、下記の通り、検討している。平成22年3月25日開催の常任理事会にて、これまでの検討内容を森山院長が報告した。マスタープラン検討委員会への報告を行っていないため、平成22年度早期にマスタープラン検討委員会との整合を図る。(外来棟建築準備小委員会)

中 期 計 画	平成21年度事業計画	平成 21 年 度 実 施 結 果
②附属病院の機能分化と西新橋キャンパスの有効利用を考慮した外来棟の基本コンセプトを策定する。	②本院機能、分院機能、西新橋キャンパスでの教育研究機能も考慮し本院外来棟の基本コンセプトを建築専門家などを加えて再開する。	建築計画を進めるにあたり、大学のマスタープランの中での「本院の外来機能のコンセプト」を策定するため、本院外来棟建築準備小委員会を設置した。なお、準備小委員会は、準備委員会、本委員会移行への前段階として位置付ける。第1回会議を4月24日に開催し、現在（3月）までに8回開催した。 予想しにくい医療環境の変化に対応し、本学のコンセプトを尊重しつつ、中長期的展望を確立する必要がある。そして、外来棟のみならず、西新橋エリア全体の将来構想を決定していくため、各分野からオブザーバーを招聘し検討を重ねた。主な検討内容は、「医療環境の変化への対応」「慈恵大学のコンセプト尊重」「西新橋エリア全体の将来構想（特に今後中心となる医療）」「建築構想」などをテーマとし、あわせて、附属4病院間の連携や臨床研究との連携、医局棟のあり方などについても議論を行った。
3. 大学マスタープランの策定に関する目標 ①教育・研究・診療機能を総合的に考慮したマスタープランを策定する。	①建築専門家などを加えてマスタープラン検討委員会活動を再開する。	外来棟建築準備小委員会では、平成22年3月25日開催の常任理事会にて、これまでの検討内容を森山院長が報告した。マスタープラン検討委員会との整合を図る必要がある。（外来棟建築準備小委員会）
4. 創立130年記念事業に関する目標 ①記念事業に必要な寄付金を募集する。	①「創立130年記念募金」を平成22年度より開始するための準備を開始する。	同窓会設立85周年記念合同記念事業と位置づけて、合同記念事業委員会、130年史編集委員会、130年記念募金準備委員会、合同記念式典準備委員会、CD政策委員会を発足し、準備を進めている。
5. 大規模災害時の対応に関する目標 ①大規模災害発生時の4機関連携体制対策指針を整備する。	①大規模災害発生時の4病院の連携を図るため、継続して、災害対策訓練を計画、実施する。	災害対策マニュアルに基づく対応を訓練し、災害時の対応における問題点を把握し、事後の対応要領の参考とするため、4病院合同の災害対策訓練を11月6日（金）に実施した。なお、H22年度についても、4病院合同訓練を予定している。

〔付〕 2. 学校法人 慈恵大学 中期目標・中期計画・平成22年度事業計画

〔本学の理念・目的・使命〕

- 理念：医学・看護学の教育・研究とその実践を通して人類の健康と福祉に貢献する。
- 目的：質の高い医師と看護専門職者の育成と臨床を支える医学・看護学研究を推進する。
- 使命：社会のニーズに応えることのできる医師・看護師・保健師の育成と医学・看護学研究を振興して人類の健康と福祉に寄与する。

〔本学が目指す将来像（ビジョン）〕

- 社会の共感を得て、国際的にも高い評価を受けることができる質の高い医科大学を目指す。

質の高い医学・看護学教育

- (1) 医学・看護学を深く理解し、豊かな人間性を具えた全人的な医療を実践できる医師・看護師・保健師を育成するための特色ある卒前・卒後教育システムを構築する。
- (2) 4 附属病院の特徴を活かした多様な医師・看護師・保健師育成プログラムを策定する。
- (3) 看護学科と看護専門学校は、協力して看護生涯学修の出発となる基礎能力の育成に組織的に取り組む。
- (4) 大学院教育の充実と改善を推進する。

本学の特色ある研究と臨床に還元できる研究の推進

- (1) 本学に継承されている特色ある研究を発展させる。
- (2) 臨床研究と疫学研究を推進するシステムを構築する。
- (3) 臨床を支える医学・看護学研究を推進する。
- (4) 先進医療を開拓するための医学研究を推進する。

質の高い医療の提供

- (1) 社会のニーズに応えることができる質の高い医療を実践できる附属病院を目指す。
- (2) 安心で安全な医療を提供できる医療システムを構築する。
- (3) 高度で先進的な医療を開発し実践する。
- (4) 医師、看護師・保健師としての技術を向上させるための取り組みを行う。
- (5) 附属病院の特色を活かして各附属病院の活性化と機能分化を図る。

130年記念事業

- (1) 130年記念事業を行う。

〔基本方針〕

平成22年度の基本方針と重点施策

1. 法令遵守の徹底
 - ・教職員の法令遵守精神を向上させる。
2. 医療安全の推進
 - ・医療安全体制を検証し、より良い医療安全システムを構築する。
3. 質の高い医療人の育成
 - ・卒前教育の改善と充実を図る。
 - ・卒後教育を改善して研修医とレジデントの応募者増を図る。
 - ・看護学科・看護専門学校は、協力して卒業時の技術到達目標に関する評価を周知する。
 - ・看護学専攻修士課程における高度実践看護師のためのプログラムの充実を図る。
4. 安定した財政基盤の構築
 - ・医療収入の増加と医療経費の削減を図る。
 - ・大学における収支構造の点検を行う。
 - ・機関別の事業計画に基づく中期財務計画を策定する。
 - ・収支状況の月次把握ができるようにする。
 - ・第三病院、柏病院の収支構造の改善を図る。
 - ・柏病院の施設整備強化により収益増を図る。
 - ・IT 関連経費の適正化と全体計画検討組織を整備する。
5. 医学・看護学研究の推進
 - ・各講座を中心に行われている特色ある伝統的研究と共に先進的研究を推進する。
 - ・研究推進のための競争的研究資金の獲得を目指す。
 - ・医療現場と連携して看護学研究を振興する。
6. 広報活動の充実
 - ・広報誌、ホームページを充実させて、本学の教育・研究内容および附属病院の診療内容などを社会にアピールする。
 - また、広報誌、ホームページで病診連携、病病連携、同窓会員への情報発信に活用する。
7. 青戸新病院開院に向けた具体的な準備を進める。
8. 本院外来棟建築に関する検討を推進する。
9. 創立130年記念事業を行う。式典、講演会、130年史の刊行と募金活動を行う。

I. 中期目標・中期計画期間

平成19年4月1日から平成25年3月31日までとする。

II. 「中期目標・中期計画・平成22年度事業計画」の項目

中 期 目 標	中 期 計 画	主体部署	平成22年度事業計画
<p>I. 大学の教育・研究・診療等の質の向上に関する目標</p> <p>1. 教育に関する目標</p> <p>(1) 教育の成果に関する目標</p> <p>○卒業教育</p> <ul style="list-style-type: none"> 幅広く深い教養を身につけた医師・看護師を育成する。 エビデンスに基づいた医療判断が出来る医師・看護師を育成する。 医学生の臨床能力の向上を図る。 研究的態度を身に付けた医師・看護師を育成する。 国際感覚を持った医師・看護師育成のために外国語教育を充実させる。 医師・看護師・保健師国家試験合格率の向上を図る。 学習効果を適切に評価する。 入学後の学習支援を行い大学教育が滞りなく行えるように配慮する。 卒業教育における大学間連携を推進する。 自ら学ぶ態度を涵養する。 	<p>I. 大学の教育・研究・診療等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置</p> <p>1. 教育に関する目標を達成するためにとるべき措置</p> <p>(1) 教育の成果に関する措置</p> <ol style="list-style-type: none"> ①教養教育のあり方を検討する。 ②研究的態度を涵養するカリキュラムを改善充実させる。 ③医学科と看護学科でエビデンスに基づいた判断能力を涵養するカリキュラムを改善充実させる。 ④外国語教育の改善を図る。 ⑤学生の個性を尊重した教育を実施する。 ⑥国家試験を視野に入れた評価方法の改善を図る。 ⑦大学間連携を推進する。 	<p>学事課 看護学科 (教学委員会)</p> <p>学事課 (教学委員会)</p> <p>学事課 看護学科 (教学委員会)</p> <p>学事課 教育センター (教学委員会)</p>	<ol style="list-style-type: none"> ①-1 医学科新カリキュラムの導入効果を検証する。 ①-2 高学年への教養科目導入を検討する。 ②研究室配属期間を6週間に延長する。 ③-1 クリニカルクラークシップ型臨床実習を取り入れた診療科を拡大する。 ③-2 臨床疫学に関するカリキュラムの充実を図る。 ④看護学科のクラス編成方式を評価・検討する。 ⑤選択臨床実習の期間を延長し、自由度を拡大する。 ⑥国家試験を考慮した試験形式の出題を検証する。 ⑦4 私立医大や首都大学東京などの連携を継続する。
<p>○大学院教育</p> <ul style="list-style-type: none"> 臨床を支える研究を推進する。 社会に開かれた大学院となるように改善し、生涯学習の場を提供する。 高い倫理観と判断力に優れた研究者を育成する。 医学教育に優れた研究者を育成する。 臨床研究に優れた研究者を育成する。 研究者育成のためのカリキュラムを策定する。 看護実践を支える看護研究を推進する。 	<ol style="list-style-type: none"> ①豊富な症例を対象とした臨床研究を行うため基盤整備を行う。 ・トランスレーショナルリサーチを推進する環境を整備する。 ②社会人入学の推進を図る。 ③研究者に必要な倫理観、判断力を涵養するプログラムを策定する。 ④共通カリキュラムの改善を図る。 ⑤看護学専攻修士課程における研究を充実させ質を高める。 	<p>学事課 (大学院委員会、研究科委員会)</p>	<ol style="list-style-type: none"> ①臨床研究推進のための検討を行う。 ②社会人大学院生に対応したカリキュラムの充実を図る。 ③新設した医学教育のカリキュラムの内容を継続的に検証し充実を図る。 ④共通カリキュラムの内容を継続的に検討する。 ⑤看護学専攻修士課程の安定した運用を図る。
<p>(2) 教育内容等に関する目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 優れた人材の獲得に向けた医学科入学試験方法を改善する。 看護学科の志願者増を視野に入れ、入学試験を改善する。 カリキュラムの点検・評価を行い改善する。 問題解決能力涵養のための教育形態を策定する。 臨床能力を向上させるための方略を策定する。 質の高い医療人を育成するための厳正で適切な評価を行なう。 	<p>(2) 教育内容等に関する措置</p> <ol style="list-style-type: none"> ①医学科・看護学科の入学試験を改善する。 ②医学科と看護学科のカリキュラムを点検し改善する。 ③モデル・コア・カリキュラムを考慮した医学科の特色あるカリキュラムを継続的に検討する。 ④医学科の交換留学制度を充実させる。 	<p>学事課 看護学科 (入試委員会)</p> <p>学事課 看護学科</p> <p>学事課 (教学委員会)</p>	<ol style="list-style-type: none"> ①志願者増を図り優秀な学生の獲得に努める。入試事務室のセンター化を図り、医学科・看護学科の入試に関する作業の一元化を継続する。 ②21改正カリキュラムの実施状況を継続的に検証する。 ③医学科カリキュラムの状況を検証する。 ④医学科の外国人留学生受入れ専任窓口の設置を検討する。

中期目標	中期計画	主体部署	平成22年度事業計画
<ul style="list-style-type: none"> 国際交流を推進する。 卒業教育カリキュラムを改善し公開する。 	<ul style="list-style-type: none"> ⑤レジデント教育プログラムを改善して医学生に公開する。 ⑥高校訪問やオープンキャンパスを積極的に行い、看護学科受験者増を図る。 ⑦看護学科の定員を増やす。 ⑧看護学科の講義、実習、演習の比率を改善する。 ⑨看護における臨床技能を高めるために実習方法を改善する。 ⑩看護学科の海外実習を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> 臨床研修センター 教育センター 看護学科 学事課 看護学科 (教学委員会) 教育センター 看護学科 (教学委員会) 	<ul style="list-style-type: none"> ⑤-1 新プログラムをホームページへ開示し、プログラムの充実を図る。 ⑤-2 シミュレーション教育コースを充実し、医学生への活用を検討する。 ⑥看護学科の志願者を増やすために継続して広報活動を行う。 ⑦"看護学科定員増に関するプロジェクト"で継続して看護学科定員増に関連する課題を検討する。 ⑧看護学科の講義、実習、演習の比率を見直し実践能力を向上するようフィールド調整や方法論を検討する。 ⑨-1 ステップノートを活用し、臨床技能を高める実習を行う。 ⑨-2 シミュレーション教育の改善を図る。 ⑩アメリカ看護研修、国際看護交流協会研修生受入れと交流、招聘講演会を企画する。
<p>(3) 教育の実施体制等に関する目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 教員の適正配置を検討する。 教育環境を整備する。 教員の教育能力の向上に努める。 教員評価を実施する。 	<p>(3) 教育の実施体制等に関する措置</p> <ul style="list-style-type: none"> ①教育・研究を考慮した教員の適正配置と教員数を検討する。 ②講義室などの教育環境整備を行う。 ③教育能力向上のための教育研修を実施する。 ④教員・医師人事評価制度の運用と体系的な人事制度を構築する。 	<ul style="list-style-type: none"> 教員医師人事室 学事課 看護学科 教育センター 学事課 看護学科 総務課 教員医師人事室 学事課 	<ul style="list-style-type: none"> ①教員医師人事室で教員の適切な人数を把握する。 ②-1 継続的に教育環境やアメニティの改善を図る。 ②-2 シミュレーション教育施設を開設し、シミュレーション教育環境の改善を図る。 ③-1 継続的に Faculty Development、Staff Development を行い、教育体制の充実を図る。 ③-2 生涯教育のための講演会を継続的に開催する。 ④-1 教員評価システムを教員人事に活用する。 ④-2 学生による教員評価の内容を充実させる。
<p>(4) 学生への支援に関する目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 学生が充実した生活を送ることが出来るように支援する。 問題を抱えている学生を支援する。 	<p>(4) 学生への支援に関する措置</p> <ul style="list-style-type: none"> ①学生支援のための教員組織を充実させる。 ②学力に問題のある学生に対する体制を改善する。 ③奨学金制度を充実させる。 ④精神的支援を必要とする学生のためのシステムを構築する。 	<ul style="list-style-type: none"> 学事課 看護学科 	<ul style="list-style-type: none"> ①②1・2年生に対する学生生活アドバイザー有効活用の支援および3・4年生に対する支援のあり方を検討する。 ③奨学金授与・貸与方法を改善する。 ④学生健康管理チームの活動を開始する。学生相談室、学生アドバイザー制度の見直しを図る。
<p>(5) 看護専門学校に関する目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 看護専門学校の質の向上を図る。 定員数の学生を確保する。 	<p>(5) 看護専門学校に関する措置</p> <ul style="list-style-type: none"> ①看護教員の確保に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 看護専門学校 	<ul style="list-style-type: none"> ①看護教員確保に必要な具体的な措置を講じ、教員を確保する。

中期目標	中期計画	主体部署	平成22年度事業計画
<ul style="list-style-type: none"> 適切な看護専門学校の配置を検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ②看護実践を重視した看護教育を行う。 ③学生確保のため積極的に広報活動を行う。 ④学生生活支援を積極的に行う。 ⑤看護専門学校の再編を検討し実行する。再編に向けて4病院を活用した実習カリキュラムを検討する。 		<ul style="list-style-type: none"> ②技術体験・見学体験の機会を増加させる。 <ul style="list-style-type: none"> ・臨床と基礎をつなげる教育方法の開発を行う。 ③ホームページ、オープンキャンパス、説明会の充実、様々な広報媒体を用いて積極的な広報活動を行う。 ④学習についていけない学生や生活上で問題のある学生への支援 <ul style="list-style-type: none"> ・指導、保護者との連携・協力、奨学金制度の充実を図る。 ⑤看護専門学校の再編計画を策定する。
2. 研究に関する目標 (1) 研究水準及び研究成果に関する目標 <ul style="list-style-type: none"> ・臨床を支える質の高い研究を振興する。 ・論文発表を促進する。 ・国際的に高い評価を受けることができる研究を推進する。 	2. 研究に関する措置 (1) 研究水準及び研究成果に関する措置 <ul style="list-style-type: none"> ①教員の職位に応じた論文発表を評価する。 ②国際誌への投稿を推進する。 ③Jikeikai Medical Journal の充実を図る。 	学術情報センター 大学院委員会 学事課 大学院委員会 学術情報センター	<ul style="list-style-type: none"> ①-1 教員評価システムへの論文発表データ登録の簡便化、機能強化を図る。 ①-2 大学院委員会で検討した発表論文基準に照らして研究業績の評価を検討する。 ②講習会の開催など、国際誌への投稿推進策を策定する。 ③ MEDLINE 収載を目標に Jikeikai Medical Journal の掲載論文の質と量の充実を図る。東京慈恵会医科大学学術リポジトリ構築を推進し、発表論文の国内外からのアクセス性の向上を図る。
(2) 研究実施体制等の整備に関する目標 <ul style="list-style-type: none"> ・研究環境を整備する。 ・臨床研究を推進する体制を構築する。 ・先進的研究実施体制を作る。 ・寄付講座制度を活用する。 ・大学の研究費予算を見直す。 ・効率的な人員配置をする。 	(2) 研究実施体制等の整備に関する措置 <ul style="list-style-type: none"> ①臨床研究支援体制を構築する。 ②先端研究を推進する体制を作る。 ③トランスレーショナル研究推進体制を作り振興する。 ④寄付講座を振興する。 	総合医科学研究センター 先端医療研究推進委員会 大型プロジェクト対策委員会 iPS 細胞研究会 先端医療研究推進委員会 iPS 細胞研究会	<ul style="list-style-type: none"> ①共用研究施設の拡充を図る。 ②先端医療・先端研究に関するアンケートを実施し、学内研究費の再構築を図る。iPS 細胞を用いた研究を推進する。 ③-1 再生医療研究室を設置し、先端的なトランスレーショナル研究を推進する。GMP 対応施設の活用を推進する。 ③-2 スーパー特区に採択された事業を支援する。 ④新たな寄付講座の開設に向けて取り組む。
(3) 総合医科学研究センターに関する目標 <ul style="list-style-type: none"> ・各研究所・研究室の活動を定期的に点検・評価する。 ・競争的研究資金の獲得を目指す。 	(3) 総合医科学研究センターに関する措置 <ul style="list-style-type: none"> ①自己点検・評価を推進し外部評価を受ける。 	総合医科学研究センター 運営委員会	<ul style="list-style-type: none"> ①自己点検評価および外部評価を実施し、評価結果を公開する。センターの研究施設体制の再構築を検討する。

中 期 目 標	中 期 計 画	主体部署	平成22年度事業計画
<ul style="list-style-type: none"> 各研究所・研究室の特色ある研究を推進する。 研究支援部門の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ②研究成果を積極的に開示する。 ③各研究所・研究室の特色ある研究を推進し、情報公開に努める。 		<ul style="list-style-type: none"> ②研究所の合同研究発表会の開催を検討する。 ③大型研究設備をホームページで公開し、共同利用を促進する。
(4) その他 <ul style="list-style-type: none"> 医学・看護に関する情報を公開し社会に貢献する。 	(4) その他の目標に関する措置 <ul style="list-style-type: none"> ①知的財産を社会に還元するために市民公開講座を積極的に開催する。 	教育センター (公開講座推進委員会)	<ul style="list-style-type: none"> ①市民および地域医療者の公開講座を継続し、補助金を活用して積極的に開催する。
3. 附属病院（4病院）に関する目標 (1) 医療安全・感染対策の推進 <ul style="list-style-type: none"> 附属4病院間の連携強化と医療安全体制を整備する。 教職員の教育・研修の充実による医療安全・感染対策に対する意識の向上を図る。 全国の私立医科大学病院の医療安全・感染対策推進活動に貢献する。 	3. 附属病院（4病院）に関する目標を達成するためにとるべき措置 (1) 医療安全・感染対策の推進に関する措置 <ul style="list-style-type: none"> ①医療安全・感染対策管理体制の点検・評価を実施する。 ②教職員の教育・研修の定期的開催と医療安全文化を醸成する。 ③医療問題および感染症発生時の迅速な対応体制を確立する。 ④私立医科大学病院間の相互ラウンドを実施する。 	医療安全管理部	<ul style="list-style-type: none"> ①附属4病院相互ラウンドの再構築による附属4病院間での連携強化と問題解決を行う。フロアリスクマネージャーと協力した、改善策実施状況の定期的な評価を行う。 ②教職員に対する教育・研修による医療安全・感染対策に対する知識・技術を向上させる。 ③教職員への指導強化により、医療問題および感染発生時に迅速に対応する。 ④私立医科大学病院間の相互ラウンドによる情報共有や、問題点の明確化による医療安全体制の見直しを図る。
(2) 先進医療の推進 <ul style="list-style-type: none"> 患者ニーズにこたえる先進医療に取り組む。 	(2) 先進医療の推進に関する措置 <ul style="list-style-type: none"> ①医療の質と技術向上のための取り組みを推進する。 	臨床研修センター 管理課	<ul style="list-style-type: none"> ①-1 低侵襲手術を始めとした先進医療トレーニングシステムを周知させ振興する。 ①-2 患者ニーズに対応した先進医療を提供するため、各診療科からの申請に迅速に対応する。また、幅広く情報提供を行い先進医療の拡大を推進する。
(3) 患者サービス・病診・病病連携の推進 <ul style="list-style-type: none"> 患者中心の医療を円滑に推進する。 住民参加によるボランティアサービスの充実を図る。 	(3) 患者サービス・病診・病病連携の推進に関する措置 <ul style="list-style-type: none"> ①医療連携を進める具体的な体制整備を行う。(医師・看護師・SW等が協働できる体制) ②ボランティア受入れ体制を整備・強化する。 ③退院・転院・在宅医療などの支援業務を一体化する。 	患者支援・医療連携センター管理課 ボランティア事務局 患者支援・医療連携センター管理課	<ul style="list-style-type: none"> ①BSCを用いて患者支援・医療連携センターの協働体制強化に努め、近隣病院への戸別訪問等による医療連携の強化、推進を図る。 ②ボランティアの人員増を図り、活動範囲、場所の拡大を促進する。 ③退院・転院・在宅医療などの支援業務の情報を早期から共有し効率的な運用を図る。

中 期 目 標	中 期 計 画	主体部署	平成 22 年度 事業 計画
(4) 効率的な医療の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・附属 4 病院で効率的な DPC 運用を図る。 ・職種間の効率的な協働体制を構築する。 ・科学的根拠に基づく医療の効率化を推進する。 	(4) 効率的な医療の推進に関する措置 <ol style="list-style-type: none"> ①DPC に対応したクリニカルパスを普及し、治療の標準化、医療の安全と効率化を図る。 ②医師、看護師、コメディカル、事務職の効率的な業務分担の推進を図る。 ③共通操作性のあるオーダーリングシステムの導入を検討する。 	業務課(本院、青戸、第三、柏) 薬剤部 企画部 人事課 教員医師 人事室 システム課	①-1 DPC に対応したクリニカルパスの導入を推進する。 ①-2 後発薬品導入を推進する。 ①-3 外来疾病別原価分析を実施する。 ②関係部署間で協力して担当業務、業務分担を見直す。 ③4 病院のオーダーリングシステム導入計画を検討する。
(5) 予防医学の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・大学として予防医学に貢献する。 ・スポーツウェルネスクリニックとスポーツ医学の再興。 	(5) 予防医学の推進に関する措置 <ol style="list-style-type: none"> ①総合健診・予防医学センターと各病院との連携を強化する。 ②スポーツ・ウェルネスクリニックとスポーツ医学研究を見直す。 	総合健診・予防医学センター 整形外科 リハビリテーション科	①各病院との連携強化のため、オーダーリング導入の検討を行う。 ②-1 総合健診・予防医学センターと連携して、一般人を対象とした運動療法・栄養指導を継続実施し拡大させる。 ②-2 体力医学研究を推進し学会発表等を行い研究の活性化を図る。
●附属病院（本院）に関する目標 (1) 医療の質の向上を図る。	●附属病院（本院）に関する目標を達成するためにとるべき措置 <ol style="list-style-type: none"> ①特定機能病院としての機能を充実させる。 ②東京都認定がん診療病院としての機能を充実させる。 ③人材育成（スキルアップ）を行う。 ④院内研修制度の充実を図る。 	管理課(運営会議担当委員会) 管 理 課(診療情報室)患者支援・医療連携センター薬剤部 人事課 教員医師 人事室 教員医師 人事室	①各診療科へ病院としての具体的な支援策強化や実施申請方法の簡素化を行う。 ②東京都認定がん診療病院としての機能を充実させる。(院内がん登録の促進、がん相談支援体制の確立、レジメンオーダーシステム稼動) ③学内のキャリアパスを取り纏め、体系・整備を検討する。 ④「家庭医・再研修コース」の受け入れ体制を整備する。
(2) 先進（高度）医療を開発し、施行する。	①鏡視下手術トレーニングコースの充実を図る。	臨床研修センター	①STEP 1 及び MCQ に関する e-ラーニングシステムの導入と STEP 2 の継続的な開催について検討する。
(3) 医療安全・感染対策管理体制の充実と推進を図る。	①医療安全・感染対策に関する組織横断的な活動を推進する。	医療安全管理部	①教職員の医療安全および感染対策に関する意識向上を目的とした教育を実施する。特に研修医・レジデント・新規採用医師に対する教育・指導の充実を図る。フロアリスクマネージャーとの協力による、改善策実施状況の定期的な評価を行う。

中 期 目 標	中 期 計 画	主体部署	平成22年度事業計画
(4) 患者・家族の満足度の向上を図る。	①インフォームド・コンセントを徹底する。	管理課 医療安全 推進室	①インフォームド・コンセントに関する調査を継続実施し、インフォームドコンセントの徹底を図る。患者からの苦情や意見を統計化し該当科へフィードバックを行い改善を図る。
(5) 地域連携促進ときめ細やかな医療サービスを提供する。	①患者支援・医療連携センターの機能充実を図る。	患者支援 医療連携 センター	①BSC を用いた定期的な評価・修正を行い、患者支援・医療連携センターの機能充実を図る。
(6) 臨床研究を促進する。	①臨床試験の支援体制を充実させる。	臨床試験 支援セン ター	①臨床研究コーディネーターのレベル向上と治験の推進を図る。 ・臨床疫学研究室（新設）や分子疫学研究室と連携し、臨床研究を推進する。
(7) 効率的医療を推進する。	①オーダーリングシステム導入による効率的な運用を図る。 ②効率的な診療体制の構築を図る。 ③手術室の効率運用を図る。 ④救急患者受入れの体制整備を行う。	業務課 システム課 ICU 看護部 (外来委員会) 手術部 中央材料室 救急部	①レジメンオーダ、処置オーダ、基本料オーダおよび部門システム等を推進、検討する。 ②-1 内規の徹底を行い ICU の効率的診療を図る。 ②-2 外来点滴室の有効活用と患者サービス、質の向上を図る。 ③-1 外来棟手術室との機能連携の強化を図る。 ③-2 中央材料室業務の効率化に向けて継続的に改善を図る。滅菌器械とディスポ品の患者別セットを検討し、滅菌保証の精度向上に取り組む。 ④東京都脳卒中急性期治療機関合同会議でのより積極的な行動。ICLS 等の教育コースを通じた芝消防署との連携を強化。広報の充実。 ICU への後期レジデントの派遣プログラム体制を整備。 患者支援・医療連携センターとの関係強化。(医療連携の強化)
(8) コスト管理の強化と収益性の向上を図る。	①月次医療収支額を把握する。 ②DPC データの他大学とのベンチマークを実施する。 ③医療材料の SPD 業務の再編を行う。	事務部 企画部 事務部 財務部 企画部	①月次医療収支額に基づくコスト管理の強化、収益性の向上を検討する。 ②6 大学ベンチマークプロジェクトを継続的に推進する。 ③更なる4 病院の物流効率化、標準化と大学全体の物流全般に関する将来計画案を策定する。
(9) 法令遵守の徹底を図る。	①施設基準等の定期点検を行う。 ②慣例的に行っている業務手順を法令遵守の視点で見直す。	管理課	①診療報酬改定に伴い、有効な施設基準を選択する。 ②病院機能評価受審時に指摘された事項を継続的に検討し改善を図る。
(10) 個人情報管理を徹底する。	①学内個人情報管理規定を遵守する。	総務課・ 管理課 (個人情報 保護委員会)	①定期的な研修会や講演会を実施し、個人情報管理を徹底する。

中 期 目 標	中 期 計 画	主体部署	平成22年度事業計画
	②電子媒体による情報管理を徹底する。	総務課 (個人情報保護委員会)	②電子媒体の管理により情報を把握し、紙媒体の情報離散を減少させる。
(11) 情報公開の条件を整備する。	①診療情報を評価するシステムを構築する。	管理課 企画部	①関係部署と共同し、診療情報評価システムを構築するため情報収集を行う。
(12) 教職員の職場満足度を向上させる。	①働きやすい環境整備等を行う。 ②女性教職員・女性医師の復職を支援する。	管理課 人事課 給与課 教員医師 人事室 教員医師 人事室 管理課 看護部 人事課 給与課	①職場環境の整備を検討し、具体的な改善を実施する。 ②病児預かり室のPR、対象者の拡大、受入れ人数の検討を行う。再就職登録の運用、再就職登録者への求人情報の提供実施を行う。
(13) 晴海トリトクリニックの将来構想を見直す。	①晴海トリトクリニックの機能を点検・評価する。	晴海トリトクリニック	①晴海トリトクリニックの機能と附属病院との連携について検討する。
●青戸病院に関する目標	●青戸病院に関する目標を達成するためにとるべき措置		
(1) 管理運営を強化する。	①開かれた組織体制を構築する。 ②各運営委員会を活性化し、病院長の諮問機関としての役割を強化する。	青戸病院 (運営会議・BSC WG) 運営会議	①平成21年度BSCによる業績評価と平成22年度版BSCの更新及び部門BSCの拡大を図る。 ②運営委員会の活性化のため、各運営委員会の成果物の指標化を検討する。
(2) 財政基盤を磐石にする。	①収支を改善し、経営の安定化を図る。 ②発生主義に基づく予算管理、収益性分析、生産性分析による経営課題を解決できるシステムを構築する。	運営企画会 事務部	①-1材料費、一般経費の管理を強化する。 ①-2新病院を含め医師および職員定数の見直しに着手する。 ②-1収益性分析を実施して対応策を講じる。 ②-2生産性分析を実施して対応策を講じる。
(3) オープン・システムを構築する。	①附属4病院連携、地区医師会、連携医療施設、行政とのネットワーク整備をする。 ②学内連携を図ることによって、診療、教育体制を強化するとともに、教育研修制度を整備する。 ③東京都看護職員復職支援研修施設として対象者を受け入れる。	患者支援 医療連携 センター 運営委員会 看護部 事務部	①-1登録医制度を推進する。 ①-2病病連携ネットワークを構築する。 ②メディカルカンファレンスを一層充実(継続)させる。 ③看護師再教育制度の内容を充実させ地域へ貢献する。
(4) 診療体制及び重点機能を強化する。	①総合内科・救急医療の協働体制を確立し、患者受入体制を強化する。 ②手術室の物流を改善し効率運用を図ることによって手術数を増加させる。 ③医療の効率化、透明化、標準化を図る。 ④患者フローの視点で、入院から退院・転院まで一貫したコーディネートを行う。	運営会議 運営委員会 運営委員会 看護部 入退院管理センター	①既設の総合内科病棟の運用細則を検討する。 ②新病院移行を考慮し中材等手術周辺環境を整理し、手術室の効率運用を図る。 ③DPCに合わせたクリバスの導入拡大を図る。 ④PFMと周辺環境整備により午前退院、午後入院を一層推進する。

中 期 目 標	中 期 計 画	主体部署	平成 22 年度 事業 計画
	⑤新病院に ICU・CCU を設置する。	運営企画会 HCU 設置 PT	⑤HCU を 4 床設置、重症患者を 集約するとともに診療・看護体 制を試行する。
(5) 病院リニューアルを実施する。	①大学病院、地域中核病院として患者志向の機 能的な病院を建築する。(平成23年竣工を目 指す。)	リニューア ル委員会 リニューア ルTF	①-1 フェイズVとして運用検討 を主体とした推進体制とする。 病院情報システム構築関連強化、 竣工開院に向けた体制を整える。 ①-2 実施設計に基づく内観、サ イン等の計画、実質的検証を重 ねる。 ①-3 システム設計、システム導 入作業に着手する。 ①-4 葛飾区と連携し、周辺道路 の拡張整備およびインフラ整備 の折衝を行う。
●第三病院に関する目標	●第三病院に関する目標を達成するためにとる べき措置		
(1) 信頼される地域中核病院になる。	①診療に関する情報を公開する。 ②地域住民や行政への医療啓蒙行事を更に充実 させる。 ③患者に対する対応を見直し改善を図り、積極 的に患者を受入れる。	第三病院 業務課 第三病院 管理課 第三病院 運営会議	①-1 診療科研究実績、診療成績 を全診療部で開示する。 ①-2 第三病院 BSC の全教職員 への周知と情報の見える化を推 進する。 ②-1 公開健康セミナー・ホスピ タルフェアを開催し、地域の健 康増進に積極的に取組む。 ③救急医療のあり方検討会を通し て、診療体制の改善を進める。 ・病床管理システムを導入に向 けて、PFM を推進する。
(2) 財政基盤を磐石にする。	①医療材料コストを見直す。	第三病院 管理課	①患者単位の手術材料コスト管理 を実施し、医療消耗品の経費削 減を進める。
(3) 優秀な人材を確保する。	①診療部を評価する。	第三病院 管理課	①各診療部の多面評価によるベスト 診療科選出を実施する。
(4) 特色ある医療を強化する。	①森田療法センターを本学の特色ある医療とし て内外に強く再アピールする。 ②各科の診療内容実績を分かりやすくアピール する。	第三病院 管理課	①ホームページのタイムリーな更 新や親しみのあるパンフレット を作成する。 ②各科別の診療案内パンフレット を作成する。
(5) 信頼関係に基づいた病診・病病連 携を実践する。	①病診連携、病病連携のための強化を図る。	第三病院 業務課 第三病院 管理課	①-1 効率的病床運用のための後 方連携強化を行う。 ・病診・病病連携の強化策を講 じる。 ①-2 近隣医師会並びに近隣医科 大学との情報交換を継続する。
(6) 「お年寄りにも優しい病院」を目 指す。	①高齢者に対する対応策を検討する。	第三病院 運営会議	①高齢者医療の施設および医療経 済の実情や将来予測についての 勉強会を開催し、療養病床のあ り方を検討する。
(7) 癒しの病院環境を醸成する。	①施設改修による療養・職場環境改善を持続的 に実践する。	第三病院 管理課	①病床の効率運用の推進と療養病 床のあり方について継続検討す る。また、2C病棟の改修工事 を行う。

中 期 目 標	中 期 計 画	主体部署	平成 22 年度 事業 計画
	②入院患者向け行事を開催する。	第三病院 管理課	②各種「癒しの行事」を継続開催する。
●柏病院に関する目標 (1) DPC に対応した医療の標準化・効率化を推進する。	●柏病院に関する目標を達成するためにとるべき措置 ①包括化による減収を回避する。 ②DPC 導入に合わせ医療の効率化、標準化による安全を確保する。	柏病院 DPC 導入 TF クリバス 委員会 柏病院 業務課	①全クリニカルパスをオーダ化しパス内容を改善する。イントラネットを活用し、クリニカルパス内容を迅速に共有、改善できるシステムを構築する。 ②DPC データを用いて第三病院、青戸病院とのベンチマーク分析を実施する。
(2) がん診療連携拠点病院として必要な高い診療機能を整備する。	①がん診療連携拠点病院として必要な施設を整備する。 ②がん診療連携拠点病院として必要な地域連携を整備する。	柏病院 地域がん 診療連携 拠点病院 運営委員 会	①化学療法を実施する患者を極力外来化学療法室へ移行する。 ②千葉県がん診療連携協議会地域連携クリティカルパス専門部会に参画し、更に「5 大がん・脳卒中・急性心筋梗塞」の地域連携パス導入に取り組む。
(3) 手術件数を増加させると共に、手術増加に対応できるシステムを構築する。	①手術件数の増加を図る。 ②救急受入れ患者の増加を図る。	柏病院 手術部 管理課 柏病院 救急体制 改善ワー キング・ グループ	① - 1 手術室・中材・ICU 運営委員会等にて手術件数等の目標を設定し改善を図る。 ① - 2 ピッキング業務の委託化を検討し手術室運用の効率化を推進する。 ・手術件数増加に対応する病床運用、PFM を導入する。 ②ワーキング・グループで救急受入れ体制を検討し、救急患者の増加を図る。
(4) 病院機能を充実させる。	①地域（柏市）が求める外来、入院機能の拡充、高度化を検討する。	柏病院 将来構想 検討委員 会 柏病院 PACS 設置準備 委員会 柏病院 将来構想 検討委員 会	① - 1 患者増を図る。無菌治療センター化による効率的な治療と増収を図る。病室改修再編で増収を図る。 ① - 2 PACS 化の拡大、拡充を継続検討する。 ① - 3 外来部門、個室のリニューアル改修を行い患者アメニティの向上を図る。
(5) 電子カルテの導入を検討する。	①導入によるメリット、デメリットを検討する。	システム課	①システムを評価し IT あり方検討委員会等で検討を進める。
II. 業務運営の改善及び効率化に関する目標 1. 運営体制の改善に関する目標 ・理事会機能の強化を図る。 ・法令遵守の徹底を図る。 ・広報活動を充実する。 ・法人運営の総合的計画立案機能を強化する。	II. 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置 1. 運営体制の改善に関する目標を達成するためにとるべき措置 ①理事会機能を検証する。 ②慈恵大学行動憲章・行動規範を徹底する。	総務部 大学自己 点検評価 委員会 人事課 広報課 教員医師 人事室	①法人運営を効率的に進める組織体制を検証する。 ②行動憲章、行動規範を在職者に周知するプログラムを作成する。

中 期 目 標	中 期 計 画	主体部署	平成 22 年度 事業 計画
	③補助金、業務等の内部監査の実施により、内部統制の強化を推進する。 ④個人情報保護の継続的注意を喚起する。 ⑤本学の情報（社会貢献、研究成果、医療貢献）を学内外に発信する。 ⑥有事の際の広報体制確立と情報統制を確立する。 ⑦事業計画の実施状況を確認する。 ⑧BSC を普及拡大し、目標と進捗を把握、評価する。	監査室 総務課 （個人情報保護委員会） 広報課 企画部	③補助金監査、業務監査の実施および監事との連携を強化する。 ④外部講師による講演会を実施し、注意喚起を行う。 ⑤- 1 大学、附属病院に関する情報収集と広報手続き運用方法の仕組みを確立し、ホームページによる情報発信を推進する。 ⑤- 2 大学広報誌（「The JIKEI」等）の企画段階より同窓会と連携して効果的な情報発信を推進する。 ⑥マスコミ対応マニュアルのブラッシュアップを行う。 ⑦BSC による事業計画の実施プランを拡大する。BSC 作成部門では事業計画と整合性をチェックする。 ⑧BSC 新規作成部門を選定しワーキンググループを実施する。
2. 人材活用に関する目標 <ul style="list-style-type: none"> 人材育成のための教育制度を構築する。 業務の効率化を図り人件費を抑制する。 	2. 人材活用に関する目標を達成するためにとるべき措置 ①職員の人材育成制度を強化する。 ②人事評価システムを充実させる。 ③業務の見直し、配置人員の見直し、業務効率化と人件費抑制を図る。 ④教職員の定着率を高める。 ⑤青戸看護専門学校閉校後に対する看護師確保体制を確立する。	人事課 教員医師 人事室 システム課 教員医師 人事室 人事課 人事課 給与課 人事課 企画部 人事課 人事課 看護部	①新任管理職員研修プログラム 2 年目の検証を行う。 ②（学長諮問会議等における昇格審査等）本システムの情報の活用を図る。 ③- 1 IT、業務改善、アウトソーシングによる人員計画を策定する。（青戸病院開設時の保守要員数と経費、既導入病院（本院、柏）の保守対応時間）（期限付契約職員の雇用管理上の問題点の把握と修正） ③- 2 人件費抑制対策を検討し、抑制策を策定する。時間外手当抑制の具体策を策定し実行する。（時間外労働の総量制限の管理方法の策定） ③- 3 各部門の業務標準作業書作成状況を把握し、作成を推進する。 ④集計結果の利用方法についても勘察し、教職員自己評価アンケートを実施する。 ⑤計画的人事異動の拡大により看護師を確保する。
3. 事務の効率化・合理化に関する目標 <ul style="list-style-type: none"> IT 導入による効率化を実現する。 	3. 事務の効率化・合理化に関する目標を達成するためにとるべき措置 ①適正な IT グランドデザインを構築し、IT 戦略を策定する。 ②附属 4 病院にオーダリングシステムを導入し、効率化と患者満足度の向上を図る。	システム課 業務課 システム課	①中長期計画の IT 投資適正化の検証組織を策定する。 ②レジメンオーダと処置オーダの稼動に向けて運用調整を進める。

中 期 目 標	中 期 計 画	主体部署	平成 22 年度 事業 計画
	<p>③ネットワークの更新と再構築を行う。</p> <p>④経営管理データを一元管理し、経営判断を迅速に行える環境を構築する。</p>	<p>システム課</p> <p>企画部</p>	<p>③ネットワーク更新計画を策定し、第三病院のネットワーク更新を実施する。</p> <p>④システム上抽出可能なデータを含め一元管理について検討を行う。</p>
<p>Ⅲ. 財務の改善に関する目標</p> <p>1. 収支改善・外部資金獲得に関する目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 安定した経営基盤を確立する。 機動的な小グループ（タスク・フォース）の取り組みにより経営改善を推進する。 第三病院、柏病院の収支構造を改善する。 科学研究費補助金・経常費補助金の獲得・増加に努める。 	<p>Ⅲ. 財務の改善に関する目標を達成するためにとるべき措置</p> <p>1. 収支改善・外部資金獲得に関する目標を達成するためにとるべき措置</p> <p>①予算実績管理体制を強化して効率的な運用推進の仕組みを策定する。</p> <p>②経営改善重要項目ごとに検討組織を設置し改善を推進する。</p> <p>③科学的な分析に基づき医療収支の改善を推進する。</p>	<p>企画部</p> <p>財務部</p> <p>経理課</p> <p>業務課</p> <p>第三病院</p> <p>柏病院</p> <p>研究支援課 大型プロジェクト委員会 教育研究助成委員会</p> <p>業務課（本院、青戸、第三、柏） 企画部</p>	<p>①-1 中期計画の財務的な裏づけを検討できる組織へと発展させる。</p> <p>①-2 収支状況の月次把握を実現する。</p> <p>①-3 未収金回収委託業務を推進し、効果を検証する。</p> <p>②-1 第三病院、柏病院の収支構造を改善するためにあり方を検討し、マスタープランを作成する。</p> <p>②-2 手術室効率運用による手術件数の増加、病床の効率運用により増収を図る。外来患者の増加を図る。</p> <p>②-3 研究費補助金の獲得に向けて公募の周知と申請の徹底を図る。</p> <p>③疾病別の医療収入の把握とタイムリーな原価計算作業を行い、改善を推進する。</p>
<p>2. 経費の抑制に関する目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 物流の効率化、一括購入により経費を抑制する。 各種資源の消費を削減する。 IT 関連経費の適正化を図る。 	<p>2. 経費の抑制に関する目標を達成するためにとるべき措置</p> <p>①物流の見直し、購入組織の見直し、個別、疾病別の医療材料費を把握することにより改善を推進する。</p> <p>②医療経費の抑制を図る。</p> <p>③エコ活動を推進し、電気・ガス・水道・重油・電話・コピー・酸素等の経費削減を図るための具体策を実行する。</p> <p>④IT グランドデザインに基づく IT 投資計画、包括的な IT 関連経費の適正化を推進する。</p>	<p>施設課</p> <p>管理課 企画部</p> <p>施設課</p> <p>財務部 総務部 企画部</p>	<p>①データを活用して改善を検討し、共同購入の推進により経費を削減する。</p> <p>②4 病院医療材料・物流検討 WG で継続的に医療経費（医材）をモニターし、評価する組織として継続させる。</p> <p>③全学対象の省エネルギー推進委員会を設置する。</p> <p>④IT の全体計画、適正金額の評価、執行を判定する組織の設置。IT 経費の適正化の評価を実施する。</p>
<p>3. 資産の運用管理の改善に関する目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 全学的かつ経営的視野に立った資産の効率的な運用を図る。 	<p>3. 資産の運用管理の改善に関する目標を達成するためにとるべき措置</p> <p>①施設・設備の効率的な維持管理と計画的整備を図る。</p> <p>②機器・備品の効率的な管理、投資計画を策定する。</p>	<p>施設課</p> <p>財務部</p>	<p>①施設・設備計画を策定する組織を設置し、効率的な維持管理を実施する。</p> <p>②慈恵実業と協働で機器登録管理システム導入を検討する。</p>

中 期 目 標	中 期 計 画	主体部署	平成 22 年度 事業 計画
<p>IV. 自己点検・評価の充実に関する目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 点検・評価結果を公表し、改善につなげる。 	<p>IV. 自己点検・評価の充実に関する目標を達成するためにとるべき措置</p> <p>①自己点検・評価を公表し、運営（中期目標・計画、支援、設備整備等）に関わる検討組織の審議に反映できるシステムを構築、運営する。</p>	<p>総務課 大学事務部</p> <p>医学科 看護学科</p>	<p>①-1 ホームページで評価結果報告書の公開等、社会に公表する。</p> <p>①-2 大学基準協会の提言事項を委員会にて審議し改善対応を継続する。</p> <p>平成21年度大学基準協会自己点検評価により、指摘された内容の改善を推進する。</p>
<p>V. その他事業運営に関する重要目標</p> <p>1. 青戸病院リニューアルに関する目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 基本方針・基本コンセプトに基づく新病院を開設する。 	<p>V. 財務の改善に関する目標を達成するためにとるべき措置</p> <p>1. 青戸病院リニューアルに関する目標を達成するためにとるべき措置</p> <p>①青戸病院 TF を設置し、リニューアル計画を推進する。</p> <p>②青戸病院リニューアル委員会を設置し、リニューアル TF と連携し、基本事項決定および行政折衝等を推進する。</p>	<p>青戸リニューアル委員会</p>	<p>①②工事期間中の諸問題、外溝工事、IT 関連事項、移転・開院に向けた事項を検討する。</p>
<p>2. 附属病院外来棟建築に関する目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 本院外来棟の建築（着工：平成24年度目標）。 	<p>2. 附属病院外来棟建築に関する目標を達成するためにとるべき措置</p> <p>①西新橋キャンパス全体を視野に入れ建築計画を策定する。</p> <p>②附属病院の機能分化と西新橋キャンパスの有効利用を考慮した外来棟の基本コンセプトを策定する。</p>	<p>マスタープラン検討委員会</p>	<p>①マスタープラン検討会を通じ本院外来棟の建築スケジュール・プロジェクトプランを検討する。</p> <p>②本院機能、分院機能、西新橋キャンパスでの教育研究機能も考慮し本院外来棟の基本コンセプトを策定する。</p>
<p>3. 大学マスタープランの策定に関する目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 明確な長期マスタープランを策定する。 	<p>3. 大学マスタープランの策定に関する目標を達成するためにとるべき措置</p> <p>①教育・研究・診療機能を総合的に考慮したマスタープランを策定する。</p>	<p>マスタープラン検討委員会</p>	<p>①建築専門家などを加えてマスタープラン検討委員会活動を再開する。</p>
<p>4. 創立130年記念事業に関する目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 130年記念事業を実施する。 事業実現に必要な寄付金を確保する。 	<p>4. 創立130年記念事業に関する目標を達成するためにとるべき措置</p> <p>①"共に歩む慈恵"にふさわしい記念事業を実施する。</p> <p>②記念事業に必要な寄付金を募集する。</p>	<p>130年記念事業委員会</p>	<p>①生涯学習の協力体制を構築する。</p> <p>②130年記念式典を挙げる。</p>
<p>5. 大規模災害時の対応に関する目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 大規模災害発生時の危機管理体制を構築する。 	<p>5. 大規模災害時の対応に関する目標を達成するためにとるべき措置</p> <p>①大規模災害発生時の4機関連携体制対策指針を整備する。</p>	<p>総務課</p>	<p>①大規模災害発生時の4病院の連携を図るため、継続して、災害対策訓練を計画、実施する。</p>